

出石藩

御用部屋日記

文政

十年

一月

出石町公民館蔵

文政十丁亥年

御用

日記 大森登

正月大

沙年分  
 沙小姓類  
 沙州人  
 沙勝子百濟人  
 沙州額  
 沙州額  
 町古行  
 沙劫安里行  
 沙後古行  
 沙同行  
 沙經目付  
 沙普信其行  
 沙經元大  
 桑之定行

大森登  
 膝部孫孫孫  
 七郎孫  
 竹村丹解  
 西山園造  
 稻垣源造  
 谷津平左衛門  
 古田彦右衛門  
 若女孫  
 桑村孫  
 谷野猪右衛門  
 河合忠藏  
 水原九郎  
 津村吉郎

大沼

西井上之野屋  
 西山榮造

嘆息  
 荒木甚壽  
 田平左衛門

元日

沙小娘在沙上之  
沙小娘在沙上之

五時出宅在東京始沙年身共仙在元日  
西御殿江出仕年願沙役儼中上沙菴菜汁飲  
被發行連發頂戴之

但四續士其日仙在沙上  
能登年願沙役儼中上

五半時惣仕事

沙小娘方上年願沙役儼沙用人元日

上年願沙役儼中上

右同刻

仙不在元日

沙小娘願

沙用人

酒白  
破壁深處

長岡古市

秋系 聖天下山

右今相初在元日

沙小娘願中上  
沙小娘願中上

沙小娘願中上  
沙小娘願中上

左家

去年正月後後日... 存... 存...

年... 存...

年... 存... 存...

一 左... 存... 存...

沖... 存...

四... 存... 存... 存...

山... 存...

山... 存...

右... 存...

一 右... 存... 存...

中... 存...

一 七... 存... 存...

一 四... 存...

四... 存... 存... 存...

一 四... 存...

昔... 存...

沖... 存... 存... 存...

二日

一 依... 存... 存... 存...

津島三不称物  
有也序

仙石室討

二日

休日 西津殿より今日津島後何處へも  
津島  
津島行生

大元

以原

根の心村殿

吉野殿

同日

津島

津島

右明の法と云ふは、  
余の所聞するに、  
是より右に、  
本音打撃し、  
右何月何日、

四日

休日

西津殿より向山細く、

經日寺

津島

仙石室討

本音打撃物屋中

六日 一統新市

- 江戸表と在役の三日月津門番所仕
- 江戸表と在役の三日月津門番所仕
- 但しお徳一統新市へ入居中
- 本國江島知事 六年江戸後援者
- 江戸表と在役の三日月津門番所仕
- 江戸表と在役の三日月津門番所仕
- 江戸表と在役の三日月津門番所仕
- 江戸表と在役の三日月津門番所仕

六日

休日 江戸表へ向出細見

七日

- 江戸表と在役の三日月津門番所仕
- 江戸表と在役の三日月津門番所仕
- 江戸表と在役の三日月津門番所仕
- 江戸表と在役の三日月津門番所仕
- 江戸表と在役の三日月津門番所仕

一回江戸表へ向出

江戸表と在役の三日月津門番所仕

藤原志  
山村久

一 山崎屋の如物付書  
一 山崎屋

信年之世沙卷の如美歌子乃之離子也  
此も如物付書也

一 左之世可也  
右之世可也  
右之世可也  
右之世可也  
右之世可也

十右  
十右

可也  
可也

十九  
十九

可也  
可也

女了  
女了

可也  
可也

女了  
女了

可也  
可也

一 右之世可也  
右之世可也

右之世可也  
右之世可也  
右之世可也  
右之世可也

正月七日

大森全

山崎屋

一 右之世可也  
一 山崎屋

左ノ毎日致高致中後也

甲日之句  
町府信

口坊

信信  
信湖  
信依

八日

休日 西津殿より向山小細へ書

新及殿 濱地  
町府

末田静馬  
山村貞

日向人之区

博別津年流 津代系  
道中 寺澤 町府

矢張寛之

一 山形野行区

給一実社信子一也  
津武道津長之 津新橋合より二  
寺橋外信子 津武道より一也

九日

休日

西津殿より向山小細へ書

十日

休日 西津殿より向山小細へ書

十日

一 休日 西津殿より向古山納戸へ至る  
一 寺社参り行進

福来寺

一 休日 西津殿より向古山納戸へ至る  
一 寺社参り行進  
一 同日 西津殿より向古山納戸へ至る  
一 寺社参り行進

西津殿

向古山

納戸

福来寺

西津殿

向古山

納戸

十一日

十一日

一 休日 西津殿より向古山納戸へ至る

十一日

一 休日 西津殿より向古山納戸へ至る

十日

一 休日 西津殿より向古山納戸へ至る

十六日

一 何列公仕 西津殿 麻子下之月 菅為後俊  
出仕家ノ系始 同齊共之也 沖目合 仁付  
沖殿身 沖殿身 遊何子ノ頂戴ノ

他布ノ毎ノ取付 出仕者ノ時者ノ 沖目合 菅  
何ノ毎ノ取付 出仕者ノ時者ノ 沖目合 菅

一 沖子種也 出曾 沖殿後 本國平庭ノ 菅ノ下

一 因歩 菅ノ下

菅ノ下

沖小姓  
沖目人  
酒白信  
核北海

一 左ノ毎 沖目用 菅切 出 菅ノ下 菅ノ下

菅ノ下

菅ノ下 菅ノ下 菅ノ下 菅ノ下 菅ノ下  
菅ノ下 菅ノ下 菅ノ下 菅ノ下 菅ノ下  
菅ノ下 菅ノ下 菅ノ下 菅ノ下 菅ノ下

菅ノ下

菅ノ下 菅ノ下 菅ノ下 菅ノ下 菅ノ下  
菅ノ下 菅ノ下 菅ノ下 菅ノ下 菅ノ下  
菅ノ下 菅ノ下 菅ノ下 菅ノ下 菅ノ下

菅ノ下

菅ノ下

菅ノ下

菅ノ下 菅ノ下 菅ノ下 菅ノ下 菅ノ下  
菅ノ下 菅ノ下 菅ノ下 菅ノ下 菅ノ下  
菅ノ下 菅ノ下 菅ノ下 菅ノ下 菅ノ下

是為後之江流文如...  
此之於文...  
...  
...  
...

後日...

小倉...

名後...  
...  
...  
...  
...

日向...

日向...

名後...  
...  
...  
...  
...

存...

古...

名後...  
...  
...  
...  
...

水...

名後...  
...  
...  
...  
...

久...

名後...  
...  
...  
...  
...

西...  
...  
...

名後之中... 此之於文...

山標...

名後之中... 此之於文...

引...

山標...

山標...

名後之中... 此之於文...

山標...

名後之中... 此之於文...

名後之中... 此之於文...

山標...

名後之中... 此之於文...

山標...

名後之中... 此之於文...

山標...

名後之中... 此之於文...

山標...

名後之中... 此之於文...

小泉

古活板  
香目付  
池目付

名後沙香墨古活板香目付池目付  
何月重三郎為之  
行交厚紙一人合三張存云

泉如  
古活板  
池目付

名後世故人合古活板  
何月重三郎為之  
厚紙一人合三張存云

小泉  
池目付

名後池目付  
何月重三郎為之  
厚紙一人合三張存云

名後沙香墨古活板香目付池目付  
何月重三郎為之  
行交厚紙一人合三張存云

小泉  
池目付  
香目付  
池目付

名後沙香墨古活板香目付池目付  
何月重三郎為之  
行交厚紙一人合三張存云  
一  
池目付



西行傳

卷八

一日

梅峰

仙下

古之文三三回

...

十六日

休日 西津殿

十七日

例日出仕 西津殿

...

水原九郎

西津殿... 仙下...

小林

西津殿... 仙下...

右...

...

私後...

西津殿...

仙下...

九月... 沖教... 相... 兄... 有... 涉山姓

文政十丁亥正月十七日

小林貞名

長尾若中殿  
伴村丹解殿

一 四月八日

左邊... 右邊... 沖教... 文政十丁亥正月十七日

六月十七日

六月十七日

六月十七日

六月十七日

一 四月八日

右邊... 左邊... 沖教... 文政十丁亥正月十七日

小林貞名  
伴村丹解  
長尾若中  
沖教

十八日

山田誠

一 休日 西沖殿... 山田誠

十九日

一 份利出仕 西津敏之 同仰 通名

倉石 梢

母後經年家系在延平年... 本村在代名... 向... 列...

但... 列...

一 友之丞

西津敏之 同仰 入之丞 下後

小林 良吉

水原九郎... 野原... 津小姓... 津敏之... 津敏之...

津敏之

但... 津敏之...

一 友之丞 同仰 入之丞 下後

小林 良吉

才良名後水原九郎... 津敏之... 津敏之...

津敏之

津敏之

長... 津敏之...

女... 津敏之...

津敏之

一 出月人送

友之通交配後分中渡也

尚早日上有

出音浩

深中津乃江初

合之之氣始

山本

浩春

一 江戸表當日八日出立是使相其意

殿極其始

上之極是沖城垣所行遊津越蔵元日 津代

次津使名津路行 伊之三日津新之元音津

其為海七日

大殿極津使名之沖新之元音為海多之津用為

友之通之來同津中上之氣之氣也

西沖敵上之 津徒

十月方

一 友之通中之動之之氣之氣也及下之氣之氣也

物之支持氣之氣也同其之氣之氣也及下之氣之氣也

其氣相海也

宣政元年上江

仁皇國教之使當年新親法給中音之氣

極付以之早法之使而天孫言出此往回也其入

不之新之入之對等之氣之氣也及下之氣之氣也

心之他右之氣之氣也及下之氣之氣也

新系之門替國也及下之氣之氣也

其後其國也

十月方在左之氣也

其十日

津家之氣

信田物之氣

十月方在左

一 友之通中之動之之氣之氣也及下之氣之氣也

少私寡欲

宣統元年

仁出公國教... 植貨... 荊... 之... 中... 之... 新... 古...

戊子年

信田...

但右... 仁... 年...

一... 仁... 年...

私... 仁... 年...

十二月六日

許名

仁... 年... 仁... 年...

仁...

早川...

...

右... 仁... 年... 仁... 年...

相承月形、通中其涉、信田氏、此後忠臣、  
使志、此後忠臣

十二月十八日

信田物次

文政九  
一 仙石道、物守、外早川、浪浪、  
相承月形、通中其涉、信田氏、此後忠臣、  
使志、此後忠臣

十二月十八日  
一 明日、誠言、  
向、此後忠臣、

信田物次  
此後忠臣

170  
各中書  
中書  
中書

蘇樹  
師範  
志活全  
白丹

171  
一 忽出仕歲年法後海

沖國使臣 仁丹

172  
一 法向以佛方官所相海

一 忽出仕年法後海

沖國使臣 仁丹

173  
一 年法 沖國代官所相海

仁丹

174  
一 唯是然之 沖國代官所相海

175  
一 今非沖國代官所相海

176  
一 故付以下  
沖國使臣

河神丹

古來七百

大銀箱年法後海

仁丹古 仁丹

一 古 仁丹

沖國使臣  
仁丹

河神丹

177  
一 沖國使臣 仁丹

沖國使臣 仁丹

一 久自 仁丹

178

古來

河神丹

大政権年法使不常相物也

十百廿六

秋分大陽年法使  
細川隆光

大正  
秋分能為法使  
黒田隆光

右ノ母法使 任有法使為法知事也

一 右ノ母法使  
河外ノ法使

右一母ノ小政人下

沖田良ノ年法使為法使自公ノ法使也

中法使

一 右ノ母法使ノ法使也

沖田良ノ法使  
河外ノ法使  
三ノ法使

貝塚隆光  
法使

一 右ノ母法使ノ法使也

河外ノ法使

河外ノ法使  
系八

沖田良

河外ノ法使

河外ノ法使

河外ノ法使

河外ノ法使

河外ノ法使  
河外ノ法使

河外ノ法使

河外ノ法使  
河外ノ法使

一 右ノ母法使ノ法使也

大目付也

右ノ母法使ノ法使也

右ノ母法使ノ法使也

河外ノ法使

古武先判之候に在りし事御信成候

任出候条古武先判前候に在りし事御信成候  
引替前候事御信成候事

古令取付御信成候後在りし事御信成候  
御信成候御信成候御信成候御信成候

古武先判之候に在りし事御信成候  
古令取付御信成候御信成候御信成候

古令取付御信成候御信成候御信成候  
古令取付御信成候御信成候御信成候

古令取付御信成候御信成候御信成候

十二月

古令取付御信成候御信成候御信成候

十二月

松平大和守

古令取付御信成候御信成候御信成候  
古令取付御信成候御信成候御信成候

十二月

松平大和守

古令取付御信成候御信成候御信成候  
古令取付御信成候御信成候御信成候

十二月

井伊掃部

古令取付御信成候御信成候御信成候  
古令取付御信成候御信成候御信成候

松平越中

元年 丙午

丙午 丙午

丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午

丙午 丙午

丙午 丙午

丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午

丙午 丙午

丙午 丙午

丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午

丙午 丙午

丙午 丙午

丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午

丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午

丙午

十二月廿六日

初候

院候

大雪候

大雪候

大雪候

清江 丙午

秋月 丙午

森 丙午

丙午 丙午

黑田 甲寅

丙午 丙午

右 丙午

右 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午

丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午 丙午

丙午

一 夜半時以大事以法政一多如早迷相結の旨  
西津殿の旨を成候へば海内亦亦御心合ふ事  
但左京の御心合ふ事

河津殿

一 右京の旨は古より一歳の迄も右京の旨は古より  
り心早迷消過りて中大清の旨は古より  
中迄

右京の旨は古より一歳の迄も右京の旨は古より  
り心早迷消過りて中大清の旨は古より  
中迄

河津殿

一 右京の旨は古より一歳の迄も右京の旨は古より  
り心早迷消過りて中大清の旨は古より  
中迄

女日

一 休日 西津殿の旨は古より一歳の迄も右京の旨は古より  
り心早迷消過りて中大清の旨は古より  
中迄

母候の旨は古より一歳の迄も右京の旨は古より  
り心早迷消過りて中大清の旨は古より  
中迄

右京

一 右京の旨は古より一歳の迄も右京の旨は古より  
り心早迷消過りて中大清の旨は古より  
中迄

母候の旨は古より一歳の迄も右京の旨は古より  
り心早迷消過りて中大清の旨は古より  
中迄

涉後必敗之... 涉後必敗之... 涉後必敗之...

正月廿九日

大德堂

右... 涉後必敗之... 涉後必敗之...

廿一日

西所... 涉後必敗之... 涉後必敗之...

欠日... 涉後必敗之... 涉後必敗之...

仙利出仕

涉後必敗之... 涉後必敗之...

一回... 涉後必敗之...

涉小姓... 涉利人... 酒白... 破壁...

涉後必敗之... 涉後必敗之...

辰極其始

上之極是也冲極始於此遊沙極歲之日

冲極代法後之名法法也

石之法然之為音序法後之法後也

陽

中

右行理也法後之名法法也

中本行理也法後之名法法也

解其法在法之三

山村負  
二男  
荒木

廿二日

休日 西津殿 向來細合卷

廿三日

休日 西津殿 向來細合卷

休日 西津殿 向來細合卷

他前六日法後之名法法也

右

正

田原中

右八十八歳之右取首有之右本係八老母也  
一子取首有之

一右取首有之右取首有之右本係八老母也  
因係一子取首有之

一右取首有之

右係二五  
後係一係  
厨子箱

右取首  
一子

右八十八歳之右取首有之右本係八老母也  
一子取首有之

一右取首有之一五今之右取首有之  
取首有之右取首有之一五今之右取首有之

一西取首有之右取首有之右取首有之  
一子取首有之

右取首  
右取首

右取首  
右取首  
右取首

右取首  
右取首

右取首  
右取首  
右取首

右取首  
右取首

右取首  
右取首  
右取首

右取首  
右取首

右取首  
右取首

一 江表... 行... 志... 人...

女冒

一 休日 西津... 向...

大... 津...

山村貞

女六日

一 御別出仕 西津... 向...

...

右津... 津...

...

右... 津... 津...

一 津...

...

...

...

...

一 津...

...

...

...

若くは心算物区留物に厚くお事只  
若くは月古く毎々思ふ事

一 宗門の事

友々相問有句一毎々後

二月十日

三月十日

三月十日

野中宗茂

町田忠吉

町田利和

一 宗門の事 津月状を付し月入るに後

妹病凡そ和休中津月状を付し月入るに後

津月状を付し月入るに後

丹木色

但し年終中一二月迄は三六の御事申部迄は病御事  
宗門の事相問有句一毎々思ふ事

女六日

一 休日 西津殿より信濃山御事

一 信濃山御事 後多し申事 丹木色  
一 信濃山御事

安斎宗茂

古田孝吉

若くは

津月状

若田丹次

二友快助

并上章介

西山忠吉

若くは

津月状

若田丹次

津月状

中村忠吉

河津忠吉

高九郎宛  
栗本之介

世尊  
廣

有同  
小林 換 宛

世尊  
他病

三人

高九郎宛  
栗本之介

新井 宛

小出 宛

横山 宛

橋本 宛

橋本 宛

萩 宛

大田 宛

右記

廿七日

- 一 御別出仕 西津殿
- 二 御別出仕 西津殿
- 三 御別出仕 西津殿

沙月人役  
中山  
中

女友 宛

沙月人役  
初

西

金後山岩尾山山山山山  
嘉善年八月廿八日  
...

山山山山山山山山山山  
山山山山山山山山山山  
山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山  
山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山  
山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山  
山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山  
山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山  
山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山  
山山山山山山山山山山  
山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山  
山山山山山山山山山山

古田素美

荒木甚也

植松所定

谷 親也

神谷市美

若田丹美  
後村海定

中村所定

工友成也

重田甚也

井上素美  
河村所定

山山山山山山山山山山  
山山山山山山山山山山

地音致

江陰府志卷之四

可也以後者乃行也

西行叙

山本姓上之在  
山本姓上之在

小林樸野

世道無因及

世道無因及

小林樸野

病乃身也

病乃身也

小林樸野

家道方乃進

家道方乃進

小林樸野

口口口口口口口口口口

口口口口口口口口口口

世道無因及

世道無因及

小林樸野

山本姓上之在  
山本姓上之在

當今之事

當今之事

山本姓上之在

山本姓上之在

小林樸野

山本姓上之在

山本姓上之在

小林樸野

以終其身

甘泉先生

一 友之過曰級

忘危事

山岡村の古くは

清用とあるが明後  
山岡村の古くは

中山姓組  
同族  
中山小姓  
山岡村

古くは山岡村

山岡村  
中山小姓  
山岡村

古くは山岡村

山岡村

古くは山岡村

但古くは山岡村

山岡村

古くは山岡村

古くは山岡村

古田村

新井村河原邊寺所

栄木寺

御免  
中山尾島代り

原山雲軒の元  
所主系より代り

梶田寺

廿八日

一 休日 西津飯より向物へ参る

一 大飯権太守時由依後宮津社系法経寺

向物寺名記及  
寺より東へ  
向物寺名記

栄木寺  
休村寺

廿九日

一 御別出仕 西津飯より向物へ参る

一 方へ参りし由御免中渡し

四月廿九日出陣

休村寺  
中津飯

今般荒木尾へ参り後加波山御免より参る

休村寺  
御免  
休村寺

右口以

休村寺  
休村寺

左へ参りし由御免中渡し  
休村寺  
休村寺

孫子之世也

今般發亦不知其後  
何月日年時在處也

引陸段  
地子段  
以代友  
平劫是  
勢多也段

年以公事也... 今之公事也... 向... 一

一  
在之世也... 同... 公... 尾... 仲... 也... 也...

小泉洞也  
杉立... 公長

以小姓也  
同... 中... 小姓  
少...

一  
今般發愛忠... 尾... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也...

但... 向... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也...

石印本及手校  
四庫全書

西山先生

右一印本指校有泚之志引海之志以在唐  
車引之志云云之校字在卷之十校字之志  
之校字之志在右每及之志  
左之志大清英皇校字海之校字在後  
卷之十之校

大清  
武書全書

丹上之字

唯唯且痛之編出校清矣  
川之志者

核校全書

川之志者

新校  
古田先生

唯唯且痛之編  
武書全書

公田平矣

川之志者

新校  
古田先生

右一印本指校有泚之志引海之志以在唐  
車引之志云云之校字在卷之十校字之志  
之校字之志在右每及之志  
左之志大清英皇校字海之校字在後  
卷之十之校

右一印本指校有泚之志引海之志以在唐  
車引之志云云之校字在卷之十校字之志  
之校字之志在右每及之志  
左之志大清英皇校字海之校字在後  
卷之十之校

海之志  
古田先生

右一印本指校有泚之志引海之志以在唐  
車引之志云云之校字在卷之十校字之志  
之校字之志在右每及之志  
左之志大清英皇校字海之校字在後  
卷之十之校

山鹿屋結  
或入屋下

山鹿屋結或入屋下  
山鹿屋結或入屋下

山鹿屋結

山鹿屋結

山鹿屋結

山鹿屋結

山鹿屋結

山鹿屋結

山鹿屋結

山鹿屋結  
山鹿屋結  
山鹿屋結

山鹿屋結

山鹿屋結

山鹿屋結

山鹿屋結

山鹿屋結

山鹿屋結

山鹿屋結

山鹿屋結

山鹿屋結

山鹿屋結

山鹿屋結

山鹿屋結

山鹿屋結

山鹿屋結

山鹿屋結

山鹿屋結

山鹿屋結

山鹿屋結

山鹿屋結

山鹿屋結

山鹿屋結

山鹿屋結

山鹿屋結

山鹿屋結

其少者智相多向

横山并办

古月月余休 鹤年云在回常色水系  
云清书海流上卷

一 未月之月者

西津叙上三 冲能

一 友之思以叙其月日事

又者之思自叙其月

荒本系

在月如八卯入月 叙其月日事

一 月之思

友之思自叙其月日事

抄端

侍能

其少者智相多向

晦日

一 休日 西津叙上三 向何思云

其少者智相多向

本回德

其少者智相多向

其少者智相多向

出石藩

御用部屋日記

文政十年二月

出石町公民館蔵

文政十丁亥年

沖田守

日記山村貢

二月小

少年秀  
西心狂  
西心狂  
西心狂  
西心狂  
西心狂  
西心狂  
西心狂  
西心狂  
西心狂

山村真  
山村真  
山村真  
山村真  
山村真  
山村真  
山村真  
山村真  
山村真  
山村真

火酒

舟之野  
破

道化海

杉原宿  
路因年

知日

一 仙舟出仕 西澤屋前昔是法法後何得感德一紙由

此山開入之志也

一 許子海子之志也夫古國市為之志也

一 國用經心之志也夫

許小姓  
少利人  
酒自信  
破此應

一 今粒 許地也夫夫心則系并夫志也

一 先日市之志也夫夫心則減并夫志也

一 上後他并夫志也夫夫心則上并夫志也

一 上並并夫志也

一 上痛也夫夫心則上痛也夫夫志也

真野書

一 小痛也夫夫心則小痛也夫夫志也

真野書

一 二男也夫夫心則二男也夫夫志也

一 一男也夫夫心則一男也夫夫志也

西山年古

一 山姓公

一 牙也夫夫心則牙也夫夫志也

長谷川

一 長谷川

山橋武具行

山橋武具行

山代友

席上

山代友

山代友

山橋武具行

山橋武具行

山代友

山代友

右岸戸合

山橋武具行

山橋武具行

右岸戸合

山代友

山代友

右岸戸合

山代友

山代友

山代友

二日

山代友

山代友

山代友

山代友

山代友

山代友

二日

仙列出仕 西沖殿 何山 何山 何山

大坂 梅田 何山 何山

高松

真野勇象 係部六所

右殿 海濱 何山 何山

月代 何山

西山 何山

右山 何山 何山

山 何山

本間 何山

本間 何山 何山 何山 何山 何山

山 何山 何山 何山 何山 何山

山 何山 何山 何山

四日

休日 西沖殿 何山 何山

山 何山

山 何山

山 何山

六日

一 例刻札仕 粟屋 同法小畑 三巻  
大蔵極世より 延 津出

六日

一 休日 粟屋 同法小畑 三巻  
一 休日 津用 一巻 同法小畑 三巻 延 津出

吉田彦三

下 新友自伝

七日

一 休日 西津 同法小畑 三巻 出  
一 休日 同法小畑 三巻 延 津出

吉田彦三

新友自伝

吉田彦三

同法小畑 三巻 延 津出

吉田彦三

新友自伝

吉田彦三

同法小畑 三巻 延 津出

吉田彦三

新友自伝

吉田彦三

同法小畑 三巻 延 津出

右角在焉 仁賢 臣中侍 臣等 臣等 臣等

津波以

津波以 津波以 津波以 津波以 津波以 津波以 津波以 津波以 津波以 津波以

舟本 道

三番 津波以

弓削 甚金

北番 但月

波部 武史

三番 但月

曲削 甚金

八日

休日 西沖 殿之 何止 酒之 念 否 出

伊小 姓 氏 氏

為病 用 丹 友 主 分 付 於 是 否 次 解 也 十 名 月 上 於 誠 誓 道 也 仕 交 多 故 否 察 也 所 別 叙 也 向 好 氏 氏

山口 須 氏

九日

休日 古仕 西沖 殿之 何止 酒之 念 否 出

妹 湯 屋 上 叙 也 也 好 氏 氏 氏

舟本 道

大 殿 極 壯 否 出 津 波 以

一 舞臺子仕、徳一、百仕、  
及、及、及、及、及、

徳永半馬  
才、次  
水原九郎

十日

一 休日 西津屋、何、何、何、何、

一 悔、悔、悔、悔、悔、  
一 徳永半馬、  
一 若田、  
一 若田、  
一 若田、

十一日

一 何、何、何、何、何、  
一 大、大、大、大、大、

一 何、何、何、何、何、  
一 若田、  
一 若田、  
一 若田、

一 何、何、何、

一 若田、  
一 若田、  
一 若田、

一 若田、  
一 若田、  
一 若田、

一 山形奉行赴

川信重

川口長延

山本幸前

本間信重

川口長延

山本幸前

古之遺跡同方何之遺蹟類列一覽也

十一日

一 休日 西津屋<sup>初</sup>同出小畑<sup>初</sup>入三笠

初津屋<sup>初</sup>同出小畑<sup>初</sup>入三笠

初入竹村丹所

右 津伏末<sup>初</sup>出物<sup>初</sup>入三笠

十二日

一 係別出仕 西津屋<sup>初</sup>同出小畑<sup>初</sup>入三笠

一 大敷福御間<sup>初</sup>出仕

喜天<sup>初</sup>子<sup>初</sup>入三笠

津屋<sup>初</sup>同出小畑<sup>初</sup>入三笠

西津屋<sup>初</sup>同出小畑<sup>初</sup>入三笠

信重<sup>初</sup>同出小畑<sup>初</sup>入三笠

西山幸吉

清新<sup>初</sup>同出小畑<sup>初</sup>入三笠

仙石<sup>初</sup>入三笠

喜木<sup>初</sup>入三笠

信重<sup>初</sup>入三笠

右之<sup>初</sup>出仕<sup>初</sup>同出小畑<sup>初</sup>入三笠

一 江陵破土古席之後也

西河殿下不至 冲融各其間 冲融各其間  
昔年中外古席穴如懸山側 時入 至今乃古以東極  
古若出席不見其年其甚危至 冲融各其間

十四日

一 休日 西河殿下古席穴如懸山側

十五日

一 休別古仕 西河殿下古席穴如懸山側

昔年昔日法如後上上法有牙法法何也  
存款 但法用各其間

一 冲融各其間古席穴如懸山側

一 冲融各其間古席穴如懸山側

冲融各其間  
冲融各其間  
冲融各其間  
冲融各其間

冲融各其間  
冲融各其間

一 冲融各其間古席穴如懸山側

一 月 二日  
今日 晴 午後 晴

午後 晴

久保 佐三郎

午後 晴

高橋 平次郎

午後 晴

和田 又三郎

午後 晴

植 川 方吉

午後 晴

依田 元太郎

午後 晴

高橋 如右衛門

午後 晴

原 傳吉

午後 晴

白 杉 春吉

十六日

一 休日  
一 月 八日

午前 極大 雪 降 止 午後 雪 止 井 在 庭 中  
病 弱 一 途 中 鐵 道 車 中 亦 有 雨 之 勢  
松 子 以 身 體 弱 為 難 獲 實 為 幸 甚 幸 甚  
飯 海 山 氏 但 老 矣 一 途 中

後 井 外 氏

一 月 九日

實如東極大學... 但石...  
但石...

谷中小化

才及係三所...

核丹一古所

冲原林大... 為...

但三所... 出...

十七日

例刻... 西...

仙石王計

望... 殿...

右... 行...

仙石王計

若田...

三...

孫部五年

三五年

九五年

八五年

仙石主計

吉本彈正

大出光

山村貞

右沙流江上主計の沙月清光の御

仙石主計

仙石主計

仙石主計

一 乃之御功、比月付之沙月清光の御

部五年

孫五年

長尾光中

長尾光中

武五年

但右中候

竹村お研

西河原の御功、比月付之沙月清光の御

一 乃之御功、比月付之沙月清光の御  
是より主計の左へ進上候

主人

左ノ御功、比月付之沙月清光の御  
比右ノ御功、比月付之沙月清光の御  
比左ノ御功、比月付之沙月清光の御

山崎忠清

山崎忠清

十八日

休日 雨降致日何事小用之云云

十九日

一 例に出仕 西津殿上自中州へ云々

姉御殿

宮梅山醫保中川幸徳共女御會  
子然之旨將進高仕候旨致云云  
致御下候

信田友助

海法立但中多事之致云云

白井廣三郎

西川通海

二女京極心持候旨中津島御  
係致之旨但中多事致云云

別紙

知州 高橋公

信田友助

京極心持御旨

信田友助

一 月一日 例出仕 中津島御人御下候

松井源三

梶岡武白

香二日 庸助控執候云々十日 瑞穂云々

不致一 乃右波津院迄及彼津邊云々

亦右村上御家心御

忠右代官信田友助云々

信田友助



中刻之書後

石之印信東來者何不可不取自今及後

一 言物在何處 言物在何處 言物在何處

一 婦人

少女曰

古者有言 古者有言 古者有言

少後士自贊

女一日

一 係刻出仕 西津教上向山小烟之

係家村在隱岐之山麓所地村  
新午後乃能去其山麓之山麓

格不半然

一 与社奉以也

乃之通而亥年二十七日法法相由

信牙

信也

信也

言物在何處

言物在何處

言物在何處

言物在何處

言物在何處

言物在何處

言物在何處

言物在何處

言物在何處

貞相院殿  
五月廿四日  
源池院殿  
五月十四日

一 中本姓氏生

源池院殿中一殿宮殿寺家  
一但小年交此例新入寺家

大平山年  
新主官

女二日

一 休日 西津殿 同中本姓氏生  
一 少婦子以不當其年家丁及到其

女三日

一 例到社仕 西津殿 同中本姓氏生  
一 若和不及其及以外入寺家  
中本姓氏生

右大以勇次出先行李身或人持物之入其持之  
新合言以道中家一不吉之屋公入其和同持道  
及寺家

女四日

一 休日 西津殿 同中本姓氏生  
一 宗隆寺  
大平山年 新主官

廿六日

一 係別出仕 西津敷村何津小畑入之儀

一 出物出仕

此庄係在東月殿公目書院言仕仕名ありて一入出物出仕

一 出物出仕

右ノ出物出仕東月殿公目書院言仕仕名ありて一入出物出仕

係別出仕但中一入出物出仕

後名出仕  
東月殿公

一 出物出仕

男子書院言仕仕名ありて一入出物出仕

橋井一吉所

一 出物出仕

右ノ出物出仕

津月殿  
東月殿  
命刀 津免

出物出仕  
出物出仕  
出物出仕  
出物出仕

女六日

一 休日 西澤教士同出烟之...

所用之紙...

中西米  
志木一...

女七日

一 休日 出仕 西澤教士同出烟...

一 休日 出仕 西澤教士同出烟...

所用之紙...

中西米  
志木一...

所用之紙...

中西米  
志木一...

右記 西澤教士同出烟...

一 休日 出仕 西澤教士同出烟...

所用之紙...

中西米  
志木一...

所用之紙...

中西米  
志木一...

但右...

一 休日 出仕 西澤教士同出烟...

所用之紙...

馬淵日向... 石源支

右道...

中島米... 園口信... 右田...

一 望後... 殿極... 平...

一 平... 六年... 吉田...

一 仙石... 一柳... 久保...

山村... 大... 仙石... 一柳... 山... 早川... 中村... 三好...

右名代... 山... 右... 山...

山小書院

多日

藤野野矢

名代 藤野野矢

長島志中

山田三郎

竹村好解

名代 藤野野矢

本名校書山小書院

山小書院

日西一月

多日

古田志中

名代 藤野野矢

藤野野矢

多日

岡上信所

名代 藤野野矢

藤野野矢

多日

藤野野矢

多日

多日

藤野野矢

名代 藤野野矢

多日

藤野野矢

多日

藤野野矢

名代 藤野野矢

四月 曾 宝珠の地蔵

五月

五月 曾 小林市書

四月 曾 大阿月生寫

五月

五月 曾 今子三書

五月 曾 山月包斎

五月

五月 曾 中山則只

五月 曾 山月英二書

五月

五月 曾 水升言枝

五月 曾 名代 山月英二書

五月

五月 曾 名代 水升言枝

五月 曾 名代 山月英二書

五月

五月 曾 名代 水升言枝

右一日直在抄上物書三書

原宿 津出在抄書中此は以山終枝書也其年易性上草

一 山月英二書 津出在抄書中此は以山終枝書也其年易性上草

一 山月英二書 津出在抄書中此は以山終枝書也其年易性上草

一 山月英二書 津出在抄書中此は以山終枝書也其年易性上草

山月英二書

山月英二書

山月英二書

山月英二書

一 山月英二書 津出在抄書中此は以山終枝書也其年易性上草

山月英二書

山月英二書

山月英二書

山月英二書

一 山月英二書 津出在抄書中此は以山終枝書也其年易性上草

山月英二書

右取日少礼華之書竹村母解書代家あり其書是也其年易性上草

山月英二書

己卯六月九日

伊夏半年

右病兒於病中入腹一仕命其母在病中其母亦病之  
其母一仕命其母在病中其母亦病之  
其母一仕命其母在病中其母亦病之

口口口

杜後之文半年以來

沖也之半蒙 沖恩甚之杜後也

杜後之文半年以來 沖恩甚之杜後也

沖也之半蒙 沖恩甚之杜後也

一、  
二、

常務理事と役員  
山田 二所八

一、  
二、

山田 二所八

原 二所八

山田 二所八

廿八日

休日 西津殿の當日津波後何一處も出酒屋なき

以江波止の節

米田輝馬

此後の津波多し自忘

志保信士

津波より此後九日公出節は甚多し

廿九日

係刻三仕 西津殿の自出酒屋なき

美光院様

山花月之日

修五年

山花月之日

津波者

但右ノ系

山花月之日

中尾 束

志保信士

右の月日津波止半為三仕由人 故七時迄津波

止節は海山花月之日

津波之日より山花月之日

荒木甚吉

志保信士

法苑珠林

# 大乘經

有無量 如寶有他不在其間

一 有無量如寶有他不在其間

一 有無量如寶有他不在其間

一 有無量如寶有他不在其間

法苑珠林

法苑珠林

法苑珠林

有無量如寶有他不在其間

出石藩

御用部屋日記

文政

十年

三月

出石町公民館蔵

文政十年亥年

<sup>沖田守</sup>日記 仙石王計

三月六

市年寄  
志小姓江  
志勝子家  
志用入  
志羽江  
志取江  
所 年江  
志高定江  
志徒士江  
志自江  
志取月江  
志夢江  
志取江  
志是江

# 火消

仙石主計  
服部弥兵衛  
竹村丹解  
後岩尾  
野岸兵衛  
奈所十郎  
谷津平兵衛  
若 鯉魚  
若 少年  
服部兵衛  
若部六郎  
河合惣藏  
上藤信  
中村春

國部四郎兵衛  
太田彦太史

本間基有兵衛  
松井孫太史

喧嘩は海場江

歌白

一 仙列古仕

一 西津殿上當日津祝儀同津城境(後白)

一 下小泊戸止(後白)

一 津子権方止當日津祝儀(女名)言(後白)

一 下

一 同法用部屋上  
下(女名)言(後白)

下小泊戸止

一 先月中(中)第(人)別増減書(末)門(女)言(後白)

一 境(下)止(中)止(女)言(後白)

一 津城見(女)言(津)祝儀(下)別(末)言(女)言(後白)

中(後白)

一 中(後白)物(女)言(先)月中(中)迎(在)紅(女)相(後白)

一 下(後白)中(後白)中(後白)中(後白)

山村 貞

二男 繁之助

荒木 基之助

一 右(後白)通(女) 女(名)言(於)法(用)部(室)中(後白)

但(首)取(後白)先(後白)女(名)言(於)法(用)部(室)中(後白)

一 中(後白)月(後白)付(後白)

揚(湯)三(付)女(名)言(於)法(用)部(室)中(後白)

下(後白)中(後白)月(後白)付(後白)

一 下(後白)通(女) 女(名)言(於)法(用)部(室)中(後白)

弘(道)權(女)言(於)法(用)部(室)中(後白)

下(後白)中(後白)月(後白)付(後白)

一 右(後白)岩(後白)尾(女) 女(名)言(於)法(用)部(室)中(後白)

能(井)上(端)高(女)言(於)法(用)部(室)中(後白)

三日 快晴

一 予は三月六日付書出候事

一 西沖殿に仕前仕立及係法年寄より并  
仕立及係法

沖自身より西沖殿中へ法義解申候事  
及係法何れも不裁候事

三月三日付書出候事  
三月三日付書出候事

仕立及係法

三月三日付書出候事  
三月三日付書出候事

三月三日付書出候事  
三月三日付書出候事  
三月三日付書出候事

一 沖子様より三月三日付書出候事

一 宗書院より三月三日付書出候事

一 三月三日付書出候事

一 本年院より三月三日付書出候事

三月三日付書出候事  
三月三日付書出候事  
三月三日付書出候事

一 三月三日付書出候事

三ノ中一管部...  
...  
...  
...

二月廿日

仙居計

...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...

...  
...  
...  
...

四日 休

一日 西津殿上納

...

...

...

...

大森氏  
...  
...  
...  
...  
...  
...

六日 收信

一 例別出仕 西津 殿上 日向山 細戸

一 山姓 延

和弟在平依在極 延平 延山 延中  
竹清 延平 延中 延平 延山 延中 延平

願書 延平 延中 延平 延山 延中 延平

列波

山中 山姓  
延平 延中 延平

竹清 延平

一 山姓 延

延平 延中 延平

延平 延中 延平

和弟在平依在極 延平 延山 延中  
竹清 延平 延中 延平 延山 延中 延平  
願書 延平 延中 延平 延山 延中 延平

旨 延中 延平 延中 延平

一 及之通切 延平 延中 延平

山姓 延

山姓 延

西津 殿

山姓 延

山姓 延

山姓 延

山姓 延

吉

山姓 延

山姓 延

西津 殿

山姓 延

吉

山姓 延

山水姓記

江醫作

各姓皆稱神 乞人乞乞

山名

一乃書海之石乃之石一因在江邊

山水姓記

山水姓記  
山水姓記  
山水姓記

一乃通切之石乃之石一因在江邊

山水

三子年

山水

山水

山水

山水

山水

山水

山水

山水

江小波 江小波

江小波 江小波

名及未後諸前波一也之波法  
思及世名不波三也只 任公三

五松少年 大波利意

比自台波教年波諸前波一也之波法  
思及世名不波三也只 任公三

江波甘平末

二松少年 小波後意

比自台波教年波諸前波一也之波法  
思及世名不波三也只 任公三

江波初

松少年

井上三郎在馬  
小余之孫

名及未後諸前波一也之波法  
思及世名不波三也只 任公三

江波初

十少年 山波左修次

比自台在月所

江小波 江小波

右月所

江小波 江小波

江小波 江小波

水田定基人  
卷八

大藏振事坊場  
冲土之條交配一者非供和衝等太後言  
中後廿七言

各處有秋江細年身  
和和之如何  
思在之計自中後言和  
平 仁吉言

大森左内  
和戶臨御  
殿歌武士  
海峽南條  
太田延氣  
塔回利

一 高弟引也安老妻之向之...  
其...後言和

一 忘沖英他者...  
中後言和

一 小政人合不皆前...  
沖意中後言和

一 和及...  
中後言和

中田會夫

一 右田中...  
沖意中後言和

河野...  
因口...

去後言和

一 右...  
仁吉言

一 江戸...  
殿極好始

上三柳葉并檄燈草法、感帝德、故百津別來、書卷  
中來、臣用、白、尺、通

一、今年、通、查、自、黃、山、安、舟、入、出、科、由、成、不、也

江、經、及  
江、科、由、入、查、年  
帝、身、通、一、也

冷、年、由、查、也

一、查、江、科、由、入、  
一、江、科、由、入、查、年

少、印、由、七

一、科、由、入、查、年  
一、科、由、入、查、年

之、係、年、九、所

一、科、由、入、查、年  
一、科、由、入、查、年

之、係、年、九、所

一、科、由、入、查、年  
一、科、由、入、查、年

相、上、由、七

一、科、由、入、查、年  
一、科、由、入、查、年

之、係、年、九、所

一、科、由、入、查、年  
一、科、由、入、查、年

係、甲、由、六

一、科、由、入、查、年  
一、科、由、入、查、年

大、以、由、八

一、科、由、入、查、年  
一、科、由、入、查、年

一、尺、通、山、柳、葉、并、檄、燈、草、法、中、月、竹、相、傳、文

一、科、由、入、查、年

一、科、由、入、查、年

一、科、由、入、查、年

一、科、由、入、查、年

一、科、由、入、查、年

一、科、由、入、查、年

仙石主人書

三月六日

仙石主計

仙石中

- 一 存 延暦寺 延暦寺中場多系書卷以之修書付託也
- 一 存 延回序 為守 上卷為知中
- 一 所 延回序

延回序 東門及一昨日為寺公昌念寺二所序在後  
人數瑞減書卷等之在延

去成淨度後之數減  
惣之數合千四百三拾四所

(町古寺社  
水之村 共  
長所村)

去成淨度後之數三人增  
人數合四千九百八拾三人内

(部千六百八人男 町古寺  
部千三百字女 寺社共)

人數合部元之數千人内

百三拾二人男 (町古寺  
百三拾二人女 (長所村)

去成淨度後

部元有受 部元有受 増減  
入人百二人 入人百二人 三人増

惣人數合部元之數百人内

部千七百三拾八人男  
部千六百九人女

去成淨度後之數減

惣之數合千四百三拾四所

去六口 課多

去成淨度後之數減  
惣之數合千四百三拾四所

惣人數合部元之數百人内

部千七百三拾八人男  
部千六百九人女

### 一 用人人直

一 存 延今七月 中徒士以若古是也 終之曰 延今八月  
安室列列 中徒士月 中徒士月 延今八月  
中徒士月 延今八月

延今八月

江戸港中 痛角之 延今八月 延今八月 延今八月  
延今八月 延今八月 延今八月 延今八月 延今八月

任世英以和以 津德懸念 津先涉亮所  
二月左右在津城以石式人校持正成下小竹香  
任世英事

右臨 津先涉亮所  
管非本個區是了少少在處  
中後台後中遊其法中軍也  
但望六日夕不友主信也

六日 收信

傳 西津版上何小網戶名及

七日 收信

一 份列在任 西津版上何小網戶名及

西津版上何小網戶名及  
拾今年 長國在中

右數年、改皆勤以有右之、每法成中用部  
任世英事

一 小用人道

皆勤人向  
津先涉亮所  
小用人道

四今年以上皆勤  
小用人道

右用人 右建 右中 右部 右左 右右 右中 右用

一 大破 振火 矢 遠 涉 試 非 付 來 年 五 月 十 八 日

中 建 其 名 必 側 中 用 人 止 中 建

一 中 用 人 姓

右 非 友 于 後  
中 建 入 止 中 建

右 建 中 建  
依 日 必 建  
行 井 止 建

右 子 橋 止 必 建 三 年 皆 而 止 必 建 三 年 止 必 建  
不 會 後 必 建 止 必 建 相 同 必 建 右 止 必 建 必 建  
何 必 建 必 建 必 建

八 日 時 晴

一 傳 為 所 慶 止 必 建 必 建 必 建

右 道 惟 海 彩 必 建  
必 建

一 聖 天 止

本 同 市 建

右 必 建 必 建 必 建 必 建 必 建 必 建

一 必 建 必 建

必 建 必 建 必 建 必 建 必 建 必 建  
必 建 必 建 必 建 必 建 必 建 必 建  
必 建 必 建 必 建 必 建 必 建 必 建

必 建 必 建

一 同 建

杉三章君後病弱多病  
御座心德不食生仁  
赤存息了沙化止夜多  
中村源房

他刻言  
西中殿  
此海日

九月 快信

一 信刻家往 西中殿 上回中納人迄

改西中殿寺  
津門經法月之因全江舟也  
再經之他信也  
法之信也

岩田神

十日 曇

一 傳 西中殿 上回中納人迄

輪講三付  
弘道雁上

音及海  
大貴

私師並勉恩院  
官依少醫源中川幸法  
為由言子以或以  
難多言子以或以

增日

十一日

一 俗別本仕 西津殿 自天國山小納戸合名

津屋之月意如兼仕等  
末上十有二人夜上立仕能

横山果女  
横井一本郎  
萩 玉名

一 山能春行遊

左之通 管中 殿一尺

苗字 津免

美支市協村  
八原太造

一 山用大車

左之通 尺

口播小尺

任付合名 同組 山丸中車

淡井坐能

口部より以て師  
脚先口徑三組上

組入部並に寸也

赤松平名

口部より以て  
部並に寸也

後田家次

一 山能春行遊  
津屋之月意如兼仕等  
末上十有二人夜上立仕能  
横山果女  
横井一本郎  
萩 玉名

小高本吉造  
西村良吉造  
上田良吉造  
長原良吉造

平尾源藏  
史德以志  
長尾庄長  
高尾庄長  
山田庄長  
病者  
病者

一 古事海少の世交

西澤殿と名乗りし 澤殿

沖目と名乗 伊賀守と名乗りし下下殿

一 伊賀守

古田無名

伊賀守と名乗りし伊賀守と名乗りし  
伊賀守と名乗りし伊賀守と名乗りし  
伊賀守と名乗りし伊賀守と名乗りし

伊賀守

私儀と名乗りし

長尾庄長と名乗りし 伊賀守と名乗りし

伊賀守と名乗りし伊賀守と名乗りし

伊賀守と名乗りし伊賀守と名乗りし

伊賀守と名乗りし伊賀守と名乗りし

伊賀守と名乗りし伊賀守と名乗りし

伊賀守と名乗りし

伊賀守と名乗りし伊賀守と名乗りし

伊賀守と名乗りし

文政十一年正月廿

古田無名

忠臣人教

任事人死之... 忠臣人教... 忠臣人教... 忠臣人教...

右目無之... 忠臣人教...

清溪... 忠臣人教... 忠臣人教...

小... 忠臣人教...

忠臣人教... 忠臣人教... 忠臣人教...

忠臣人教... 忠臣人教...

忠臣人教... 忠臣人教... 忠臣人教...

忠臣人教... 忠臣人教... 忠臣人教...

忠臣人教... 忠臣人教... 忠臣人教...

忠臣人教... 忠臣人教...

忠臣人教... 忠臣人教...

忠臣人教... 忠臣人教...

忠臣人教... 忠臣人教...

忠臣人教... 忠臣人教...

忠臣人教... 忠臣人教...

忠臣人教... 忠臣人教...

忠臣人教... 忠臣人教...

忠臣人教... 忠臣人教...

忠臣人教... 忠臣人教...

忠臣人教... 忠臣人教...

忠臣人教... 忠臣人教...

忠臣人教... 忠臣人教...

忠臣人教... 忠臣人教...

忠臣人教... 忠臣人教...

十二日 收信

伯列社 西津殿 上谷水網之...

政商物付山其之

大森 堂

冲意 大野 津能 津能

在通 津能 津能

在通 津能 津能

津能 津能 津能

西川 信

津能 津能 津能

津能 津能 津能

西川 信

津能 津能 津能

津能 津能 津能

西川 信

津能 津能 津能

津能 津能 津能

津能 津能 津能

与社者所通

智以院

右大研 志信 津能 津能 津能

冲城下无边无际一逼之无休之信如鼓  
在降管云之象悟手一付之在口后

中月全序

横山并叙

中月全序

横井石解

获 之日

右以冲意用意在烟舟的後日三甘中用秋  
在去法後中甚渴之極狀支配以美和後

十四日

一休日 西冲殿上同江小納戶

十六日

俗列如江

大殿作法安寺也古為伊物

冲去在香一信當日中流信何許後極細白

冲小洲天

冲子存方古當日法說後本國市處

一何月月初

一何月月初

冲小洲天

冲小洲天

冲小洲天

冲小洲天

一何月月初

冲小洲天

一 小姓送

名物店に取次申渡す  
御書に前史あり

中山利久

一 珍新

上野博物

本業共白米付志願書宛てて申渡す  
先般向て一上野博物宛てて申渡す

一 山内進

今般の如く申渡す  
山内進の御書あり

橋本果舟  
橋本吉平  
橋本吉吉

一 十一日 晴

一 休日

一 需給上之相山下細入の御書

一 十七日 晴

一 何れ出仕 需給上之御書あり

御書あり

吉本原重

吉本原重の御書あり

吉本原重の御書あり

山内文平

山内文平の御書あり

山内文平の御書あり

一 尔如致意

右同以... 弟... 弟...

山... 弟...

一 大教... 弟... 弟...

弟... 弟... 弟...

一 弟... 弟... 弟...

弟... 弟... 弟...

弟... 弟...

一 弟... 弟... 弟...

弟... 弟... 弟...

弟... 弟...

十八日

一 休日... 弟... 弟...

一 弟... 弟... 弟...

一 弟... 弟... 弟...

弟... 弟... 弟...

十九日

一 弟... 弟... 弟...

弟... 弟... 弟...

大日白

一 体日 西澤敏子 内出細名 山崎

一 思遠院 津波 津波 志有 津波 香音

一 大教 津波 津波 位 津波 津波 津波 津波

臨海府

江左津波 津波

大教 津波

大日白

一 位 内出 西澤敏子 内出 内出 内出 内出

一 津波 津波 津波

津波 津波 津波 津波 津波 津波

津波 津波 津波 津波 津波 津波

津波 津波

津波 津波 津波 津波 津波 津波

津波 津波

津波 津波

津波 津波

津波 津波

津波 津波

右 津波 津波 津波 津波 津波 津波 津波 津波 津波 津波

左 津波 津波 津波 津波 津波 津波 津波 津波 津波 津波

津波 津波

津波 津波

津波 津波

津波 津波

大 津波 津波 津波 津波 津波 津波 津波 津波 津波 津波

中 津波 津波 津波 津波 津波 津波 津波 津波 津波 津波

左 津波 津波 津波 津波 津波 津波 津波 津波 津波 津波

津波 津波

位 津波 津波 津波 津波 津波 津波 津波 津波 津波 津波

一 澄海

工友村物  
川末

右の半村物は、人の心をなやませ、清く静かに心を洗う。此の  
上、又、人の心をなやませ、清く静かに心を洗う。此の

法合 曲調送三 湯後島元 （酒） 中島島元 （酒）  
香多平八 （山） 山松庵舟 （舟） 島多平八 （舟）

工友村物

右の半村物は、人の心をなやませ、清く静かに心を洗う。此の  
上、又、人の心をなやませ、清く静かに心を洗う。此の

山松庵舟

七日

（山松庵舟） 山松庵舟

右の半村物は、人の心をなやませ、清く静かに心を洗う。此の  
上、又、人の心をなやませ、清く静かに心を洗う。此の

一 山松庵舟

山松庵舟  
山松庵舟  
山松庵舟  
山松庵舟

一 山松庵舟

右の半村物は、人の心をなやませ、清く静かに心を洗う。此の  
上、又、人の心をなやませ、清く静かに心を洗う。此の

山松庵舟  
山松庵舟

山松庵舟

山松庵舟  
山松庵舟  
山松庵舟  
山松庵舟  
山松庵舟

女二日 世修

一 休日 御飯より御山御座に参る

一 大御孫大夫の式武田山御座に参る  
沖田に参る

御座に参る御座に参る

御座に参る御座に参る

御座に参る御座に参る

山崎より参る

一 御座に参る

御座に参る御座に参る

御座に参る御座に参る

御座に参る御座に参る

山崎より参る

女二日 世修

一 御座に参る 御座に参る 御座に参る

御座に参る御座に参る

御座に参る御座に参る

御座に参る御座に参る

御座に参る御座に参る

御座に参る

山崎より参る

一 御座に参る 御座に参る 御座に参る  
御座に参る御座に参る

女二日 世修

一 休日 御座に参る 御座に参る

宗清

大原

仲文

冲志

宗清

大原

仲文

冲志

宗清

大原

仲文

冲志

宗清

一 宗清

宗清

仲文

冲志

宗清

宗清

一 宗清

一 宗清

仲文

冲志

宗清

一 宗清

一 宗清

宗清

出言曰... 有... 信... 光... 列...

有... 信... 光... 列...

二... 信... 光... 列...

信... 光... 列...

口... 信... 光... 列...

信... 光... 列...

一... 信... 光... 列...

但

信... 光... 列...

是為清土  
為穀物

廿六日

一 休日 西澤殿上何事

昨日及明日  
西澤殿上何事

昨日及明日  
西澤殿上何事

廿七日

一 休日 西澤殿上何事

西澤殿上何事

酒白清土

飯世清土

丹十平清土

杉系清土

子系清土

古田清土

古田清土

稻垣清土

倉庫十助

山崎清土

山崎清土

山崎清土

山崎清土

下卷  
右行

西山  
岩田  
松本  
松田  
増田  
麻井  
花

牛車  
左原  
山田  
松田

大島

妻  
左原  
山田  
松田

大島

妻  
左原  
山田  
松田

大島

妻  
左原  
山田  
松田

大島

右行  
沖代

沖代  
松田

大島

妻  
左原  
山田  
松田

一  
田  
田

身中氣血  
得由是也

又次者如

思中及以  
清涼水夜睡  
五志強之

身中氣血  
清涼水夜睡

右口以

右口以

平法

身中氣血  
平法

本身以之  
清涼水夜睡  
五志強之

女八日時

一 休  
一 身中氣血

身中氣血  
清涼水夜睡

身中氣血  
清涼水夜睡

清涼水夜睡

清涼水夜睡

女九日時

一 休  
一 身中氣血

身中氣血  
清涼水夜睡

身中氣血  
清涼水夜睡

右今解  
清涼水夜睡

皇痛痛痛  
是家如中  
即日那通

仙在  
岩回  
山在  
山竹

但主射不

下冷  
之

火森  
仙石

馬家  
沙

有影

他月  
山

下冷  
是

中  
物

其

小

一  
追

马

所

晴  
配

温

下  
十



伊信長法親王 伊信親王交傳ノ新年ノ書  
此書一、伊信法親王ノ書及有書信ノ書  
口立書及保信書等ノ書及有書信ノ書  
三、伊信親王

一 伊信親王ノ書及有書信ノ書  
一 伊信親王ノ書及有書信ノ書

一 伊信親王ノ書及有書信ノ書

一 伊信親王ノ書及有書信ノ書

一 伊信親王ノ書及有書信ノ書

三月廿九日  
伊信親王ノ書及有書信ノ書

海日書

伊信親王ノ書及有書信ノ書

伊信親王ノ書及有書信ノ書

大森堂

伊信親王

伊信親王ノ書及有書信ノ書

大森堂

素依世道安  
德在自心

長益在中

素依世道安  
德在自心  
清溪地時歌  
虎溪金昆池  
白泥金信  
為仁能自台  
夕夕夕夕夕  
夕夕夕夕

大森堂

素依世道安  
德在自心

大森堂

素依世道安  
德在自心

長益在中

出石藩

御用部屋日記

文政

十年

四月

出石町公民館蔵

文政十丁亥年

沖原

日記 出石藩御用

四月八

清年表

那小姓... 山田...

岩田静馬

後部...

作村丹解

大田...

稻垣...

植松...

岡崎...

佐久間...

友波...

谷津...

谷津...

水原...

竹村...

大沼

丹上三郎... 破...

塩吹口福徳

杉原友成... 田平...

雜日

一 例刻出仕 西津飯詰 當日津波後之儀也

一 津子振方 當實本回市定之儀也

一 同日津月部屋下  
津子振方當實本回市定之儀也

津小姓  
津月人  
酒白信  
後津屋定

一 先月中津部中人 例増減中 定之儀也

一 津波砲打止先月中 例定儀部相替後  
一 右津子振方當實本回市定之儀也

一 津場之儀 例定儀部相替後

一 津子振方當實本回市定之儀也

小倉  
中村  
出淵

津子振方當實本回市定之儀也

竹村

一 大飯振方 例定儀部相替後

右津子振方當實本回市定之儀也

山付

右津子振方當實本回市定之儀也

右田

右外所名在法海寺自觀音堂及佛堂等處  
亦有石佛之石佛在右之佛後

但不知其石佛之石佛在何處

一右之佛石佛在法海寺

法海寺

正平年中江戶割置法海寺自觀音堂及佛堂等處  
如法 佛石在法海寺自觀音堂及佛堂等處  
亦有石佛之石佛在右之佛後

四月

一右之佛石佛在法海寺

中法

一寺法海寺

右外

右外上方の石佛は正平年中法海寺に  
石佛を安置し、石佛は正平年中法海寺に  
安置し、石佛は正平年中法海寺に

一寺法海寺

右外上方の石佛は正平年中法海寺に

法海寺

石佛

石佛

右外上方の石佛は正平年中法海寺に  
安置し、石佛は正平年中法海寺に  
安置し、石佛は正平年中法海寺に  
安置し、石佛は正平年中法海寺に

左ノ通於汗所ノ中付也

氏部

佐野村

七年

常ニ心掛西區ニ来而親古病也  
お事難所ノ中合合ノ心掛心掛也  
後ノお事後矣汗米幸候也

お事部下台

口少中付

若原

常ニ心掛西區ニ来而親古病也  
お事難所ノ中合合ノ心掛心掛也  
後ノお事後矣汗米幸候也

一 下山権現

古事月ノ汗所也

殿原 汗代系ノ事也

大殿原 汗代系ノ事也

他文段ハ西ノ事也

汗所ノ事也

汗所ノ事也

大殿原ノ事也

二日

一 休日 西汗殿ノ事也

許彦之公の遺書  
お徳は清く

丹上清  
園上南

二日

一 賀別出仕 平法 何果納人

平法

何果納人

右今より公の遺書は、後世に傳へるべきに、  
公の遺書は、公の遺書に、公の遺書に、  
公の遺書は、公の遺書に、公の遺書に、

公の遺書は、公の遺書に、  
公の遺書は、公の遺書に、

竹村吉野

一 許彦之公の遺書は、公の遺書に、  
許彦之公の遺書は、公の遺書に、  
許彦之公の遺書は、公の遺書に、

許彦之公の遺書は、公の遺書に、  
許彦之公の遺書は、公の遺書に、

河村清

右の遺書は、公の遺書に、  
右の遺書は、公の遺書に、

杉原年助

右の遺書は、公の遺書に、  
右の遺書は、公の遺書に、

坂田利吉

右の遺書は、公の遺書に、  
右の遺書は、公の遺書に、

竹村吉野

右の遺書は、公の遺書に、  
右の遺書は、公の遺書に、

古田多門

四日

一日 西津飯 日向山池

宝島院様

津沼舟舟

昌念寺 津沼舟舟

仙石氏家

右令辨 津代書札初度生

経巻と書

山村貞

右月以

六日

一 御別社 津飯 日向山池

一 町子 宝島院様

一 町子 宝島院様

一 書留信紙

行形所  
杉原平助  
竹村善兵衛  
和田利吉

一 町子 津飯 日向山池

長尾平二

一 書留信紙

中村善兵衛

一 町子 津飯 日向山池

一 町子 津飯 日向山池

中西米

此卷之於世也其功甚大矣夫世之所謂道者皆虛也此卷之於世也其功甚大矣夫世之所謂道者皆虛也

六日

一日 西津殿之向比細心也

七日

一日 西津殿之向比細心也

西津殿之向比細心也

長尾平二

古月乃書卷也

中村平三

平法

文彦志尾

右今乃心之平法也其功甚大矣夫世之所謂道者皆虛也此卷之於世也其功甚大矣夫世之所謂道者皆虛也

此卷之於世也其功甚大矣

中尾平三

一日 西津殿之向比細心也

右今乃心之平法也

西津殿

長尾平二

一 守身之道

守身之道在於心之正與否  
未可方寸之移也

中西米  
各半斤

酒半  
各半斤  
各半斤

八日

一 休日 西河飲之 自出細人全愈

海粉有強壯之功

大杏仁

九日

一 骨刺出 西河飲之 自出細人全愈

一 骨刺出 宜早治之  
庶不致成痼疾

此酒常服

中西米  
各半斤

右月之相 烟膏有明效 方江表之氣  
亦有少用 效驗不一 宜早治之 庶不致成痼疾  
活物之功

但活物之功不一也

右月人

右再涉月之相 宜早治之 庶不致成痼疾

啟者 上之極品何處皆有 後世者

此後名家之畫 亦有神品 亦有中品  
亦有俗品 亦有偽品 亦有劣品  
亦有雜品 亦有雜品 亦有雜品  
但計其畫 亦有此畫 亦有此畫 亦有此畫

朱田神馬

一 大敵極清水 沙卷色 沖出沙卷色

一 沙卷色

右 通明極品百身月系極品色

一切沙卷色九系畫夜

一 古法極品畫夜

一 沙卷色極品畫夜

百身月系  
沙卷色  
日身

一 大敵極品色 十系十系 十日大矢 沙卷色極品

下 不取極品 今 亦極品 何 亦極品 今 亦極品  
沙卷色 月系 沙卷色 月系

平法

一 交友畫尾

右 亦極品 亦極品 亦極品 亦極品 亦極品  
亦極品 亦極品 亦極品 亦極品 亦極品  
亦極品 亦極品 亦極品 亦極品 亦極品

休者

海村極品 亦極品  
平法極品 亦極品

一 交友畫尾  
亦極品

一 交友畫尾

右 門中 亦極品 亦極品 亦極品 亦極品 亦極品  
亦極品 亦極品 亦極品 亦極品 亦極品

一 交友畫尾

本所より山下に右日記

山崎の日記

惣の事

本所より山下に右日記  
同日山下に右日記  
同日山下に右日記

本日山下に右日記

水取

本日山下に右日記

木取

本所より山下に右日記  
同日山下に右日記  
同日山下に右日記

本日山下に右日記

本日山下に右日記

山崎

本日山下に右日記

本日山下に右日記

山崎

本所より山下に右日記  
同日山下に右日記  
同日山下に右日記

本日山下に右日記

本日山下に右日記

本日山下に右日記

116

佐川高田  
普泉寺

117

右院有古碑石方丈石像

古田藤原氏  
隆平寺

右院殿

118

公名... 寺名... 碑石...

殿... 碑石...

119

一畧樹院... 碑石... 寺名...

殿... 碑石...

120

一左... 碑石... 寺名...

殿... 碑石...

山後付沙末

白丹新八

右一楹... 碑石... 寺名...

殿... 碑石...

松林寺

121

一左... 碑石... 寺名...

殿... 碑石...

上田  
大輪寺

殿... 碑石...

殿... 碑石...

殿... 碑石...

上田  
本陽寺

殿... 碑石...

一 左之海 仁月之秋少月經卷中卷也

卷之三  
三 五代評表

奥山附

友成  
永井玄核

右身古より東列北中の林寺に於て十年住持を成し其  
心經を撰出之四回志江信平に相傳行身中合 津波橋者  
お知多在中信也

一 右身古より東列北中の林寺に於て十年住持を成し其  
心經を撰出之四回志江信平に相傳行身中合 津波橋者  
お知多在中信也

但古より東列北中  
津波子一坊  
貞恭院権僧

行書類  
金文或古文

一 津波一坊古より東列北中の林寺に於て十年住持を成し其  
心經を撰出之四回志江信平に相傳行身中合 津波橋者  
お知多在中信也

一 津波一坊古より東列北中の林寺に於て十年住持を成し其  
心經を撰出之四回志江信平に相傳行身中合 津波橋者  
お知多在中信也

一 津波一坊古より東列北中の林寺に於て十年住持を成し其  
心經を撰出之四回志江信平に相傳行身中合 津波橋者  
お知多在中信也

津波一坊古より東列北中  
津波子一坊  
貞恭院権僧

一 津波一坊古より東列北中の林寺に於て十年住持を成し其  
心經を撰出之四回志江信平に相傳行身中合 津波橋者  
お知多在中信也

津波一坊古より東列北中  
津波子一坊  
貞恭院権僧

行書類  
金文或古文

一 津波一坊古より東列北中の林寺に於て十年住持を成し其  
心經を撰出之四回志江信平に相傳行身中合 津波橋者  
お知多在中信也

一 津波一坊古より東列北中の林寺に於て十年住持を成し其  
心經を撰出之四回志江信平に相傳行身中合 津波橋者  
お知多在中信也

相約有在 延及乃有是也

幸而之造我

山心竹

全在焉

荒木玄蕃

右之也 古言其於乃有是也

一 有之也

山目付

右之也 古言其於乃有是也

一 有之也

右之也 古言其於乃有是也

古言其於乃有是也

山目付

右之也

山目付

一 有之也

古言其於乃有是也

山目付

一 有之也 古言其於乃有是也

山目付

古言其於乃有是也 古言其於乃有是也 古言其於乃有是也

十日

一 休日 西津敷 古言其於乃有是也

一 西津敷 古言其於乃有是也

山田靜馬

一 臨津敷 古言其於乃有是也

山田貞

一 所集の区

山口集

山口集

山口集

山口集

右集の区は、延暦初集の区に於て然る也

但し、右集の区は、

右集の区は、延暦初集の区に於て然る也

延暦初集の区は、

十一日

一 御別出仕 西津飯、山口山印、山口集

一 山口集

山口集の区は、

山口集

山口集の区は、

山口集

山口集

大敵集の区は、津飯、津飯、津飯、津飯

山口集の区は、

山口集

右集の区は、延暦初集の区に於て然る也

山口集

山口集

山口集

山口集

山口集

山口集の区は、延暦初集の区に於て然る也

山口集

浪其利流下

其流以思度之乃知也

水出公之即

大船係舟十力七夫 亦成其往係例可也

十一

以冲度地係温泉之温泉水  
那多之石如急任其沙之石之温泉水  
那中其用之温泉水

河地温泉

以冲度地有石

杉原年物

下流之舟之舟之舟之舟之舟之舟  
是流舟之舟之舟之舟之舟之舟

而山年古

舟人 西原志虎

右皆物有舟人舟人舟人舟人舟人舟人  
舟人舟人舟人舟人舟人舟人

西原志虎

右因以舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

其美其美其美其美其美其美  
冲度地係温泉水

弓制志虎

一 听之舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

十二日

休日

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
西冲度地係温泉水

岩田静馬

一 友之... 友之... 友之...

右... 右... 右...

稻... 稻... 稻...  
 谷... 谷... 谷...  
 德... 德... 德...  
 松... 松... 松...

友之...

酒... 酒... 酒...  
 古... 古... 古...  
 西... 西... 西...  
 水... 水... 水...  
 大... 大... 大...  
 白... 白... 白...

友之...

友之...

友之...

十三日

一 御... 御... 御...

右... 右... 右...

友之...

右... 右... 右...

友之...

右...

友之...

右...

友之...

一 右、延、新、川、用、被、卷、中、渡

卷、卷、替

谷、北、支、毛、頭、毛

橋、井、一、毛、脚、毛

橋、北、原、六、毛、頭、毛

德、永、平、毛、頭、毛

山、北、原、毛、頭、毛

福、北、原、毛、頭、毛

谷、北、支、毛、頭、毛

德、永、平、毛、頭、毛

橋、井、一、毛、脚、毛

谷、北、支、毛、頭、毛

一 右、延、新、川、用、被、卷、中、渡  
一 右、延、新、川、用、被、卷、中、渡

延、新、川

延、新、川、用、被、卷、中、渡

延、新、川、用、被、卷、中、渡

延、新、川、用、被、卷、中、渡

延、新、川、用、被、卷、中、渡

延、新、川、用、被、卷、中、渡

延、新、川、用、被、卷、中、渡

延、新、川

延、新、川、用、被、卷、中、渡

延、新、川、用、被、卷、中、渡

延、新、川、用、被、卷、中、渡

延、新、川、用、被、卷、中、渡

延、新、川

延、新、川、用、被、卷、中、渡

延、新、川

延、新、川、用、被、卷、中、渡

延、新、川、用、被、卷、中、渡

延、新、川、用、被、卷、中、渡

延、新、川

延、新、川、用、被、卷、中、渡

延、新、川、用、被、卷、中、渡

延、新、川、用、被、卷、中、渡

子樹

水原了齋

同

右内子守之可成無私為一有延行來儿  
去自天方自以才之至力之可自付子以  
大法以用之可也其若  
一 可也之生  
左 每中後之可也其若

男子之可也之可也其若

信田了齋

一 可也之生

水原了齋

一 可也之生

水原了齋

一 可也之生

一 可也之生

水原了齋

一 可也之生

水原了齋

十四日

一 休日 西津殿之何何通也

書後并二男或以財之原 沖庵志  
一 可也之生

竹村了齋

十六日

一 仰別出仕 西津殿出仕後、人系、始、年、中、之、家、  
津目、見、此、仰、有、當、正、後、中、上、津、實、計、津、院、  
送、行、也、後、取、也、

但、津、目、也、

一 津、子、振、也、津、實、美、在、同、部、為、志、中、也、

一 門、下、津、院、也、

津、山、院、  
津、目、人、  
津、目、屋、也、  
津、目、屋、也、

一 津、目、多、矣、

大、銀、振、津、也、夫、津、院、門、津、院、也、

一 津、目、

水、原、部、也、

一 津、目、

振、振、部、也、

右、方、也、津、院、也、津、院、也、津、院、也、津、院、也、津、院、也、  
津、院、也、津、院、也、津、院、也、津、院、也、津、院、也、

一 津、目、

津、院、也、津、院、也、津、院、也、津、院、也、津、院、也、  
津、院、也、津、院、也、津、院、也、津、院、也、津、院、也、

一 津、目、

十六日

一 休日 西津殿より白梅の遊覧

一 左の世津月、夜半より十七日早出仕在る夜  
志願中談

但し此の月、公事重なり、二日、三人、公出仕在る夜

沙小姓  
詰用人

江崎守

所草付

山崎守

江崎目付

江崎守

江崎守

加茂守

江崎守

但し此の月、公事重なり、二日、三人、公出仕在る夜

江崎守

西小姓

此の月、公事重なり、二日、三人、公出仕在る夜

加茂守

十七日

一 休日 西津殿より白梅の遊覧

江崎守

大森守

右  
大教條 許代者相初度五年有 許意之旨  
丁也無涉法之進

一 殊也其日

法光院極純二名回許念於宗院寺法當日  
涉法事口純初之之有自勤學業有之是日  
任有身自致力之是日  
左之也切之於許用初度中後

他口切之於許用初度中後

涉小姓類

涉用人

涉林草類

涉草類

涉物之類

涉部員自

涉學法類

涉物之類

涉法類

一 許中自度通

法光院極純二名回許念於宗院寺法當日  
涉法事口純初之之有自勤學業有之是日  
任有身自致力之是日  
左之也切之於許用初度中後

仙石公家

田喜人之  
相澤中

日

日

日

日

岩田爲  
似石之針  
青木澤爲  
大森金  
山村貞

勝部海  
在田常爲  
若七所  
名色古中  
作村丹  
友秀志尾

若原生志  
古田志  
福垣海爲  
金京十物

梅原中  
谷澤平爲

若原生  
杉原志  
信守爲  
作村丹  
野田爲

長孫德士  
敬如

長孫年為  
官德德為

河合與為  
答與女為

川長年為  
信厚年為

長孫年為  
敬如年為  
敬如年為  
敬如年為

日吉人於法  
不吉人於法

日吉人於法  
不吉人於法

日吉人於法  
不吉人於法

庚  
四月

法光院敘禮之旨  
日吉人於法  
不吉人於法

法純  
法純

法純  
法純

長孫年為  
敬如年為

三〇〇

少次  
呈候  
中島

亥  
四月

警書致

右沙汰事之旨候旨候并所出之候旨候  
中法在江部年月日候

江部年月日

右江部之旨候旨候并所出之候旨候  
中法在江部年月日候

右江部之旨候旨候并所出之候旨候

承  
取

法光法部統二名回沖意候旨候并所出之候旨候  
中法在江部年月日候

若田

中島

右江部之旨候旨候并所出之候旨候  
中法在江部年月日候

右江部之旨候旨候并所出之候旨候

承  
取  
江部

沙汰事料

啟者

許者真

一記名及

仙石友家

大啟者

右日所

許者真

許者真

大真者

負恭院者

許者真

許者真

一記名及

能者真

負表院者

無序者

許者真

許者真

許者真

一記名及

一酒能二十五 負信者

許者真

許者真

許者真

許者真

一記名及

許者真

仙石友家

河相

沙田入堂

法所

山田實堂

法所

山田實堂

法所

山田實堂

東山口江法中

叙相河本法中

山田實堂

書院

山田實堂

法所

法所

山田實堂

法所

山田實堂

法所

山田實堂

法所

法所

本口書  
信老院極許信年一月十九日  
方之書付之自書  
流水常名  
首

十九日

一 伯別位 西許殿之向物也

一 可之書  
中  
月

田中作  
田利  
舟木色

但信殿及公家

約身

一 大敵極明  
陸  
中

津信  
作

一 出極

丹波  
依  
修

加

一 山

左

五  
舟

下野... 敬次

大... 二...

仙石...

本...

右田...

本...

但...

女日...

一...

沖...

仙...

仙...

...

...

一...

一 法身法身法身 何處何處何處 何處何處何處

一 法身法身法身 何處何處何處 何處何處何處

法身法身法身

一 法身法身法身

二〇〇

少人  
足物  
中同

一 冲伐者兼涉物之通

冲苑 一柳

信氏 一折石入 荷の葉

冲茶 一取

做杯

冲者真涉度

大做杯

涉度

大寺原

日 涉度

貞恭涉度

日 日

福非涉

冬冬涉

無序涉

於涉

於涉

於涉

涉信 涉氏 一折石入

交卷卷尾

日人

仙石在系

吉原涉度

荒市涉

涉涉

涉涉

涉涉

涉涉

涉涉

一 右子言月日涉涉涉涉涉涉涉涉

涉涉

涉涉

一 淨法寺 自多修持  
山物者 乃不寺法月  
淨法寺 乃不寺法月

昌念寺  
有之寺  
寺法寺  
西林寺

一 酒能 二十和

西林寺

一 古山寺 淨法寺 乃不寺法月 乃不寺法月

一 山月寺

淨法寺 乃不寺法月 乃不寺法月 乃不寺法月  
淨法寺 乃不寺法月 乃不寺法月 乃不寺法月

一 乃不寺 乃不寺 乃不寺

限 寺 乃

上  
仙 乃 乃  
荒 乃 乃  
仙 乃 乃

淨 寺 乃

上  
若 田 乃  
寺 乃 乃  
乃 乃 乃  
乃 乃 乃  
乃 乃 乃

一 淨法寺 乃不寺法月

仙 乃 乃  
寺 乃 乃

大 仙 乃 乃  
初 乃 乃 乃  
淨 法 寺 乃 乃

寺 乃 乃

一 淨法寺 乃不寺法月 乃不寺法月 乃不寺法月

一 宗廟神祇及後世靈祐  
一 山寺古刹及僧尼  
一 冲法事者  
一 西冲教者  
一 紙面

九寸  
西冲教  
宗廟神祇

宗廟神祇

一 山寺古刹

宗廟神祇

右山寺古刹  
宗廟神祇

一 山寺古刹

宗廟神祇

右山寺古刹  
宗廟神祇

宗廟神祇  
山寺古刹

宗廟神祇

廿一日

一 例刻出仕

宗廟神祇  
山寺古刹

宗廟神祇

右口所

山付貞

一 解年古事子仕様  
三女くつ下仕様  
形中くつ下人仕様

工友付物  
形中くつ下  
年古事子  
當文十八歳

一 且痛向育不引来  
且袋取用十袋中  
形中くつ下人仕様

可胡志氏

一 大敵様唯方育仕様  
作位  
形中くつ下人仕様

一 西津殿口所用入仕  
係家仕様  
形中くつ下人仕様

徳谷之市

右口所  
形中くつ下人仕様

一 口所人仕

一 母後仕様  
形中くつ下人仕様

山付貞

廿二日

一 佛 西津殿  
形中くつ下人仕様

一 口所人仕

一 口所人仕  
形中くつ下人仕様

山付貞

常力  
清光

丹波軍小太郎三村物左衛門  
為修治所長也下於分家也

清光の初名也三村物左衛門  
小次郎常力也

清光の初名也  
清光

清光の初名也  
清光

常力清光

日

日

日

日

日

日

日

# 女三日

## 仙刺出仕

清光向...出仕家

西清銀...出仕

但右...出仕

大雲院  
清光  
仙刺出仕

清光

清光  
仙刺出仕

清光

清光

清光

清光

清光

清光

清光

清光

## 岩田静馬

## 仙石元家

一 以 許廣明 卷 烟 相 德

新 牙 德 卷 烟

一 山 月 人 生

山 月 沐 然

忘 中 引 三 卷 卷 烟  
如 初 下 仕 卷 卷 烟  
十 卷 卷 烟 山 月 沐 然 十 卷 卷 烟

一 山 月 沐 然 卷 烟

山 月 沐 然

右 卷 卷 烟

丁 白 卷 卷 烟  
十 卷 卷 烟

水 原 丁 白 卷 烟

右 卷 卷 烟 卷 烟 卷 烟 卷 烟 卷 烟 卷 烟

丁 白 卷 卷 烟 卷 烟 卷 烟

水 原 丁 白 卷 烟

右 卷 卷 烟 卷 烟 卷 烟 卷 烟 卷 烟

右 卷 卷 烟 卷 烟 卷 烟

右 卷 卷 烟 卷 烟 卷 烟 卷 烟 卷 烟

右 卷 卷 烟

右 卷 卷 烟 卷 烟 卷 烟 卷 烟 卷 烟

丁 白 卷 卷 烟  
十 卷 卷 烟

水 原 丁 白 卷 烟

水 原 丁 白 卷 烟

水 原 丁 白 卷 烟

右 卷 卷 烟 卷 烟 卷 烟 卷 烟 卷 烟 卷 烟

固部 孫君

長年其業以之... 物產... 山後... 乃向... 則中...

公田利

書後... 何... 齊...

女四日

一 佈 西河... 向...

一 大... 津...

一 少...

左... 一...

山... 伴七

山... 知...

山... 少年...

山... 知...

山... 幸七

山... 知...

女六日

一 佈 西河... 向...

一 少...

左... 一...

山... 卜...

山... 西...

一 江戸屋敷に在る遊女を三舟沖用状を討取  
用人の相好

廿六日

一 休日 西沖敵より何物も遊取

廿七日

一 何月何日 西沖敵より何物も遊取

何物も遊取  
何物も遊取

何物も遊取

一 何物も遊取 西沖敵より何物も遊取

何物も遊取 西沖敵より何物も遊取

何物も遊取

一 右の如く取上りては本意を以て遊取  
取上りては本意を以て遊取

相好

何物も遊取  
何物も遊取  
何物も遊取  
何物も遊取  
何物も遊取

何物も遊取

本日は兼門の事も無法で見るに成り  
難くはし 沙月終るに 四時出 沙夜に 正午着  
福之

沙使書

本日所

惣門

本日は重法云々 兼門の事も無法で見るに成り  
難くはし 沙月終るに 四時出 沙夜に 正午着

兼門

本日は兼門の事も無法で見るに成り  
難くはし 沙月終るに 四時出 沙夜に 正午着

門

廿八日

一 休日 正法殿 向物 延命

名原寺

右の事も 兼門の事も無法で見るに成り  
難くはし 沙月終るに 四時出 沙夜に 正午着

目門

大衆 兼門の事も無法で見るに成り  
難くはし 沙月終るに 四時出 沙夜に 正午着

一 目門 兼門の事も無法で見るに成り  
難くはし 沙月終るに 四時出 沙夜に 正午着

一 右の事も 兼門の事も無法で見るに成り  
難くはし 沙月終るに 四時出 沙夜に 正午着

水原寺

東...

山...

山...

山...

山...

一...

...

...

...

...

...

廿九日

一...

...

...

右

大...

...

...

...

...

右來月報八生外餘款新名編丁三子名

未月字

負相法極女七回許志許和為有於徑王寺

沙老方許茶何處可江

作有背何事何事何事何事

秋以思危中地

何背何背何背

清風人寫

所其行

少知是身

何能自付

七子後七子人

許中書付左

負相法極女七回志茶湯地何經等

相法費

勝林沙

在國名

七七年

長國名

竹村丹

交者若尾

口以

杜松中

公康年

口口

和之入古法

更

和之入古法  
和之入古法  
和之入古法  
和之入古法  
和之入古法  
和之入古法  
和之入古法  
和之入古法

和之入古法  
和之入古法

一山自深美汗者真山備在是口更更更

限或及  
朱之信

沙茶馬料

沙苑一對  
意所之發

沙備

啟標  
古始原 沙者真 今有文口

大身原 日 沙之口  
貞恭泥標

鴉雄標  
多身原  
無序標

沙代香片

於多作  
於年次  
於百整

一 酒祝 十和  
修言門者者台區之修  
百作

并  
以志人

一 沙袋者亦在每以用人百作

大教作  
大具作  
貝恭作  
以人  
以人  
以人

福非作  
多非作  
無非作  
於年次  
於年次  
於年次

以人

一 以中後志後方之每以用材之度

以月人  
以月人  
以月人

一 以東... 以東... 以東...

山徒士

右 貞相公法華法華事之平山家第方之  
有 通之徒法山徒法山徒  
一 左 通之徒法山徒

年月

貞相公法華法華事之平山家第方之  
通之徒法山徒法山徒  
一 左 通之徒法山徒

山徒士

若田

山徒士

山徒士

一 山徒士  
一 山徒士

山徒士

一 山徒士  
一 山徒士

一 山徒士

山田下役物  
常山之下也

山田又飛

山田者  
常山之下也

山田者為

山田者為  
常山之下也

吃新年

一日

山田者為  
常山之下也

山田者為

山田者為  
常山之下也

山田者為

山田者為  
常山之下也

山田者為

山田者為  
常山之下也

山田者為  
常山之下也

山田者為  
常山之下也

山田者為

山田者為  
常山之下也

出石藩

御用部屋日記

文政

十年

五月

出石町公民館蔵

文政十丁亥年

御留守

日記

青木好庵

五月小

津上平次  
津山源次  
津山源次  
津月人  
津物次  
津部平次  
津部平次  
津部平次  
津部平次  
津部平次  
津部平次  
津部平次

喜本洋次  
佐田源次  
本間市次  
志部源次  
右田源次  
谷津平次  
西川源次  
若 少  
岡中 連  
尾野源次  
河合源次  
中村源次  
中野源次

# 火消

岡部源次  
右田源次

本間源次  
松井源次

噴火口論

昨日

一 仙利未仕 西澤殿と書受海向少の相合は出  
一 沖子極力と書受本間市急可也上

一 田中殿の御書  
本間市急可也

田中殿  
田用入  
酒白信  
破世原

一 先月中と書中人の御書  
田用入

一 沖子他去大先月申上  
少の是月自限

一 沖子及申上  
及道出月自限

沖子及申上  
少の是月自限  
本間市急可也

六月五日  
田用入

田用入  
少の是月自限

沖子及申上  
及道出月自限

田用入  
及道出月自限

書... 仕...

田中...

中山...

姓...

卯升馬次

祖父... 加... 長...

本...

...

仙...

...

...

仙...

...

...

...

高橋...

馬...

水原...

本... 山... 岩...

齊東野語

卷之八

右江廣西... 乃... 乃... 乃...

水原

口使

...

...

但...

...

...

...

右江廣西... 乃... 乃... 乃...

二日

一 休日 西澤殿は向中山御入道

清月殿は向中山御入道

下清月殿は向中山御入道

但し清月殿は向中山御入道

西澤殿

杉立殿

二日

一 休日に任 西澤殿は向中山御入道

西澤殿は向中山御入道

仙石殿

一 乃し西澤殿は向中山御入道

西澤殿は向中山御入道

仙石殿

亡父章庵は向中山御入道

石村殿は向中山御入道

也云云は向中山御入道

信曾は向中山御入道

信曾は向中山御入道

才今年は向中山御入道

竹内殿は向中山御入道

中山殿

石村殿は向中山御入道

中山殿

一 大敵は向中山御入道

津傳治名 信記屋竹村其詳中在

今日傳教日也此大出用司理人之名能出聲

門實九卷法

西川信實

右於天書院其見之平日乃通而望之

本國十人

伴信九人

合功

中村次郎

西川信實

一 左 西川 津月 經 信 記 屋 竹 村 其 詳 中 在

西川信實

伴信九人

中村次郎

大書院之書信指以司書

西川信實

伴信九人

右一取日為信乃出用入 信記屋竹村其詳中在

津月者及信實

本屋十人

右身今年後百友之改名也 先年信實其家

其家者一信也信一信也信一信也信一信也

信也信也信也信也信也信也信也信也

信也信也

一 山前入生

山前山后路

町山頭

守社山以過寺  
山前山后路

高定 杉原三郎

王世德

作伴

一 清海 清代香沙香真乃道

山也 一對

前候 六袋

大教 全百七

本國年為

大教 清西洋

大真 浪三

自春 後

本國人

清子 梅

山收人

一 本年自清非附出

溫既 十

正信

本以年信山為定年以

一 山年信山收人收仕一月清月

山年信山

一 清海山月信山收人清月

山年信山

一 清海山月信山收人清月

山年信山

一 清海山月信山收人清月

山年

一 大九 龍香 之 龍

仙名 尺系  
仙年 長九  
仙名 尺系

右之道 仙年 尺系 仙名 尺系 仙年 長九 仙名 尺系

但文 改六年 尺系 仙名 尺系 仙年 長九 仙名 尺系  
仙名 尺系 仙年 長九 仙名 尺系 仙年 長九 仙名 尺系

一 仙名 尺系 仙年 長九 仙名 尺系 仙年 長九 仙名 尺系

仙名 尺系 仙年 長九 仙名 尺系 仙年 長九 仙名 尺系  
仙名 尺系 仙年 長九 仙名 尺系 仙年 長九 仙名 尺系

仙名 尺系

仙名 尺系 仙年 長九 仙名 尺系 仙年 長九 仙名 尺系

仙名 尺系 仙年 長九 仙名 尺系 仙年 長九 仙名 尺系

仙名 尺系

仙名 尺系 仙年 長九 仙名 尺系 仙年 長九 仙名 尺系  
仙名 尺系 仙年 長九 仙名 尺系 仙年 長九 仙名 尺系

仙名 尺系 仙年 長九 仙名 尺系 仙年 長九 仙名 尺系

仙名 尺系

仙名 尺系 仙年 長九 仙名 尺系 仙年 長九 仙名 尺系

仙名 尺系 仙年 長九 仙名 尺系 仙年 長九 仙名 尺系

仙名 尺系 仙年 長九 仙名 尺系 仙年 長九 仙名 尺系

仙名 尺系 仙年 長九 仙名 尺系 仙年 長九 仙名 尺系

一 冲子梅方上瑞午法授及本回市急行等事  
瑞午年正月廿三日

一 因津国经后上瑞午  
法授及事

仙石及在  
津山姓氏  
津州人  
酒白信  
破此原古  
西山老老

一 山小書院二  
月以下及人  
津州書院  
大書院

一 瑞午法授及事  
法授及事

產屋  
但男子出

仙石之針

產屋  
津先上經多自月六日

本目人

一 休日  
栗津殿上  
六日

產屋  
津先上經多自月六日

仙石之針

一 山崎正行 吉田忠之 等

中野海軍部 署長

右記 仁育今組 陸軍部 陸軍大臣 陸軍省 陸軍部 陸軍大臣

若沼小次郎

七日

一 佐野出仕 澤野 貞 同出仕 田代 貞 等

一 山崎正行 等

陸軍部 陸軍大臣 陸軍省 陸軍部 陸軍大臣  
月代出仕 田代 貞 等

小林 忠 等

一 山崎正行 等

陸軍部 陸軍大臣

右今般 吉田忠之 等

大塚 隆 沖田 馬 津 等

右 田代 貞 等

一 田代 貞 等

右記 仁育今組 陸軍部 陸軍大臣 陸軍省 陸軍部 陸軍大臣  
月代出仕 田代 貞 等

右田人

右記 仁育今組 陸軍部 陸軍大臣 陸軍省 陸軍部 陸軍大臣

右田忠之

右記 仁育今組 陸軍部 陸軍大臣 陸軍省 陸軍部 陸軍大臣  
月代出仕 田代 貞 等  
右記 仁育今組 陸軍部 陸軍大臣 陸軍省 陸軍部 陸軍大臣  
月代出仕 田代 貞 等

一 右白

弓削信房

右白の如き遺仕入 寄附同多有り

一 片道迄 何れ旨 既用紙巻中

此山氏 中事 山氏 蓋

為

山入人 山 山 山 山 山

弓削信房

山 山 山

一 此書 信房 山 山

信房 山 山 山 山 山

山 山 山

右 山 山 山

山 山 山

山 山 山 山 山

山 山 山

八白

一 休白 西澤殿 向中 山 山 山

山 山 山 山 山

竹村丹辨

山 山 山 山 山

右田定房

九白

一 休別出仕 西澤殿 向中 山 山 山

山 山 山 山 山

弓削信房

一 乃之通活 仁育首於用部也

津路より山崎まで  
西津殿に例の八人並  
手作の先  
皆おぬる候と云

竹村丹研

在合

股部系

右為見の何と云書院に於て是迄の年迄  
及西室の事と云書院

子身  
股部系  
喜木書院  
友條之部  
書院

白井唐一  
坂本年

右の事門内事と云人の事難と云用部系  
以迄の事用部系

股部系

仁和寺

友條信之

右の事

山信書院

右の事

多人の事

山門系

右の書院と云るは在居口用部系

中にも用部系  
仁和寺の事書院と云る事

仁和寺

十日

一 休日 西津殿に伺ひて酒を酌み交はす

楊清の身は法住の如し

大表登

一 今日屋敷番に申し、敷居の儀を告ぐに付、後夜  
行又申し、二更の首に御座り候事候に付、一更

此の如し候事

松原守左衛門

徳永半兵衛

橋井一右衛門

松原守左衛門

徳永半兵衛

橋井一右衛門

此の如し候事

右の通り候事候に付、二更迄候事候に付、

十日

一 休日出仕 西津殿に伺ひて酒を酌み交はす

一 休日出仕

一 休日出仕 西津殿に伺ひて酒を酌み交はす

此の如し候事

徳永半兵衛

一 休日出仕 西津殿に伺ひて酒を酌み交はす

西田所

松原

高島守左衛門

西田所

松原

徳永半兵衛

本之實廣也... 及公入之... 此係... 亦... 身... 上... 亦...

十一日

休日

西澤教上自中細...

十一日

例別古仕

書本...

清用向有... 西澤...

清用向有... 西澤... 清用...

一 休日 十月十日  
一 西澤屋の月夜酒の会  
一 山崎屋の会

中山村の夜酒の会  
山崎屋の会  
西澤屋の会

中山村の夜酒の会

荒木甚重  
吉田忠  
会品十物  
中澤屋  
高山甚重  
野見丸  
小林権次  
吉田忠

十日

一 佐川屋の西澤屋の會  
一 山崎屋の會

西澤屋の會  
山崎屋の會

中山人  
女友甚重

右澤屋の會

十一日

一 休日 西澤屋の會

書在也以  
津廣地後温泉名湯一湯名は難言  
多力湯湯山湯也

田中伊志

一 江山如以進

増美石白

駒井馬次

十七日

二 仙別出仕

津用白...  
仙別出仕

仙石左京  
吉本海兵衛  
山村貞

仙石寺

大森梅 津代若お助庵主  
津代若お助庵主 津代

大森 登

岩田梅 津代若お助庵主

仙石左京  
岩田梅  
大森 登  
山村 貞

本堂取山後...  
後身津用生九人

津代若お助庵主...  
津代若お助庵主

一 江戸表書八日...  
出別使お助庵主始

殿梅...  
上梅益津梅庵主

予の書中

但西津敷清國の明使家系を言ひて撰録す

十八日

休 西津敷清國の明使家系

一 西津敷清國

西津敷清國の明使家系を言ひて撰録す  
一 西津敷清國の明使家系を言ひて撰録す  
仕道中 西津敷清國の明使家系を言ひて撰録す  
一 西津敷清國の明使家系を言ひて撰録す

山中平三郎

一 山中平三郎

為高用村 西津敷清國の明使家系を言ひて撰録す  
一 西津敷清國の明使家系を言ひて撰録す  
仕道中 西津敷清國の明使家系を言ひて撰録す  
一 西津敷清國の明使家系を言ひて撰録す

山口清三郎

西津敷清國の明使家系を言ひて撰録す  
一 西津敷清國の明使家系を言ひて撰録す  
仕道中 西津敷清國の明使家系を言ひて撰録す  
一 西津敷清國の明使家系を言ひて撰録す

仙石良三郎  
若田静馬  
大森 登  
山村 貢

西津敷清國の明使家系を言ひて撰録す  
一 西津敷清國の明使家系を言ひて撰録す  
仕道中 西津敷清國の明使家系を言ひて撰録す  
一 西津敷清國の明使家系を言ひて撰録す

青木清三郎

西津敷清國の明使家系を言ひて撰録す  
一 西津敷清國の明使家系を言ひて撰録す  
仕道中 西津敷清國の明使家系を言ひて撰録す  
一 西津敷清國の明使家系を言ひて撰録す  
仕道中 西津敷清國の明使家系を言ひて撰録す  
一 西津敷清國の明使家系を言ひて撰録す

喜本洋卷之五和何中物事圖考

大表 卷

十九日

一 例列仕仕 西津殿之相也何中物事圖考

一 例列仕仕 西津殿之相也何中物事圖考

喜本洋卷

一 例列仕仕 西津殿之相也何中物事圖考

仙石主計

一 例列仕仕 西津殿之相也何中物事圖考

口上覽

私儀代表

津原恩甚上之儀也 口上之儀也

一 例列仕仕 西津殿之相也何中物事圖考

文政十丁亥年九月九日

仙石主計

仙石主計

荒木玄蕃

岩田輝馬

善及亦如屋  
善本得定者  
大亦登屋  
山村 首屋

只上覺

私儀代々奉蒙

沖厚恩甚之部屋恒申公話 長信據名

召仕進之重慶致候也 仰付並言其真加之極

能是仕合也何何心出信如動于氣今致

涉務公言也此年涉一併其不利在候也

不個法之極也之入公言涉候候之極也其美也

以 沖急進涉候

沖候免之如也候也公不苦思之矣何也其候

身輕也公以上

文政十丁亥年五月九日

陸部 海島

仙石 尺取殿

沖厚恩甚之部屋恒申公話

右目以

竹村 丹解

只上覺

私儀代々奉蒙

冲厚恩甚上云云改叙也 何有也云云其如云極  
難之仕合宜也然其云今叙涉籍云云其如云其  
其前後之個不可在後者有一不謂法也其云之  
其云云之其云入其云以 冲意悲涉改儀

文政十丁亥年六月廿一日

其儀代奉

其儀代奉

口上覽

私儀代奉

冲厚恩甚上云云改叙也 何有也

冲加恩甚下云云其如云極難有仕合宜也其如云  
其儀仕也其云今叙涉籍云云其如云其儀仕也其  
不可在後者有一不謂法也其云之其云以

冲意悲涉改儀 冲叙免其如後其如作不若  
其如云其如後其如作不若

文政十丁亥年六月廿一日

其儀代奉

其儀代奉

口上覽

私儀代奉

沖代の書表 沖代意其の語を以て可なり

正徳の書表 正徳書其の語を以て可なり

正徳書沖代意其の語を以て可なり 正徳意其の語を以て可なり

何れも出信は其の語を以て可なり 今取書其の語を以て可なり

正徳意其の語を以て可なり 正徳意其の語を以て可なり

正徳意其の語を以て可なり 正徳意其の語を以て可なり

沖代意其の語を以て可なり 沖代意其の語を以て可なり

相好の語

文政十一年六月九日

竹村の書表

正徳の書表

正徳の書表

私儀代の書表

沖代意其の語を以て可なり 正徳意其の語を以て可なり

正徳意其の語を以て可なり 正徳意其の語を以て可なり

正徳意其の語を以て可なり 正徳意其の語を以て可なり

正徳意其の語を以て可なり 正徳意其の語を以て可なり

正徳意其の語を以て可なり 正徳意其の語を以て可なり

正徳意其の語を以て可なり 正徳意其の語を以て可なり

文政十一年六月九日

正徳の書表

正徳の書表

只覽

松後亡祖父新物

沖原忠其子進之信輝也 仁有法致後也

仁有直平之英氣能極服首仕合其子并十行也

却信也動一十和今致法為言法進法為言五有

在後五個方不列在後也言一十酒信也極也

廿上以 沖原進法致

沖原免也言後也言致也言也

文政十丁亥年方二日

沖原進法

只覽

只覽

松後亡祖父新物

沖原忠其子進之信輝也 仁有直平之英氣能

能仕合其子并十行也言一十酒信也極也

沖原免也言後也言致也言也

廿上以 沖原進法致

沖原免也言後也言致也言也

文政十丁亥年方二日

沖原進法

文政十丁亥年方二日

原五所

山田二所

佐野所

一 月 八 日

月 八 日 申 時

月 八 日 申 時 申 時 申 時

申 時

一 月 八 日 申 時 申 時 申 時

月 八 日 申 時

但 病 氣 出 仕 難 於 成 功 之 數 亦 由 此 人 為 名 代 名 公 務 難 也

月 八 日 申 時 申 時 申 時

仙 石 主 針

仙 石 主 針

竹 村 丹 解

瑞 海 台 丈

瑞 海 台 丈

竹 村 丹 解

瑞 海 台 丈

瑞 海 台 丈

瑞 海 台 丈

一 右 有 四 月 八 日 申 時 申 時 申 時

一 仙 石 主 針 出 仕 難 於 成 功 之 數 亦 由 此 人 為 名 代 名 公 務 難 也

但 文 政 六 年 一 月 八 日 申 時 申 時 申 時

仙 石 主 針 出 仕 難 於 成 功 之 數 亦 由 此 人 為 名 代 名 公 務 難 也

一 今七舟於仙石左京者 其田神馬山村賣列在  
山月村法村治延 三云左京一也

山陽乃乃水斗不可在後云云

山後部 區不官易事 止山月

江為立 山月舟部 山月後

津免

百石減額

山陽乃乃水斗 山月後

山陽乃乃水斗

山陽乃乃水斗 山月後

仙石之針

山陽乃乃水斗 山月後

一 今七舟於津川者 其本津延 元大森登列在

本間津延 仙石山月村間中連 三云乃乃水斗

山陽乃乃水斗 山月後

山陽乃乃水斗 山月後

津免

山陽乃乃水斗

山陽乃乃水斗 山月後

山陽乃乃水斗 山月後

山陽乃乃水斗

山陽乃乃水斗

山陽乃乃水斗 山月後

山陽乃乃水斗 山月後

山陽乃乃水斗

山陽乃乃水斗

山陽乃乃水斗

山陽乃乃水斗 山月後

山陽乃乃水斗

山陽乃乃水斗 山月後

山陽乃乃水斗

山陽乃乃水斗

山陽乃乃水斗 山月後

山陽乃乃水斗 山月後

山陽乃乃水斗

山陽乃乃水斗 山月後

新田

口口口之青組下組入

但希 越前 若波 紀次

去冬村札 中井 不詳 兼 中井 中井 兼 中井

也 中井 兼 中井 兼 中井

中井 兼 中井

重田 兼 中井

右田

中井 兼 中井 兼 中井

但希 村山 兼 中井

也 中井 兼 中井 兼 中井

右田 兼 中井 兼 中井

中井 兼 中井

芦 兼 中井

也 中井 兼 中井 兼 中井

丹 兼 中井

一 布 兼 中井 兼 中井 兼 中井

中井

一 布 兼 中井 兼 中井 兼 中井

一 布 兼 中井 兼 中井 兼 中井

也 中井 兼 中井 兼 中井

丹 兼 中井

也 中井 兼 中井 兼 中井

但 中井 兼 中井 兼 中井 兼 中井

也 中井 兼 中井 兼 中井 兼 中井

也 中井 兼 中井 兼 中井 兼 中井

口為是正法之書  
亦如也

口為是正法之書  
昔之與也

昨日妻也

口為是正法

有通中法在也

若知何也

六日同共三日

代  
代

代  
代

本今日也

何有也  
法用者也

代  
代

代  
代

若知何也

六日同共三日

代  
代

本國之也

代  
代

右法也

本今日也

代  
代

代  
代

代  
代

右法也

今日也

右法也

代  
代

仙石王討候

口姓

所又之末意

仙石原京  
仙石原京

○古波雄道

古波安女

二日月班 才

杉原平一

叔父

酒白信

○原五所公海

妹年

早川半野

胎部武史

延喜二及三

册別不及其後音

不及同

宮如長是二及三

叔父年

磯野原公海

忘胎今海牙

原又市

海白 兼

全信海

全信半信

極牙遠

胎部武史

少色

胎部武史

二日月文

胎部武史

本間平

册文

妹年

智年

德水半集  
不問十更

正法年

化石及系  
化石及系  
塔寺即此

舍品十物

方皮出外

正法年

塔 難物

海白 其意

舟上京師

系 又市

全法海

山田德

弓割傳

杉原年

竹村丹解廣

口解

竹村

竹村

竹村

竹村

荒 亦玄著

解

正氣

不及何

若田利水

之及財物

為務又為

有系一府

中村若

若田平

實

若田平

若田平

河野

忘勝

荒木

若田平

○ 早川 保

望見

一柳

石橋

本間

平尾

橋山

大若山

不友何

病身... 自傷... 往... 勿... 回... 云...  
子... 誠... 以... 不... 亦... 自... 進... 中... 一...

信

信

不 遠 更 後

口

二日

若 七

名和佳气

物列不不其故

不友同

名和佳气物又之友

物列不不其故

物和佳气物又之友

不及何

石山先生

竹村次郎為侯

後色正彦

河内武彦

水江之彦

太田文門

夏島隆吉郎

二日月 竹村小太郎

二日月 草川德太郎

竹村丹絳

竹村長吉

竹村繁三郎

竹村熊吉郎

岡口左衛門

高山長安

弓削傳

岡口清三郎

山村七郎

岡口晴之助

○中西 東

本田忠彦

西山善太郎

横山謙吉郎

所又

念之屋

二日月

孫

年

口

官

中

大

馬

不及何

差相促气

脚刻不及甚候

不及何

差相促气

足舞

舟上源台

瑞田在源台

重田甚五

廿二日

重田荒治

廿二日

赤次平台

二月廿二日

是年甚危

廿二日

瑞田在源台

廿二日

善山

瑞田在源台

芦江流感候

二月廿二日

芦江流感

廿二日

芦江流感

二月廿二日

赤次平台

瑞田在源台

善山

瑞田在源台

赤次平台

善山

瑞田在源台

赤次平台

善山

瑞田在源台

右記の如くあり

之及同

右記の如く

舟上之友

望見丸丸  
望見丸丸

麻丸丸丸

本間合丸

○横山界丸

関口角丸

三月廿日  
舟上楠丸

二月廿日  
舟上強丸

二月廿日  
舟上強丸

二月廿日  
白杉丸

右記の如くあり

右記の如くあり

森舟丸

後辺丸

舟上丸

右記の如くあり

道中

殿指

舟上丸

但減丸

一月道 秋歌 集 仁 藤 子 藤 山 藤 人 上 续

用 矣 河 念 念 院  
道 洛 西 山 是 院

好 源 古 史

用 矣 古 磨 是 矣 之 矣  
西 洛 古 磨 是 矣 之 矣

竹 村 次 野 院

用 矣 古 白 杉 平 院  
西 洛 古 白 杉 平 院

丹 上 夏 史

用 矣 上 院 中 古 院  
西 洛 古 院 中 古 院

重 田 古 史

用 矣 古 院 中 古 院  
西 洛 古 院 中 古 院

芦 江 信 院

女 日

一 休 日 栗 野 院 古 何 中 山 院 古 史

一 休 日 溪 谷 院 唯 其 日 四 册 古 史 信 院 古 史 院

右 十 所 院 杉 原 古 史 荒 东 古 史 院

右 田 古 史 河 念 念 院 念 念 十 院

丹 上 古 史 院 田 平 史 依 之 间 古 史 院

植 松 十 所 院 岩 古 史 院 岩 田 古 史 院

院 院 古 史 院 小 念 念 院 本 间 古 史 院

西 洛 又 古 史 院 念 竹 院 友 信 古 史 院

西 山 古 史 院 院 古 史 院 西 川 古 史 院

一

全氏源在 素 和同德寺 素 標田年素

松植果良 素 標田武内 素 每及角足

高田十所

真旺宗三郎 素 村山 素

山田德三郎

河出廣江

古一白

一 何別出仕 西澤教 向中宗細合三教

一 山田 素

又之部 山田德三郎 素 和同德寺 素 標田年素 素 每及角足 素 村山 素

月及角足

一 山田 素 何別出仕 西澤教 向中宗細合三教

山田德三郎

七所

山田德三郎

松原信三郎

山田德三郎

荒及基三郎

山田德三郎

右田忠三郎

山田德三郎

山田德三郎

河合忠三郎

以父子相承  
荒居本言在故地也

以書翰後志

以幼事父

序是也

前在中古之世

所事以  
序是也

以勤是勤

以勤是勤

序是也

在日行  
勤是勤

以勤是勤

以勤是勤

序是也

序是也

以勤是勤

以勤是勤

序是也

以勤是勤

以勤是勤

以勤是勤

以勤是勤

念亦十也

升之十也

好回十也

休之十也

極之十也

若回十也

不問十也

若回十也

結之十也

而之十也

好之十也

小倉之十也

如回之十也

山正留卷  
山增武内  
山增武内

山增武内  
山增武内  
山增武内

山增武内

山增武内

山增武内

山增武内

山增武内

山增武内

山增武内

山增武内

山增武内

山田静馬  
王氣源在  
山行 頁

古 迹 在 石 原 古 蹟 之

沙路の方言なり  
他は沙路の方言なり  
沙路の方言なり  
左の方言なり  
右の方言なり  
合記の方言なり

一 月 道 記 仁 智 寺 跡 用 記 念 中 後

沙路の方言なり

月 道 記  
荒木甚志  
間中甚志  
後村甚志

仁智寺

沙路の方言なり

山 原 間 出 番 者 入

河 畔 渡 江

川 之 番 者 入

山 田 甚 志 郎

本 道 記 仁 智 寺 山 田 甚 志 郎 氏

一 月 道 記 用 記 念 中 後 合 記 中 後 合 記 中 後

山 原 間 出 番 者 入

山 田 甚 志 郎

山 原 間 出 番 者 入  
川 之 番 者 入  
山 田 甚 志 郎  
山 田 甚 志 郎  
山 田 甚 志 郎

山 田 甚 志 郎

山 田 甚 志 郎

山 田 甚 志 郎

山 田 甚 志 郎

山 田 甚 志 郎

出處不明

町屋町人

丁中屋

山崎屋

是名屋

後田屋

少子屋

増田屋

但書

若名屋

山崎番

但書

三浦屋

山崎屋

五反屋

山崎屋

本屋

山崎屋

新屋

山崎屋

玄

山崎屋

但書

又屋

山崎屋

但書

色屋

山崎屋

軍

浪江

山崎屋

今日

四川四川人

一月通水... 二月... 三月... 四月... 五月... 六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...

中山组

同组

中山组

同组

中山组

永定组  
同组  
地方组  
同组  
平定组  
同组

中山组

永定组

右为... 一月... 二月... 三月... 四月... 五月... 六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...

殿梅... 二月... 三月... 四月... 五月... 六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...

同组

中山组

永定组  
同组

右为... 一月... 二月... 三月... 四月... 五月... 六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...

殿梅

中山组

永定组

右为... 一月... 二月... 三月... 四月... 五月... 六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...

殿梅

殿梅

中山组

右为... 一月... 二月... 三月... 四月... 五月... 六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...

又...  
...

...

大表

一 寶人

...

...

...

...

杉原...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

廿二日

一 休日 西津殿より向江の地へ去る

一 江側住居人長岡右中守

西津殿に於て

長岡右中守

河津浪石  
山田熊三郎

右殿は此中守長岡右中守の御代に於て  
御代に於て

廿二日

一 御別出仕 西津殿より向江の地へ去る

飛騨守御代  
長岡

末田爲三

右

大教院に於て 西津殿より向江の地へ去る

西津殿より向江の地へ去る

一 大教院に於て 西津殿より向江の地へ去る  
長岡右中守の御代に於て 西津殿より向江の地へ去る  
長岡右中守の御代に於て 西津殿より向江の地へ去る

一切

小泉洞春  
萩 玄長  
中 小次郎

一切

因次席

山中小姐

西醫師

今收塔寺所由中承以四用人為常杉原  
友清荒木甚佳四用人收中承以承合之  
中承但更記也 何曾以承後至厚得家  
亦無他信也 何曾

但久承之面之日收日解也但中承信也

一 乃道而法用總念十信

貴信

中得伍信

今收塔寺所由中承以四用人為常杉原

何曾以承中承信也何曾信也

何曾

免是氏

本日以中承以何曾信也

何曾

門信級  
地月收  
四代发  
年高定  
新信級

右二回之... 府中... 今收塔寺所由中承以四用人為常杉原

仁育公心其曰善圖也物存也

仁育

但名聲一聞三日後必十倍名聲

一月道極同也 仁育仁育甘山處之好善多矣

登也一氣一序也海山後以名也

仁用人設

仁用人設

仁先之為人

仁後之為人

町子行

仁為之而後

仁為之而後

仁為之而後

仁為之而後

仁為之而後

仁為之而後

仁為之而後

仁為之而後

杉原信也

荒木甚也

右田忠也

河合也

金泉十也

堀田平也

佐之岡也

若田也

不岡也

若也

若也

西山也

若也

全也

不岡也

若也

山橋山書房

川信致

西澤殿書信

西川也屋

為後又屋

真大屋

高田十郎

村山家

總身人甚平

右江書信月二日致

津屋道中一書多為忘仕難言病身自

名代菊川信也等不遺忘仕位亦能行仕

信如也

一 望月書信月二日致

殿極平信 上二極平津城極平

山別系平一書中來 但津城極平

一 望月書信月十四日致

乃一書中來

四月廿二日

望月一書中來月二日致

橋山屋外

橋井一書中

萩 主書

四月廿六日

望月一書中來月二日致

萩 主書

四月廿六日

望月一書中來月二日致

重田元信

日七〇

大岩山平林極細致母下海也  
但致書ハハ志者ハ志也

萩 之 旨

日七一

一 公方極沙昂之 日有極沙位階之月也  
沙在始法形之月 亦極沙位階也

日七二

一 月之極沙 作符旨十箇也  
但此等之極沙 亦極沙位階之月也 亦極沙位階也

宇野源重  
宇野源重

日七三

一 沙位階位階之下  
沙位階位階

依田物重  
何野物重

日七四

一 經合公身休息也  
但今公身休息也  
但今公身休息也

後沼四郎重

日七五

一 送中六井川一り家より方知也

中西 未  
志者一り

一 上極位也  
但此等之極位 亦極位也  
但此等之極位 亦極位也

吉井源重  
吉井源重

日七六

一 吉井源重公の極位也 極位也 極位也  
吉井源重公の極位也 極位也 極位也

宇野源重  
宇野源重

日七七

一 吉井源重公の極位也 極位也 極位也

吉井源重  
吉井源重

日七八

一 吉井源重公の極位也 極位也 極位也

此書中... 卷之...

一月... 信...

此書... 前...

麻...

身... 法...

日...

但...

一... 信...

土...

本... 上... 正... 不...

一... 信...

日...

右... 信...

口...

一... 信...

信... 信...

一... 信...

信...

信...

信...

日...

信...

信...

日...

信...

日三ノ人

日三ノ人

日三ノ人

日三ノ人

日三ノ人

山者

一 後田 下

一 山崎 敬  
一 山崎 敬  
一 山崎 敬

山崎 敬

山崎 敬

敬 敬  
敬 敬  
敬 敬  
敬 敬  
敬 敬

山崎 敬

山崎 敬  
山崎 敬  
山崎 敬  
山崎 敬  
山崎 敬

山崎 敬

山崎 敬  
山崎 敬  
山崎 敬  
山崎 敬  
山崎 敬

山崎 敬

山崎 敬

山崎 敬

冲子居方  
山田

治山段人

一法先流極淨昔日存人今尚不流

荒木玄著  
山田二舟八  
麻尾出所出  
依田純三著  
真田保三著

山番士

小林三馬  
宮見長吉  
宇野少舟  
白井半十郎

幸川信三著  
山屋士目付  
山屋士  
山屋

冲代番士番真

大教極  
浪三教

大奥極  
負卷流極  
全島百走

冲子居方  
浪三教  
温既  
二十舟

荒木玄著

信山流三著

浪三教人  
浪三教

一 陸軍省官自... 二 陸軍省官... 三 陸軍省官...

一 陸軍省官... 二 陸軍省官... 三 陸軍省官...

陸軍省官... 陸軍省官...

陸軍省官...

陸軍省官...

陸軍省官...

陸軍省官...

陸軍省官...

陸軍省官...

陸軍省官...

陸軍省官...

陸軍省官... 陸軍省官...

陸軍省官...

荒木玄蕃  
青木玄蕃

陸軍省官...

原六郎左衛門  
山田二郎八  
田七郎

陸軍省官...

出波左衛門  
麻見四郎左衛門

陸軍省官...

依田助左衛門  
河野丹次

陸軍省官...

夏島半右衛門  
小林五郎  
平尾右衛門  
石井左衛門

陸軍省官...

三田右衛門  
白井半十郎  
新屋七郎

一 大徳寺... 寺名... 寺名... 寺名...

志保乃道

曆年目

曆年目

後沙路

寺名

山内入心

山内入心

山内入心

寺名

一 大徳寺... 寺名... 寺名...

寺名

真相院指 寺名

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

寺名

寺名

寺名

寺名

寺名

源池院梅日記

津並宮梅、梅屋院一列

為殿梅

大夷梅  
灰卷院梅

津子梅

二四日  
一 津法事、自山寺法后也

山田二郎八

石原新吉

法政人

荒木玄着

山田二郎八

古伎形道

河地丹次

中番士  
小林至馬

鶴見長年吉

山川乙太郎

荻川信重

山田士月日

山田士

山田士

貞相院梅 津中若

為殿梅 金武寺

大夷梅 日蓮寺

津子梅

山田若

源池院梅日記

津並宮梅 金武寺

志木玄着

尾水梅屋

法政人

志敏梅

山田二平八

大奥梅

信水梅

清子梅

清少梅

温純十舟

正徳十舟

一 涉法年... 一 涉法年... 一 涉法年...

山寺 真悟一巻

仙石左京 山寺 真悟一巻

殿梅

瑞慶院二巻

百人

大奥梅 貞春梅 玉皇齋二巻

仙石左京 貞春梅 玉皇齋二巻

一 貞相院梅出法年... 一 貞相院梅出法年...

山寺 真候一巻

仙石左京 山寺 真候一巻

清子梅 玉皇齋二巻

清子梅 玉皇齋二巻

女四日

一 休日 西津殿より山田川へ

志隆寺

大蔵権 津代若手宛書一通

津代若手宛書一通

山村貞

監製式支

杉原平助

関口鈴女

津代若手宛書一通

津代若手宛書一通

津代若手宛書一通

監製式支

竹村丹解

松任源次郎

一 右 右 右 右 右 右 右 右 右 右

女六日

一 休別本仕 西津殿より山田川へ

津代若手宛書一通

山村貞

山人

志隆寺

監製式支

竹村丹解

松任源次郎

右 右 右 右 右 右 右 右 右 右

津代若手宛書一通

右 右 右 右 右 右 右 右 右 右

此花元大席

口是定席

口是定席

口是定席

但席大席

口是定席

但席真世家

口是定席

口是定席

口是定席

口是定席

口是定席

口是定席

口是定席

口是定席

口是定席

右今七月於津川用番家口月付國中連三云

但及在口

但及在口

但及在口

津川用番家

口是定席

津川用番家

口是定席

津川用番家

口是定席

右今七月於津川用番家口月付國中連三云

口是定席

一、今七册津月音韻書及律篇完之卷尾列里  
外有八人姓名若尾均世世山自付間中運其言在每  
切一得寫一也

外  
源

各代  
結  
部  
初  
物

竹  
材  
解  
篇

各代  
楷  
心  
任  
惠  
寫

平  
田  
易  
公  
書

各代  
法  
部  
序

平  
江  
信  
院

上  
本  
身  
後  
結  
寫

何  
曾  
道  
以  
語  
結  
律  
津  
先  
公  
事

升  
上  
局  
書

右  
終  
完  
結  
津  
先  
十  
後  
在  
前  
之  
官  
文

中  
用  
人  
理

何  
道  
一  
局  
在

何  
道  
一  
局  
在  
新  
結  
心  
在  
事

升  
上  
局  
書

一、結  
津  
先  
之  
局  
在  
人  
公  
入  
中  
外  
官  
部  
中  
用  
人  
書  
院

平  
江  
信  
院  
之  
局  
在  
官  
部  
中  
用  
人  
書  
院  
之  
局  
在  
官  
部  
中  
用  
人  
書  
院

但  
升  
上  
局  
書  
院  
之  
局  
在  
官  
部  
中  
用  
人  
書  
院

左和延是二女家高台  
但和延姓之友甚多者

荒木甚佳

右田大左  
合共十物

本宿子方、後中用年久人、序似自道平住品  
津被取、お和延入、左和延同、自、有、道、平、住、品

女六日

休日 西津敷、同、山、田、平、住、品

女七日

例刻仕 西津敷、同、山、田、平、住、品

左和延、お和延、入、左和延、同、自、有、道、平、住、品

左和延、お和延、入、左和延、同、自、有、道、平、住、品

津被取、お和延、入、左和延、同、自、有、道、平、住、品

津被取、お和延、入、左和延、同、自、有、道、平、住、品

左和延、お和延、入、左和延、同、自、有、道、平、住、品

左和延、お和延、入、左和延、同、自、有、道、平、住、品

右和延、お和延、入、左和延、同、自、有、道、平、住、品

休日

三女、後、中、用、年、久、人、序、似、自、道、平、住、品  
津被取、お和延、入、左和延、同、自、有、道、平、住、品

三女、後、中、用、年、久、人、序、似、自、道、平、住、品

好乘極志彈弓秋正甲中似以是為標  
以 許應務運為力仕名乘此也

紅藥石為

竹村海鏡

市之向之山後之山後之山後  
物表之山後之山後之山後

山後之山後  
山後之山後

重國甚為  
山後之山後

右山月自山之山後之山後  
但意亦由是之山後之山後  
任其自其自之山後之山後

右山月自山之山後之山後

山後之山後  
山後之山後

園口鈴女

右山月自山之山後之山後  
山後

山後之山後  
山後之山後

大赤堂  
山後之山後

山後之山後

山後之山後  
山後之山後

山後之山後

為仕農者外言其心也

名位女上其政中其言其書其心也  
口雖平而外海中國其心也

大溪勇次

橫氏之私其古達上其月代其友  
十夜其心也

依田來也

一町年行至

其心也

依田  
依田  
依田

右家族長也其家昔月一日其志也其心也

字野原  
字野原  
字野原

河原之志其心也其心也其心也其心也  
其心也其心也其心也其心也

殿梅 上之梅其心也其心也其心也其心也  
其心也其心也其心也其心也

一山其心也

山其心也

右山其心也其心也其心也其心也  
其心也其心也其心也其心也

山口其心也

其心也其心也其心也其心也  
其心也其心也其心也其心也

一 四月八日

実父多由縁とて痛切に思ふに  
中々より其誠を返すに仕らば  
二高進も仕らば一高進の誠を返すに

山中平之助

一 中平好吉

弟百女姪東極元降も其心中  
竹筒五葉乃と為り子より日  
只ん世も其心一其也

水尾十郎

一 六月八日

一 休日

西津屋の當日に辻原屋へ紙回りに納金

一 八月八日

一 四月八日

主國基義  
少辰信元

右八月八日村治為三合市為其片端  
与海也

一 八月  
丹上夏之吉

右八月八日村治為三合市為其片端

一 八月  
高橋忠吉

九月九日

佐利太仕 西津殿 何吉小畑 人三之助

一 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉

山崎 人三之助

一 田村 人三之助

信友 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉

大沼 勇次

一 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉

昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉

昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉

昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉

昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉

昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉

市道 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉

昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉

昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉

昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉

昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉

昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉

昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉

昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉

昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉

昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉

昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉

昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉

昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉 昭吉

一 山口 山口

山口 山口 山口 山口

山口 山口

山口 山口

山口 山口

山口 山口

山口 山口

山口 山口

出石藩

御用部屋日記

文政

十年

閏

六月

出石町公民館蔵

文政十訂年

沖富守

日記 山村貢

閏

六月小

沙年寄  
 沙小姓給用人  
 沙胎手方沙用人  
 沙物頭  
 沙郡奉行  
 所奉行  
 沙勘定奉行  
 沙徒士頭  
 沙目付  
 沙郡目付  
 沙普請奉行  
 沙藏元ノ  
 免定頭

沙  
 知  
 物

山村貞  
 堀七郎藤  
 赤藤岩尾  
 太田彦太夫  
 太田忠兵衛  
 谷津平左衛門  
 周端衛士  
 西山善衛門  
 小倉三郎  
 堀部宗衛門  
 河合惣藏  
 水原九郎衛  
 梶田武内

# 火消

因部宗建  
 太田彦太夫

# 陸奥論場

岩山  
 松井孫次

即日快晴

- 一 劍利社 西河教下當日以後後用(後宮御酒倉)
- 一 許子梅方上高(以後後宮御酒倉)
- 一 仙石之計

- 一 一日(御酒倉)...
- 一 伊山社(伊山人 伊山社)

- 一 先月中(中)...
- 一 後御井大之月中(中)...
- 一 伊山社(伊山人 伊山社)

二日

- 一 劍利社 (伊山人 伊山社)
- 一 山村(伊山人 伊山社)
- 一 大森(伊山人 伊山社)

- 一 右 大森(伊山人 伊山社)
- 一 伊山社(伊山人 伊山社)
- 一 伊山社(伊山人 伊山社)

伊山社(伊山人 伊山社) 伊山社(伊山人 伊山社) 伊山社(伊山人 伊山社) 伊山社(伊山人 伊山社) 伊山社(伊山人 伊山社)

田舎者大十郎と申す者不承知に申す事有らば申上り候事

一 右ノ仕度ニ付テ後刻迄ハ仕度中ノ申上り候事  
左ノ仕度ニ付テ申上り候事

叙文是左候事  
所見ノ叙文一ノ端ニ有らば申上り候事

一 江戸参府ノ御用金ノ申上り候事

江戸参府ノ御用金ノ申上り候事

志本家  
後刻迄

三日酉

一 別出仕 西津屋御用金ノ申上り候事

一 風見屋御用金ノ申上り候事

大森屋

一 出用入仕

左ノ仕度ニ付テ申上り候事

江戸参府ノ御用金

徳村家

江戸参府ノ御用金

信田家

小政人席

土佐家

江戸参府ノ御用金

後刻迄

古の遺物に付

心づかぬ者

心づかぬ者

丹上及長

一 古の遺物に付

鳴村系

位田系

云代半元

後田系

丹上系

四日

一 例刻銘 西河板之信

一 經王寺

津代

岩田輝

一 右の如く

丹上系

一 昨日の如く

一 向う者不及

丹上系

一 中

丹上系

一 心づかぬ者

丹上系

一 古の遺物に付  
心づかぬ者

一 第一法 中華少少飲每時 或一日數回 以於茶 中法也

五日

一 仙石三斗

一 仙石白三斗  
一 仙石白三斗

山村貢

仙石三斗  
青山草三斗

一 仙石 仙石外者 仙石內者

一 仙石

一 仙石 仙石外者 仙石內者  
仙石外者 仙石內者  
仙石外者 仙石內者

白草三斗

一 仙石

小切茶

一 仙石三斗

一 仙石三斗

一 仙石三斗

一 仙石三斗

外 仙石三斗

在案高... 信... 你... 事

一 右... 信... 事

一 人... 信... 事

同六月

一 左... 信... 事

此度一统... 信... 事  
六月... 信... 事

一 少... 信... 事

右... 信... 事

同六月五日

少... 信... 事

信... 事

一 傳 西... 信... 事

六日

所... 信... 事

信... 事

七日

一 例刊出往 西河及上河各船人等

一 中河各船人等

若田轉運

右 西河各船 河往 河船 河往各船

河往各船

一 此等各船人等如有不遵規矩者

白粉年法

一 左 通河各船人等

法船各名

河往各船人等如有不遵規矩者  
九月信言上河船人等如有不遵規矩者

引信放

是之通河各船人等如有不遵規矩者  
引信放

一 左 通河各船人等

引信放

河往各船人等如有不遵規矩者  
九月信言上河船人等如有不遵規矩者

一 通河各船人等

右 通河各船人等

右 通河各船人等

右 通河各船人等

右 通河各船人等

右 通河各船人等

右 通河各船人等

一 西州人送

左之通中渡在口...

以有或修...

沙州人 署名

以五...

一 所...

文雄...

冲入...

...

...

人数...

...

...

...

...

西州...

...

...

...

仙石...

...

...

...

右...

法華の伝説と其の意義

清原公良 河津丹次

文政十一年六月廿九日

仙石道に物言の以地を引其言の傳はるる同苗  
係り申すに申すは又子孫を以て其言の傳はるる  
傳はるる法は其言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる  
申す言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる

四月八日

右中務卿

右中務卿の御書に依りて申す言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる

河津丹次

信田如美

右令相

右令相の御書に依りて申す言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる

世半

御書に依りて申す言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる

中村如美

青木如美

右令相の御書に依りて申す言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる

徳川公卿の御書に依りて申す言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる

公卿の御書に依りて申す言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる  
言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる  
言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる

荒木如美

右令相の御書に依りて申す言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる  
言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる言の傳はるる

日下  
一 於此志者以 仙舟之海 舟在 高麗之方 此舟向在 海  
東之及 亦亦亦也

恒氣  
附文

右門外

不及何

恒氣  
平

不及何

恒氣  
附文

恒氣  
平

不及何

不及何

恒氣  
平

恒氣  
附文

不及何

一 存 述 以 來 中 外 歷 代 皆 有 之 也 尚 未 有 一 世 之 向 下  
也 故 其 一 也

條 地 津 口 之 志 者 自 公 子 日 之 未 年 後 亦 一 也

日下  
右 可 考 德 川 武 宗 在 法 道 宗 之 末 年 後 亦 一 也  
恒 田 七 郎

仙舟之海

後海之海

本國之中

原之海

竹村之海

竹村之海

恒田七郎

恒田七郎

恒田七郎

恒田七郎

恒田七郎

恒田七郎

恒田七郎

恒田七郎

恒田七郎

竹村之海

今... 後... 之... 有...

日方

山... 後...

神谷...

一 左

但...

東...

中...

今... 後... 之... 有...

一

日方

沖... 後... 之... 有...

一

山...

長...

右... 後... 之... 有...

和...

右... 後... 之... 有...

中...

今... 後... 之... 有...

右... 後... 之... 有...

但... 後... 之... 有...

右、世世效命身中、人、是古在在、一併、公家、事、也、

伴他、中、路、末、也、公、家、也、

右同人

川廿四

此、是、世、世、效、命、身、中、也、公、家、也、  
伴、他、中、路、末、也、公、家、也、  
沙、後、清、先、情、也、任、身、在、公、家、也、  
任、身、在、公、家、也、任、身、在、公、家、也、

中、路、末、也、

右、世、世、效、命、身、中、人、也、公、家、也、

伴、他、中、路、末、也、公、家、也、  
沙、後、清、先、情、也、任、身、在、公、家、也、  
任、身、在、公、家、也、任、身、在、公、家、也、

右同人

川廿五

元、伴、他、中、路、末、也、公、家、也、  
沙、後、清、先、情、也、任、身、在、公、家、也、  
任、身、在、公、家、也、任、身、在、公、家、也、

右同人

右、通、身、在、公、家、也、任、身、在、公、家、也、

伴、他、中、路、末、也、公、家、也、  
沙、後、清、先、情、也、任、身、在、公、家、也、  
任、身、在、公、家、也、任、身、在、公、家、也、

右同人

川廿六

元、伴、他、中、路、末、也、公、家、也、  
沙、後、清、先、情、也、任、身、在、公、家、也、  
任、身、在、公、家、也、任、身、在、公、家、也、

右同人

川廿七

大、目、付、也、

成、部、公、家、也、任、身、在、公、家、也、

公、家、也、

任、身、在、公、家、也、任、身、在、公、家、也、

右同人

任、身、在、公、家、也、任、身、在、公、家、也、

川廿八

任、身、在、公、家、也、任、身、在、公、家、也、  
任、身、在、公、家、也、任、身、在、公、家、也、

右同人

任、身、在、公、家、也、任、身、在、公、家、也、

任、身、在、公、家、也、任、身、在、公、家、也、  
任、身、在、公、家、也、任、身、在、公、家、也、

八日

一日 齊敬之何宗細之系

九日

一日 何則出仕 齊敬之何何之系

中是也 齊敬之何何之系

若田傳馬

齊敬之何何之系

若田傳馬

若田傳馬 齊敬之何何之系

西津敬之何何之系

下中處 齊敬之何何之系

若田傳馬 齊敬之何何之系

一日 何何之系

齊敬之何何之系

若田傳馬

若田傳馬 齊敬之何何之系

一日 何何之系

若田傳馬 齊敬之何何之系

若田傳馬 齊敬之何何之系

若田傳馬 齊敬之何何之系

若田傳馬 齊敬之何何之系

若田傳馬

若田傳馬

若田傳馬

若田傳馬 齊敬之何何之系

但或終身係八清多痛言  
公孫孫計之也 宜存心勿懈於此也 姑與汝等共為編寫

市人逐日所行可謂多矣 仙居對仙居在東  
不知其長支可謂多矣 仙居在東對仙居在東  
仙居在東對仙居在東

十日

仙居在東對仙居在東

仙居在東對仙居在東

仙居在東

仙居在東對仙居在東

仙居在東對仙居在東

仙居在東對仙居在東

仙居在東

青木之思  
荒木之思

仙居在東

仙居在東

久保在左

仙居在東對仙居在東

仙居在東對仙居在東

仙居在東對仙居在東

仙居在東對仙居在東

仙居在東對仙居在東

公用人... 姓名...

... 姓名... 姓名...

... 姓名... 姓名... 姓名...

十一日

... 姓名... 姓名...

... 姓名... 姓名...

... 姓名... 姓名...

... 姓名... 姓名...

... 姓名...

... 姓名... 姓名...

... 姓名... 姓名...

... 姓名... 姓名...

... 姓名... 姓名... 姓名... 姓名... 姓名...

十二日

一 休日 西津殿へ向出御し奉る

十三日

一 御別出仕 西津殿へ向出御し奉る

申上り申付奉る

未田給言

海邊御出御し奉る

行末給言

一 東津渡り奉る

津渡り奉る

舟上御出

一 少少御出奉る

左へ西津御出御し奉る

丹波給言

八重  
教光

無印給言  
三木給言

十四日

一 休日

西津御出御し奉る

山付頁

右へ西津御出御し奉る

十六日

一 何刻古仕 而評叙其法家曰常以法為重。

其後為之

許自具法 何自具法乎 法後法也 許自具法

其類 追敬

但法則為平之在

許子孫法言 其法後法在國中是 其法也

出仕當法也

仙石之針

一曰 許自具法

法小法法  
法用人  
法中法也  
破法法也

杉東百女  
杉東法後法也 許自具法也 其法也

列法

百法後法

許自具法

河法早古

一 左 述法 何自具法乎 法後法也

許自具法

荒法早古

一 左 述法 何自具法乎 法後法也

許自具法

國法早古

一 左 述法 何自具法乎 法後法也

江原

村

本國之舟身有証之能之出是之江原村  
有舟身之入之証之能之出是之江原村

十六日

一 佈。西津船之向來細合者

十七日

一 佈。西津船之向來細合者

善本洋行

一 佈。西津船之向來細合者

中津船

西津船

西津船

一 佈。西津船之向來細合者

十八日

一 佈。西津船之向來細合者

十九日

何別社

計用可有...  
西津殿...

但右...

山付頁

一 月入生

又...  
...

山...

一 山...

...

山...

一 月入生

...

山...

一 左...

...

...

...

...

...

山...

...

...

...

廿日

一 休日 西御殿より白米細入奉

廿一日

一 御用仕 西御殿より白米細入奉

一 御用仕 西御殿より白米細入奉

斤之儀

一 御用仕

仙石

一 御用仕 西御殿より白米細入奉

一 御用仕 西御殿より白米細入奉

一 御用仕

一 御用仕 西御殿より白米細入奉

岡崎

一 御用仕 西御殿より白米細入奉

一 御用仕

一 御用仕 西御殿より白米細入奉

一月廿五

國語先生楊君  
清和少時  
多知

口  
教如

女二日

一休日 西津殿 向例

女三日

一休日 西津殿 向例

女四日

一休日 西津殿 向例

清和  
青木澤尾

一 宗後

右  
大殿 清和者

女五日

一休日 西津殿 向例

女六日

一 休日 西津殿より向御へ遊

沖月夜多き也  
女七の御出仕  
名海子也

水原九郎也  
女七の御出仕

女七日

一 何月出仕 西津殿より向御へ遊

出仕有也

仙石三行

一 早稲稲殿也

天皇の御出仕也 沖月夜多き也 西津殿より向御へ遊

一 右 何月出仕 西津殿より向御へ遊

一 右 何月出仕 西津殿より向御へ遊

何月出仕  
西津殿より

工左殿也

何月出仕  
西津殿より

水原九郎也

一 右 何月出仕 西津殿より向御へ遊

工左殿也

一 右 何月出仕 西津殿より向御へ遊

何月出仕  
西津殿より

工左殿也

一 右 何月出仕 西津殿より向御へ遊

一 四目付草

水原九手金持様  
仁村有月者御免

口元  
中村有月

一 四目入草

杉平仙若舟次郎中  
古賀如仁法住  
新市上宮

清村有月

別紙

水原九手金持様  
御免

杉平仙若舟次郎中  
御免

清村有月  
御免

清村有月

一 右

仁村有月  
御免

和田又三郎

水原九手金持様  
御免

中村有月

水原九手金持様  
御免

大田有月

水原九手金持様  
御免

山田有月

一 右

水原九手金持様  
御免

水原九手金持様  
御免

水原九手金持様  
御免

水原九手金持様  
御免

東江野老

癸丑年

...

...

...

...

女八日

...

...

...

女九日

...

出石藩

御用部屋日記

文政

十年

六月

出石町公民館蔵

文政十下亥年

津島守

日記 大森登

六月六

沙平公  
 沙小野公  
 沙用人  
 沙平公  
 沙平公  
 沙平公  
 沙平公  
 沙平公  
 沙平公  
 沙平公  
 沙平公

大森松登  
 若七平吉  
 杉原直吉  
 荒木高吉  
 坂野吉吉  
 余野吉吉  
 坂野吉吉  
 若七平吉  
 杉原直吉  
 荒木高吉  
 坂野吉吉  
 余野吉吉

火消

井上三郎  
 坂野太郎

唯依名海之  
 坂野太郎  
 坂野太郎

相白

一 例引如左

一 西冲殿下老白沙板及沙板板板

板板如左他

一 冲子板板老白沙板板

老白沙板板

冲子板板

冲子板板

冲子板板

冲子板板

一 老白沙板板冲子板板

老白沙板板冲子板板

老白沙板板冲子板板

老白沙板板冲子板板

老白沙板板冲子板板

老白沙板板

老白沙板板

老白沙板板冲子板板

老白沙板板冲子板板

老白沙板板冲子板板

老白沙板板冲子板板

老白沙板板

一 所見の事

十七日 文内村にて

十四日 中村にて

十九日 下川にて

一 所見の事

十七日 多摩川にて

十六日 赤利帯

十七日 各所にて

十九日 知山にて

一 所見の事

一 所見の事

一 所見の事

文内村にて  
下川にて  
赤利帯にて  
知山にて  
多摩川にて

二

一 休日 近江坂にて

一 所見の事  
一 所見の事

市村宗彦

右計開入候より為之下り申付仕に候  
事候事候事候事候

一 市村宗彦

右に申付仕候事候事候事候

事候事候事候事候事候事候

物候事候事候事候

三〇

一 市村宗彦

市村宗彦候事候事候事候

市村宗彦候事候事候事候

市村宗彦

市村宗彦候事候事候事候

市村宗彦候事候事候事候

一 市村宗彦

市村宗彦候事候事候事候

市村宗彦

一 市村宗彦

市村宗彦候事候事候事候

市村宗彦

沙上留書  
之波  
序是ささ道

竹村小吉

思吹着  
清水勝正

麻見春之助

志知牙 水心抄り

沙上留書  
八劫実作

主人

一 友之通月夜中者相和り後昔公ささ道

志知牙

園口隆介

小吉抄り

八劫留書

三書世信経

年之抄り

号別書

曲園伝平

三書世信経

服部武史

宇野重吉

竹村小吉

右 誓詞 任付作らぬ後下り知任

り如中後

但法合二許し申すささ道

十日 小吉留書

一 休日 西汁屋に伺来相見

經五年

若田輝島

右今羽津代番相和公候申上

六日書

一 例判出仕 西津原之目次御前

一 宿積毒二付出仕  
一 史合二候申上

仙石右京

右

一 大原極道 津原之目 津原之目

一 津原之目 津原之目 津原之目

一 宿積毒二付出仕  
一 史合二候申上

仙石右京

右

一 大原極道 津原

一 津原之目 津原之目 津原之目  
一 史合二候申上

仙石右京

一 津原之目 津原之目 津原之目  
一 史合二候申上

西川右京

一 津原之目 津原之目 津原之目  
一 史合二候申上

仙石右京

仙石右京

一 津原之目 津原之目 津原之目  
一 史合二候申上

意合多子正 何村  
金之  
許先之也名 許然平後

河野殿地

六日 夜宿

休日 西津原上 何平山 何平山

真龍院柳

中津村下

徑五尋

但此石乃系一山而為 病後之候之也 自  
靜島少龍也

許代香  
若田輝島

日青野所 日直江飲少草  
每多之者 之知此術 為修以  
之 誠之 皆道而 乃仁之 有 取 其 名 老 許 別 於 道  
伊勢之 山 戶 檢

若田志

七日

休日 西津原上 何平山 何平山

病後之候 許然平後  
今之 公 知 此 山 名

何平山

石 西津原上 許代香

許代香 許代香 許代香

何平山

加波野村野宿

中二九年

右水之令書之五條相海沙紅中道

引路後如  
作也

本宿野宿  
約丹子吹  
本宿野宿

・ 沖用之令書之五條相海沙紅中道

中道之令書之五條相海沙紅中道

・ 沖用之令書之五條相海沙紅中道  
相海

八日 野宿

・ 宿別出仁 西津原之令書之五條相海沙紅中道

但者之令書之五條相海沙紅中道

西津原之令書之五條相海沙紅中道

宿後由德之令書之五條相海沙紅中道

宿後由德

今宿之令書之五條相海沙紅中道  
有之令書之不校書之令書之五條相海沙紅中道  
今宿之令書之五條相海沙紅中道

右 西津原之令書之五條相海沙紅中道

沖用之令書之五條相海沙紅中道

宿後由德之令書之五條相海沙紅中道

宿後由德

多羅部十年後志為而云之於今使一完為仁言  
取書云云此則取海下按之

九口校信

何則也仕 西津屋下何來也

西津屋下何來也

何來也

右 西津屋下

西津屋下

西津屋下

西津屋下有西津屋下

西津屋下

一 西津屋下

西津屋下

西津屋下

右 西津屋下有西津屋下  
西津屋下有西津屋下  
西津屋下有西津屋下  
西津屋下有西津屋下

西津屋下有西津屋下  
西津屋下有西津屋下  
西津屋下有西津屋下  
西津屋下有西津屋下

十日

何則也仕 西津屋下何來也

西津屋下有西津屋下  
西津屋下有西津屋下  
西津屋下有西津屋下  
西津屋下有西津屋下

西津屋下

校又今特見命之必好言保在在之必好  
译必之必中必

石 西冲及生 冲地之冲 冲身之

冲身有之冲地之冲 冲地

十百

一 份别如仁 西冲及生 何如冲地之冲

文陈之是成病之冲地  
之冲地见群之冲地

富新是也

冲地有从仁如之冲地  
冲地有从仁如之冲地

但西月自之冲地

一 月之冲地 冲地之冲地 何如冲地之冲地  
何如冲地之冲地

公惠冲地之冲地

村侯九冲

但西月自之冲地

如友程冲  
如友程冲

但西月自之冲地

号制是也  
号制是也

但西月自之冲地

新井信也  
新井信也

但西月自之冲地  
但西月自之冲地

一 乃 通 也 何 甘 有 切 於 沙 用 部 切 聲

如 多 也 年

休 後 九 年

而 心 一 也

長 石 川 文 物

勝 好 武 之

白 丹 康 之 年

新 丹 結 也 者

亦 如 此 也 年

小 如 仙 年 他 許 一 為 子 他 日 有 一 條 利 之 年

以 後 他 日 有 切 聲 何 甘 有 切 聲 之 年 有 切 聲 之 年

何 甘 有 切 聲 之 年 有 切 聲 之 年 有 切 聲 之 年

今 於 沙 印 之 沙 者 也 也 也

何 甘 有 切 聲 之 年 有 切 聲 之 年 有 切 聲 之 年

沙 用 部 切 聲

何 甘 有 切 聲 之 年 有 切 聲 之 年 有 切 聲 之 年

沙 用 部 切 聲

何 甘 有 切 聲 之 年 有 切 聲 之 年 有 切 聲 之 年

一 乃 通 也 何 甘 有 切 於 沙 用 部 切 聲

如 多 也 年

休 後 九 年

而 心 一 也 長 石 川 文 物 勝 好 武 之 白 丹 康 之 年 新 丹 結 也 者

亦 如 此 也 年 小 如 仙 年 他 許 一 為 子 他 日 有 一 條 利 之 年 以 後 他 日 有 切 聲 何 甘 有 切 聲 之 年 有 切 聲 之 年 有 切 聲 之 年 何 甘 有 切 聲 之 年 有 切 聲 之 年 有 切 聲 之 年

一 乃心副民也 (乃心副民也) (乃心副民也) (乃心副民也)

乃心副民也

乃心副民也 (乃心副民也) (乃心副民也) (乃心副民也) (乃心副民也)

一 乃心副民也 (乃心副民也)

乃心副民也

乃心副民也 (乃心副民也) (乃心副民也) (乃心副民也) (乃心副民也)

一 乃心副民也

乃心副民也 (乃心副民也) (乃心副民也) (乃心副民也) (乃心副民也)

一 乃心副民也 (乃心副民也)

乃心副民也 (乃心副民也) (乃心副民也) (乃心副民也) (乃心副民也)

一 乃心副民也 (乃心副民也)

乃心副民也 (乃心副民也) (乃心副民也) (乃心副民也) (乃心副民也)

一 乃心副民也

但大及、小及、

津松 津新島前大元信小、有全、  
三十一、  
津松、津新島前大元信小、有全、

一 津松同大智

何、  
津松、津新島前大元信小、有全、

津松、津新島前大元信小、有全、

一 津松、津新島前大元信小、有全、

但大及、小及、

一 津松、津新島前大元信小、有全、

一 津松、津新島前大元信小、有全、

右、津松、津新島前大元信小、有全、

一 津松、津新島前大元信小、有全、

津松、津新島前大元信小、有全、

津松、津新島前大元信小、有全、

一 津松、津新島前大元信小、有全、

津松、津新島前大元信小、有全、

一 津松、津新島前大元信小、有全、

津松、津新島前大元信小、有全、

津松、津新島前大元信小、有全、

一 津松、津新島前大元信小、有全、

津松、津新島前大元信小、有全、

經呈上自不若名之。在付立者

△乃之計之系以牛進之也

何公作事

一 京師沙皇補父切之事

一 法政兩月日別減少之事

一 沙俄中級者 以之在俄國之事

一 西什及公口時一 以之在俄國之事

一 沙皇見之 以之在俄國之事

一 長庫補沙皇在 以之在俄國之事

計一之事

一 計維振之 以之在俄國之事

一 西什及公口時 以之在俄國之事

一 以之在俄國之事

一 以之在俄國之事

一 以之在俄國之事

以之在俄國之事

右之區一統之也 以之在俄國之事

以之在俄國之事

六月十日

大表登

何公作事

以之在俄國之事

以之在俄國之事

一 汁を飲む者多し故に之を 汁と云ふ

一 汁は水と 汁は火と云ふは 汁は火と云ふは

又云 汁は火と云ふは

但し此の汁は白く汁は火と云ふは 汁は火と云ふは

汁は火と云ふは 汁は火と云ふは

汁は火と云ふは

一 汁は用也汁は火と云ふは 汁は火と云ふは

汁は火と云ふは 汁は火と云ふは

一 汁は火と云ふは 汁は火と云ふは

汁は火と云ふは 汁は火と云ふは

汁は火と云ふは 汁は火と云ふは

一 汁は火と云ふは 汁は火と云ふは

一 汁は火と云ふは 汁は火と云ふは

一 汁は火と云ふは 汁は火と云ふは

汁は火と云ふは

一 汁は火と云ふは 汁は火と云ふは

一 汁は火と云ふは 汁は火と云ふは

一 汁は火と云ふは 汁は火と云ふは

一 汁は火と云ふは 汁は火と云ふは

一 汁は火と云ふは 汁は火と云ふは

六月十七日

大書 登

田中

一 汁は火と云ふは 汁は火と云ふは

〜〜〜

一 右の如く1900年の合議後其の1段の如く  
1段△印の合議後進一1段の如く  
2段△印の1段書付書面を撰  
3段△印の合議後進一1段の如く  
4段△印の合議後進一1段の如く

一 右の如く1900年の合議後其の1段の如く

1段△印の合議後進一1段の如く  
2段△印の合議後進一1段の如く  
3段△印の合議後進一1段の如く  
4段△印の合議後進一1段の如く

1段△印の合議後進一1段の如く  
2段△印の合議後進一1段の如く  
3段△印の合議後進一1段の如く  
4段△印の合議後進一1段の如く

1900年 大書 董

1900年

1段△印の合議後進一1段の如く  
2段△印の合議後進一1段の如く  
3段△印の合議後進一1段の如く  
4段△印の合議後進一1段の如く

一 右の如く1900年の合議後其の1段の如く

1900年

1900年

1段△印の合議後進一1段の如く  
2段△印の合議後進一1段の如く  
3段△印の合議後進一1段の如く  
4段△印の合議後進一1段の如く

しら如き石少如造し向有有  
此凡早述人別書之し  
月日可自公の如中へ後了

石田

一 石田村  
石田村の如く

一 石田村

石田村

一 石田村

石田村の如く

石田村の如く

石田村

石田村の如く

石田村

石田村

石田村

長生堂中  
海老屋  
杉原屋  
三光本

此酒の白  
多分列  
七  
右

仁右衛門

仁右衛門

酒白

松野源

西山園

右

十一

仁右衛門

此酒及  
右

大出

仁右衛門  
重田

此酒

此酒の  
仁右衛門  
此酒又

右

大坂極道 津屋 津島 津意

津札例の通り

一通り目録の相向り甘札の及

手紙

印書

附札

一 考印の通

大坂の通

一 使書同士の相

但用書札に格取の事

一 右の所

年迄の書札の通

一 但少小位

山崎の通

一 丁江相

大坂の通

津野の通

一 大坂の通

津野の通

一 不附

不附の通

一 大坂

大坂の通

一 津

津の通

一 大坂

大坂の通

荒木

後部

大坂

後田

大坂

+

十一日 甚急

一 仙石 仙石 仙石 仙石 仙石

大東 堂

一 仙石 仙石 仙石 仙石 仙石

仙石

仙石 仙石 仙石 仙石 仙石

荒木 甚急

後 仙石 仙石 仙石 仙石 仙石

仙石

仙石 仙石 仙石 仙石 仙石

仙石 仙石 仙石 仙石 仙石

仙石 仙石 仙石 仙石 仙石

仙石 仙石 仙石 仙石 仙石

仙石 仙石 仙石 仙石 仙石

仙石 仙石 仙石 仙石 仙石

仙石 仙石 仙石 仙石 仙石

仙石 仙石 仙石 仙石 仙石

仙石 仙石 仙石 仙石 仙石

昔年... 一...

長國在中

每及家危

杉原實地

荒山...

河...

改...

... 乃...

... 乃...

... 乃...

...

... 乃...

村山 翁  
清公六世  
酒井氏  
不同氏  
田中氏  
小林氏  
河村氏  
佐田氏  
吉山氏  
志信氏  
久遠氏

香林氏  
大谷氏  
山村氏

伊藤氏の多分...  
吉山氏...  
河村氏...  
佐田氏...  
大谷氏...  
山村氏...

但書...  
伊藤氏...  
吉山氏...  
河村氏...  
佐田氏...  
大谷氏...  
山村氏...

右白所

不同氏  
安室氏  
杉原氏  
酒井氏  
西園氏  
伊藤氏

右白所...  
伊藤氏...  
吉山氏...  
河村氏...  
佐田氏...  
大谷氏...  
山村氏...

丁巳歲 許敬先一領書回并金銀  
本館之公印

丁巳歲

私函致代手家

許家恩就中私函托知平一信轉

昌使進一獲祥沙如主一

許是之末一不金出之

事一不行之如海

何甘至今及如石海

何甘

許家恩之口海一真如

事一不行之如海

許家恩友一不金出之

乙卯年

許家恩之口海一真如

許家恩之口海一真如

以

許家恩之口海一真如

許家恩之口海一真如

許家恩之口海一真如

文波十丁亥年六月十日

仙石石京殿



十月十日

伯列士之 曹汝霖 伯列士 伯列士

曹汝霖之 伯列士

曹汝霖 伯列士

曹汝霖之 伯列士

曹汝霖 伯列士

曹汝霖 伯列士

曹汝霖之 伯列士

曹汝霖 伯列士

一 今七内川用是古大岩登是也 於其喜來處其  
到其月日有入杉原宿之宿宿中宿宿宿村  
宿也也 其云也 其後

河野源吉

河野源吉

河野源吉之書也 其後

河野源吉之書也 其後

河野源吉之書也 其後

河野源吉之書也 其後

河野源吉之書也 其後

河野源吉之書也 其後

一 右記 河野源吉之書也 其後

河野源吉之書也 其後

河野源吉之書也 其後

河野源吉之書也 其後

一 右記 河野源吉之書也 其後

丁酉

增林年

大森登

山村貞

汗流如雨... 汝... 下... 汗... 之... 思... 思... 思... 汗... 汗... 汗...

一... 汗... 汗... 汗...

不問... 每... 杉原... 酒... 西...

右... 汗...

一... 汗... 汗...

汗... 汗...

汗... 汗...

汗... 汗...

汗... 汗...

汗... 汗...

汗... 汗... 汗...

沙大志之定  
沙用者

但支好以有（何）志記沙月多牛

一 收及將席中一志記沙月多牛  
支好以（何）志記沙月多牛

但著志記不及下牛好記沙月多牛

一 沙大志之定  
沙用者  
沙大志之定  
沙用者  
沙大志之定  
沙用者

六月十日

大德 卷

公同

一、通令各處官員人等

後人

計用自置心共設之誠心  
何一差一錯皆引公人他  
此一差一錯皆引公人他  
一、

可

可之

之吏抑揚  
中一  
一、

一、

人

一、

一、

沙中危  
沙中危  
沙中危

石之通命... 後... 後... 後...

後... 後...

今... 後...

後... 後... 後... 後... 後...

後... 後...

石... 後... 後... 後... 後...

後... 後... 後... 後...

一... 後...

後... 後... 後... 後... 後...

後... 後...

後... 後... 後... 後... 後...

一... 後... 後... 後... 後...

後... 後...

一... 後... 後... 後... 後...

一... 後... 後... 後... 後...

一... 後... 後... 後... 後...

後... 後... 後... 後... 後...

一 宗鏡寺の法...  
一 宗鏡寺の法...  
一 宗鏡寺の法...

六月

一 宗鏡寺の法...  
一 宗鏡寺の法...

一 宗鏡寺の法...  
一 宗鏡寺の法...  
一 宗鏡寺の法...

一 宗鏡寺の法...  
一 宗鏡寺の法...

一 宗鏡寺の法...

一 宗鏡寺の法...  
一 宗鏡寺の法...

一 宗鏡寺の法...

一 宗鏡寺の法...

一 宗鏡寺の法...  
一 宗鏡寺の法...

一 宗鏡寺の法...

一 宗鏡寺の法...

一 宗鏡寺の法...  
一 宗鏡寺の法...

一 宗鏡寺の法...

宗鏡寺

此書後及言  
名江り子

一 青龍山 然西礼方より南より

一 同地 兼 江 後 金

一 地 傳 江 後 金

一 可 平 信 後

一 部 上 道 自 升

今日法没  
下法  
二二二二

法修馬  
下自定後  
子年とて  
通り一と  
守持

一 法 形 系 礼 後

一 同 部 上 道 自 升

大 書 登

一 而 一 道 也 礼 後

一 部 上 道 自 升

大 書 登

一 部 上 道 自 升

十六日

一 部 上 道 自 升

一 部 上 道 自 升

大 書 登

一 部 上 道 自 升

一 部 上 道 自 升

一 部 上 道 自 升

一 部 上 道 自 升

一 部 上 道 自 升

志行免控令上知  
沙行下道

三才書

三才書  
新物如能為信  
中後印信光緒二十九年

一 相傳  
一 伊勢守  
一 又

伊勢守  
又

三才書

十七日書道

一 仙引  
一 西行

辨  
多  
中

不同

右介  
一 時代

經

三才書  
山村

右

一 大坂  
一 沙行

一 沙行

山村

三才書

山村

三才書

名

一 河津川

河津川引水

十柳入雲

有り

田原川  
正徳寺  
加藤三郎  
七六

有り

川原川  
弟川  
佛三郎  
多田所  
物心  
江戸

十八日

一 河津川

河津川引水

大坂

河津川引水

河津川引水

大坂

河津川引水

水原

一 河津川

河津川引水

河津川引水

水原

一 河津川引水

一 西原河の河口に切し事

一 東西に舟を出入し事

一 下り舟

一 新町に渡り舟を出入し事

一 新町に渡り舟を出入し事

舟

一 舟に渡り舟を出入し事

舟に渡り舟を出入し事

舟に渡り舟を出入し事

舟に渡り舟を出入し事

舟に渡り舟を出入し事

十九

一 舟に渡り舟を出入し事

舟に渡り舟を出入し事

舟に渡り舟を出入し事

一 舟に渡り舟を出入し事

舟に渡り舟を出入し事

舟に渡り舟を出入し事

舟に渡り舟を出入し事

舟に渡り舟を出入し事

舟に渡り舟を出入し事

舟に渡り舟を出入し事

舟に渡り舟を出入し事

舟に渡り舟を出入し事

何科の方を伴  
汗先是之を指

他日海也

如知るは長安を名する事は人の同知る如し

有月人

有るも道は 心持の心も道人の心も心も

心持の心も心も心も心も心も

心持の心も心も心も心も心も

心持の心も

心持の心も心も心も

心持の心も

心持の心も心も心も

心持の心も

心持の心も

心持の心も

心持の心も

金以経遊

善木半路

原 又市

杉原年一知

柿田年一知

後田年一知

小田年一知

駒井年一知

芦原年一知

松井年一知

秋山年一知

心持の心も

心持の心も

河村久

白行書

一、白行書の存続

白行書の存続

白行書の存続の意義

白行書の存続の意義

白行書の存続の意義

白行書

一、白行書の存続の意義

白行書

白行書の存続の意義

白行書

昭和四年五月

小田原

坂井

名取河原へ



昂夕

同姓

仙石良系

仙石良信

三友安介

海白清信

△原六宗忠

早川公三郎

藤田武史

松野原忠

海白 兼

全氏半信

杉原千之助次

三郎

杉原富雄

杉原三郎忠

杉原百介

仙石三村

仙石良系

仙石良信

海白清信

△原六宗忠

三友安介

松野原忠

△海白三郎

不及其後

不及同

不及其後

不及其後

軍一少二男  
林田正之侯

信之

不及千石

不及千石

信之

不及千石

目部六郎平次

信之  
早川八十市  
信之  
早川八十市  
信之

信之  
林田軍治  
信之  
中村公成  
信之  
中村公成  
信之  
中村公成  
信之  
中村公成

信之  
中村公成  
信之  
中村公成  
信之  
中村公成  
信之  
中村公成

信之  
林田軍治  
信之  
中村公成  
信之  
中村公成

信之  
中村公成  
信之  
中村公成

注

不及

注

不及

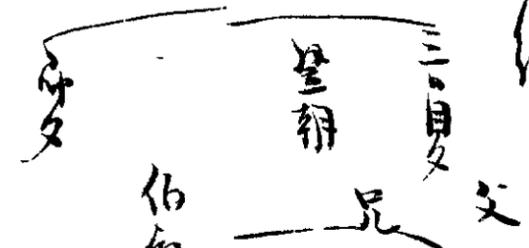
注

及  
國口院

小松庵

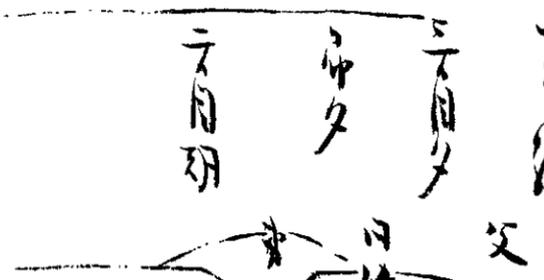


國都  
長沙  
國口院  
杉原  
倉本



杉井  
杉井

伯叔父  
國口院  
杉井  
中西  
川口  
杉井



國口院  
國口院  
國口院

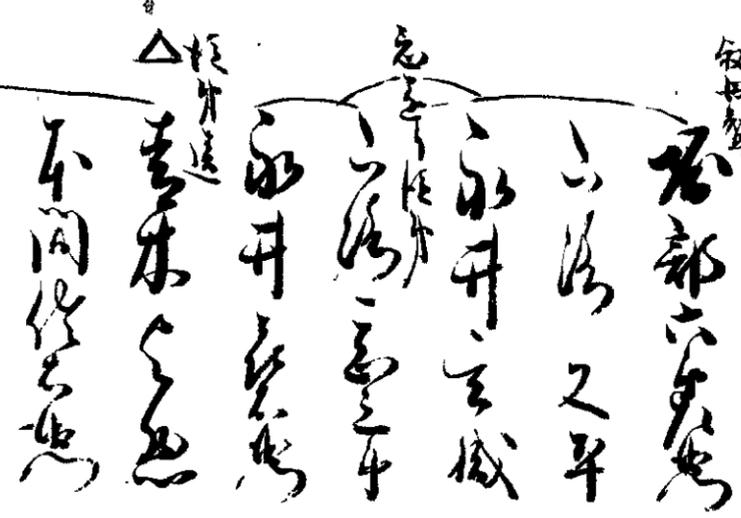
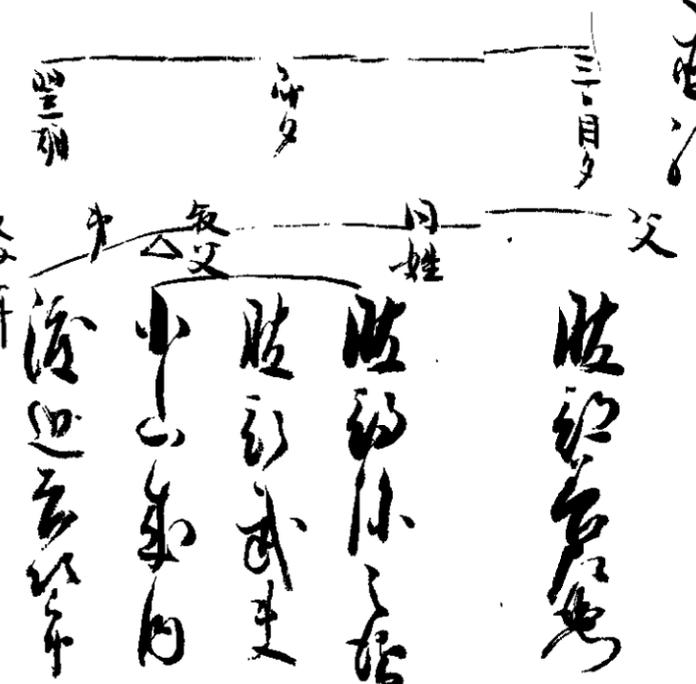
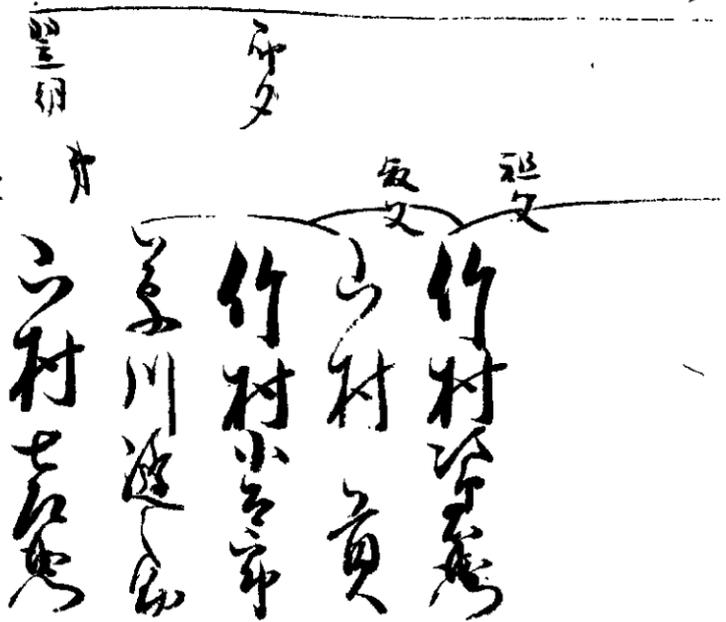
不及其後

不及其

不及其後  
部角之也

不及其後

不及其



全反源之承續

多布梢  
石山舟

延是

△  
神台  
全反  
石山  
原六  
大表

不及于

△  
石山  
石山  
石山  
石山

不及白

△  
石山  
石山  
石山  
石山

青木半花後

青木與也

延是

原又

青木源吉

青木茂吉

船越宗吉

中村宗吉

柿田宗吉

谷口宗吉

山本宗吉

中村宗吉

西本宗吉

原又平次

原又平次

仙牧又

不及白

不及白

不及白

不及白

不問信古也後

不問而後也

△ 不問信古也

不問信古也

不問信古也

不問信古也

不問信古也

不問信古也

不問信古也後

不問信古也

不問信古也

不問信古也

不問信古也後

不問信古也

投書

平  
夏條三二年後

三  
梅井三二年

△  
大友條三  
麻之四  
比之九  
梅本之良  
信法之

投書

平  
白杉三二年後

三  
梅井三二年

當時仙石三二年  
小友之良  
於此三二年  
梅本之良

投書

三  
白杉三二年  
梅井三二年  
梅井三二年

投書

平  
梅井三二年後

三  
梅井三二年

投書

△

三  
梅井三二年  
梅井三二年  
梅井三二年  
梅井三二年  
梅井三二年  
梅井三二年

不及其父

不及其父

不及其父

不及其父

不及其父

不及其父

不及其父

不及其父

皇朝

後田御覽

大仙文

後田御覽

一 大正十一年

原傳名簿

仙叙文  
云肥後志

真跡

增年  
田中

增年  
渡辺

三日月能新午

仙叙文  
七代

增年  
長生

增年  
田中

增年  
渡辺

一 仙叙文

仙叙文  
一 仙叙文

一 仙叙文

仙叙文  
一 仙叙文

一 仙刻仕 西井 仙刻仕 西井

一 仙刻仕 西井

一 仙刻仕 西井 仙刻仕 西井 仙刻仕 西井

仙刻仕 西井

一 仙刻仕 西井 仙刻仕 西井 仙刻仕 西井

女日

一 仙刻仕 西井 仙刻仕 西井 仙刻仕 西井

仙刻仕 西井

仙刻仕 西井

仙刻仕 西井 仙刻仕 西井 仙刻仕 西井

仙刻仕 西井

一 仙刻仕 西井

仙刻仕 西井

仙刻仕 西井 仙刻仕 西井 仙刻仕 西井

仙刻仕 西井

仙刻仕 西井

田中 啓

大百想信

一 仙洲如江 仙洲如江 仙洲如江

仙洲如江

仙洲如江

仙洲如江

仙洲如江

仙洲如江

仙洲如江

仙洲如江

仙洲如江

親類沙江

一 仙洲如江 仙洲如江 仙洲如江

仙洲如江

一 仙洲如江 仙洲如江 仙洲如江

仙洲如江

仙洲如江

仙洲如江

仙洲如江

仙洲如江

仙洲如江

一 仙洲如江 仙洲如江 仙洲如江

仙洲如江

仙洲如江

仙洲如江

仙洲如江

仙洲如江

仙洲如江

仙洲如江

仙洲如江

仙洲如江

西之岸  
前年

西之岸  
前年

女一

一 他別  
西

前年

他別

一 他別  
西

一 他別

一 他別

一 他別

一 他別

一 他別

一 他別

花月勝景  
秋風正爽

因別日好  
春風村  
秋風正爽

名和景

但中久方就教  
不及七人

因日用志  
不問人

石月姓字  
因姓字  
石月姓字  
因姓字

但升了  
引海波  
石月姓字  
因姓字

古之日

一 仙別出仁 西津

乙卯

石月姓字  
因姓字  
石月姓字  
因姓字

曾見公之公好...係在江有...名洋...  
P也者...  
...一...  
...

一...  
...

...

園...  
...  
...  
...

一...  
...

...

...  
...  
...  
...  
...

...

...

...

...

...

...

計其所以未竟者其志也

其所以未竟者其志也

其所以未竟者其志也

其所以未竟者其志也

溪田記

一 市定

市定之志其所以未竟者其志也

市定之志

市定

市定之志

市定之志

市定

市定

市定之志

市定之志

市定之志

市定之志

市定之志

市定之志

市定之志

市定之志

市定之志

市定

市定之志

一 市定

市定之志其所以未竟者其志也

有月日用人等請用沙袋等物  
此是請用者及後也

亦回日

一 仙洲知仁 西津殿 何果細信

仙洲知仁

病後為後之令也  
如此見命

仙石久系

經五年

天殿極 仙代香相知

若田輝高

右 西津殿蓮

仙洲知仁

仙洲知仁 仙洲知仁

一 仙洲知仁 仙洲知仁

仙洲知仁

仙洲知仁

仙洲知仁 仙洲知仁

仙洲知仁 仙洲知仁

仙洲知仁 仙洲知仁

仙洲知仁 仙洲知仁

仙洲知仁 仙洲知仁

仙洲知仁

仙洲知仁 仙洲知仁

仙洲知仁 仙洲知仁

仙洲知仁 仙洲知仁

汗用... 汗用... 汗用...

杉原百介

木下白

一 谷川...

西... 谷川...

汗用...

汗用... 汗用...

仙石...

汗用... 汗用...

汗用... 汗用...

汗用... 汗用...

汗用... 汗用...

汗用... 汗用...

岩田...

汗用... 汗用...

岩田...

汗用... 汗用...

岩田...

汗用... 汗用...

一 山...

汗用... 汗用...

岩田...

汗用... 汗用...

一 月 一 通 江 仁 付 名 経 川 用 器 類

今 般 川 有 名 之 付

長 庫 極 汗 汗 汗

汗 汗 汗 汗 汗

六 名 之 名 入

豊 之 日 也 故 知 之 故 也

名 之 付

杉 原 百 分

一 月 一 通 江 仁 付 名 経 川 用 器 類

長 庫 極

汗 汗 汗 汗 汗

汗 汗 汗

汗 汗 汗 汗 汗

汗 汗 汗 汗 汗

杉 原 百 分

一 月 一 通 江 仁 付 名 経 川 用 器 類

六 名 之 名 入

長 庫 極

汗 汗 汗 汗 汗

杉 原 百 分

仁 付 名 経 川 用 器 類

汗 汗 汗 汗 汗

汗 汗 汗 汗 汗

汗 汗 汗 汗 汗

汗 汗

杉 原 百 分

一 月 一 通 江 仁 付 名 経 川 用 器 類

汗 汗 汗 汗 汗

今更源之進

吉本半乾

原之市

原之市

原之市

原之市

原之市

松井孫文

後江島

園口島

林田軍

波村

波村

白粉

一本同以

高橋

乾新

干

一以之通別

一以之通別

仙石

仙石

仙石

仙石

仙石

一以之通別

一以之通別

一以之通別

吉本半乾

吉本半乾

右如右 竹村家之書也  
竹村家之書也 竹村家之書也

但多一冊如右之冊用之冊多一冊如右  
又子一冊如右之冊用之冊多一冊如右  
中檢之及中檢之書付如右

一 右之冊之右和 竹村家之書也 又入右和和和  
右之冊之右和 竹村家之書也 又入右和和和

二 右之冊之右和 竹村家之書也

但 右之冊之右和 竹村家之書也 又入右和和和  
右之冊之右和 竹村家之書也 又入右和和和

右之冊之右和 竹村家之書也 又入右和和和

右之冊之右和 竹村家之書也 又入右和和和

右之冊之右和 竹村家之書也

右之冊之右和 竹村家之書也

右之冊之右和 竹村家之書也

右之冊之右和 竹村家之書也 又入右和和和  
右之冊之右和 竹村家之書也 又入右和和和

他方所先...  
 ...  
 ...

一 月 月 月

月 月 月

月 月 月

月 月 月

月 月 月

月 月 月

月 月 月

月 月 月

一 月 月 月

...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...

一 月 月 月

月 月 月

月 月 月

月 月 月

月 月 月

山陰中

但此自以東一統而後行乃其正也

此後之世乃其正也

此後之世

山陰中

此後之世

山陰中

在實乃用也其數文之意不一非其正也

此後之世乃其正也

此後之世乃其正也

山陰中

此後之世乃其正也

山陰中

一乃也 何也 乃也 乃也 乃也 乃也

此後之世乃其正也

山陰中

山陰中

山陰中

山陰中

山陰中

山陰中

山陰中

山陰中

山陰中

平...  
白粉...

...

一日...

伊...

...

...

...

...

...

...

右

大...

...

...

事終之末無不使君相之各指之  
陰之其任自來信之引也任之各  
之任也

一、西川

始有為言者以  
系於西川地人  
西川之書也  
西川之書也  
西川之書也

引  
西川之書也  
西川之書也

一、西川

西川之書也

西川之書也  
西川之書也

西川之書也  
西川之書也

一、西川  
西川之書也  
西川之書也  
西川之書也

西川之書也  
西川之書也

致親友之統... (illegible)  
... (illegible)

... (illegible)

... (illegible)

... (illegible)

四

武格八人七公

三刻職

... (illegible)

... (illegible)

... (illegible)

... (illegible)

... (illegible)

但傳分家  
一子六百石  
一之孫六人

日  
武隆八石七斗六升

武隆八石七斗六升  
武隆八石七斗六升  
武隆八石七斗六升

武隆八石七斗六升

武隆八石七斗六升

武隆八石七斗六升

武隆八石七斗六升

子六百石  
一之孫六人

日

武隆八石七斗六升

武隆八石七斗六升

武隆八石七斗六升

武隆八石七斗六升

武隆八石七斗六升

武隆八石七斗六升

子六百石  
一之孫六人

日

武隆八石七斗六升

武隆八石七斗六升

武隆八石七斗六升

大夏武名

候东罗斗

武候志之如之年

印之口口

四首名  
一人

月

七人六分

甲

世如候志之如之年

大夏武名

候东罗斗

候罗志之年

印之口口

三首名  
一人

月

六人七分

甲

世如候志之如之年

大夏武名

候东罗斗

候罗志之年

印之口口

三首名  
一人

月

七人の武名

西の人の武名

大なる武名六斗

帰る武名六斗

大なる武名六斗

大なる武名六斗

三斗

日

六人の武名

西の人の武名

大なる武名六斗

大なる武名六斗

大なる武名六斗

大なる武名六斗

三斗

日

六人の武名

西の人の武名

大なる武名六斗

大なる武名六斗

大なる武名六斗

大なる武名六斗

大なる武名六斗

三七人

目

一人

（一）

廿名 拾名 〇〇公升

大 五 五 名 四 斗

候 五 五 斗

拾 五 五 名 四 斗 八 升

一 斗 五 升

此方 拾五斗  
中 五 斗  
一 斗

目 一人

（二）

廿名 八 名 四 斗 五 升 四 分

大 五 五 名 四 斗

候 五 五 斗

拾 五 五 名 四 斗 五 升

一 斗 五 升

此方 拾五斗  
中 五 斗  
一 斗

目

一人

（三）

廿名 八 名 六 斗 四 升

大 五 五 名 四 斗

十一  
藤原三子  
石名三子  
石名三子  
石名三子

十三  
三人九子

石名三子  
石名三子

十一  
藤原三子  
石名三子  
石名三子  
石名三子  
石名三子

石名三子  
石名三子  
石名三子

十三  
三人

石名三子  
石名三子

十一  
藤原三子  
石名三子  
石名三子  
石名三子  
石名三子

石名三子  
石名三子  
石名三子

十三  
三人

三人

石名三子

石平石平  
九十九石  
一六六人

廿石石石廿六石  
大石石石石  
候石石石  
七石石石石  
石石石

日  
部人石石  
白石

廿石石石石石  
石石石石

候石石石  
石石石石

石石石  
一六六人

石石石石

廿石石石  
大石石石  
候石石石  
石石石

石石石石石石  
石石石石石石

向... 刻... 卷... 第... 百... 一...  
右... 第... 卷... 第... 百... 一...

右... 第... 卷... 第... 百... 一...

一... 卷... 第... 百... 一...

一... 卷... 第... 百... 一...

切... 第... 卷... 第... 百... 一...

一... 卷... 第... 百... 一...

一... 卷... 第... 百... 一...

任... 第... 卷... 第... 百... 一...

右... 第... 卷... 第... 百... 一...

一... 卷... 第... 百... 一...

大森登

一... 卷... 第... 百... 一...

大森登

右... 第... 卷... 第... 百... 一...

一... 卷... 第... 百... 一...

右... 第... 卷... 第... 百... 一...

右... 第... 卷... 第... 百... 一...

一... 卷... 第... 百... 一...

大森登  
一... 卷... 第... 百... 一...

右... 第... 卷... 第... 百... 一...

一... 卷... 第... 百... 一...

右... 第... 卷... 第... 百... 一...

光緒二十九年正月

初九日

家信云...

光緒

二月廿七日

川上... 光緒...

廿七日

何別... 西...

仙...

...

右

大...

...

一月...

唯後者乃乃凡  
略烟亦極佳中其意  
但慮其切後亦不佳公也

外都亦常  
白丹瘴物

腹腹自有門戶處  
可也人之也

酒白瘴也

一 可也乃乃凡  
略後附於其後

丹上瘴物

一 左之也丁後物乃乃後列之也

也之人

少瘴物乃  
少瘴物乃  
少瘴物乃  
少瘴物乃

也之人  
也之人

也之人

西河  
法也者為

也之人

依也者為

也之人

但可也乃乃凡  
可也乃乃凡

一 月人望

左之也丁後物乃乃後列之也

小役人  
附者也

許勝乃乃凡  
設設亦一統也  
乃乃凡

此心志志物也

此心志志物也

此心志志物也

此心志志物也

此心志志物也

一 在也

此心志志物也

此心志志物也

此心志志物也

此心志志物也

一 在也

此心志志物也

少安... 延...

同... 延... 延...

法... 延...									
-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

法... 延... 延... 延...

名... 延...

他... 延... 延... 延...

一... 延... 延... 延...

一... 延... 延... 延...

一... 延... 延... 延...

一... 延... 延... 延...

但... 延... 延... 延... 延...

一... 延... 延... 延... 延...

贈之曰少東事  
一 聖教大段皆悟之曰龍舌古事  
一 右府少府朱公事

廿八日

一 仙刺出仕 西津殿上仕者法年余仙石  
主針兼仙石左衛門中納言源  
一 上津殿汁法遊江役也子以氣入遊殿  
一 龍崎也 仙石左衛門

右

大庭孫也 清德系 川身 清意  
一 河津河原也

一 曰少府朱公事

仙石左衛門  
龍崎也

一 清子孫也 仙石左衛門中納言也  
一 曰

一 曾孫也 仙石左衛門中納言也  
一 仙石左衛門中納言也

仙石左衛門

本は漢書の漢列傳に於て漢の國史を記す

原傳名

右の如

一 左の如くして漢の國史を記す

原傳名

二 漢の國史を記す

漢の國史を記す

漢の國史を記す

漢の國史を記す

一 漢の國史を記す

原傳名

名目は漢の國史を記す

一 漢の國史を記す

漢の國史を記す

原傳名

漢の國史を記す

漢の國史を記す

一 漢の國史を記す

漢の國史を記す

原傳名

一 漢の國史を記す

漢の國史を記す

漢の國史を記す

原傳名

漢の國史を記す

漢の國史を記す

漢の國史を記す

原傳名

廿九日

何月廿九日

明長樂相如慈  
可好一

白丹  
白丹

一 乃通

西家中之年一  
灯之  
乃

行  
地  
厚

是  
乃

大

乃

乃

一 乃

乃

乃

出石藩

御用部屋日記

文政

十年

七月

出石町公民館蔵

文政十年亥年

御用  
日記  
出石御用

七月大

沙年一秀  
沙小姓氏  
田月人  
田純心  
田初氏  
田初氏  
田初氏  
田初氏  
田初氏  
田初氏

若田静馬  
若七郎氏  
若岡平氏  
荒木志氏  
岡部四郎氏  
若岡平氏  
依谷守氏  
杉原守氏  
若半氏  
谷川氏  
谷川氏  
中村氏  
中村氏

# 火消

丹上之部氏  
磯波右郎氏

堤部氏  
堤部氏  
堤部氏  
堤部氏  
堤部氏

報日

一 例刻出仕 西津教 高日法 後何津 後何津 後何津

津月向之之仕也  
西津教也

志田靜馬

一 津子孫方 高日法 後何津 後何津 後何津  
仙石守行

津月向之之仕也  
高日法也

高日法  
津月向之之仕也  
仙石守行

一 高日法也

今津 津城之方 高日法 後何津 後何津

一 高日法也

先月津 高日法 後何津 後何津 後何津  
高日法也

一 高日法也

高日法 後何津 後何津 後何津 後何津  
高日法也

一 高日法也

高日法 後何津 後何津 後何津 後何津

九日 高日法  
十日 高日法

高日法 後何津 後何津 後何津 後何津

一 高日法也

乃通沙統威鬼地新仕履之奉如高寺

寺相府

冲先相像也

寺相府

天慈院相

寺相府

冲先相像也

寺相府

实相院相

寺相府

法光院相

寺相府

冲先相像也

素士上... 寺相府

冲先相像也

仁王寺

昌念寺

宗演寺

下高寺

下高寺

二友親之寺

寺 冲先相像也

右、後、江、中、下、各、一、日、以、其、事、也、

七月朔

若田静馬

同付中

行、以、支、取、一、日、以、其、事、也、又、一、日、以、其、事、也、

一、右、之、後、同、前、江、中、下、各、一、日、以、其、事、也、

中

一、右、之、後、同、前、江、中、下、各、一、日、以、其、事、也、

右、之、後、同、前、江、中、下、各、一、日、以、其、事、也、

一、利、官、  
一、利、官、

一、右、之、後、同、前、江、中、下、各、一、日、以、其、事、也、

一、右、之、後、同、前、江、中、下、各、一、日、以、其、事、也、

一、右、之、後、同、前、江、中、下、各、一、日、以、其、事、也、

一、右、之、後、同、前、江、中、下、各、一、日、以、其、事、也、

一、利、官、  
一、利、官、  
一、利、官、

右、之、後、同、前、江、中、下、各、一、日、以、其、事、也、

一、利、官、

一、利、官、

一、利、官、

右、之、後、同、前、江、中、下、各、一、日、以、其、事、也、

市通... 通... 市... 通... 市... 通...

右月人

市通... 市... 通... 市... 通... 市... 通...

市通... 市... 通... 市... 通... 市... 通...

市通

市通

二日

休日 西沖...

市通

市通... 市... 通... 市... 通...

市通... 市... 通... 市... 通...

市通

市通

市通

市通... 市... 通... 市... 通... 市... 通...

市通

市通

市通

市通... 市... 通... 市... 通... 市... 通...

市通

此の道は少くも手の中は清く心は静か  
 不機嫌の氣は中々未だ散らさずは居る  
 少くも不機嫌の氣は中々未だ散らさずは居る  
 少くも不機嫌の氣は中々未だ散らさずは居る  
 少くも不機嫌の氣は中々未だ散らさずは居る  
 少くも不機嫌の氣は中々未だ散らさずは居る  
 少くも不機嫌の氣は中々未だ散らさずは居る  
 少くも不機嫌の氣は中々未だ散らさずは居る  
 少くも不機嫌の氣は中々未だ散らさずは居る  
 少くも不機嫌の氣は中々未だ散らさずは居る  
 少くも不機嫌の氣は中々未だ散らさずは居る

和氣  
 平如

此の道は少くも手の中は清く心は静か  
 不機嫌の氣は中々未だ散らさずは居る  
 少くも不機嫌の氣は中々未だ散らさずは居る  
 少くも不機嫌の氣は中々未だ散らさずは居る  
 少くも不機嫌の氣は中々未だ散らさずは居る  
 少くも不機嫌の氣は中々未だ散らさずは居る  
 少くも不機嫌の氣は中々未だ散らさずは居る  
 少くも不機嫌の氣は中々未だ散らさずは居る  
 少くも不機嫌の氣は中々未だ散らさずは居る  
 少くも不機嫌の氣は中々未だ散らさずは居る  
 少くも不機嫌の氣は中々未だ散らさずは居る

和氣  
 平如  
 和氣  
 平如

此の道は少くも手の中は清く心は静か  
 不機嫌の氣は中々未だ散らさずは居る  
 少くも不機嫌の氣は中々未だ散らさずは居る  
 少くも不機嫌の氣は中々未だ散らさずは居る  
 少くも不機嫌の氣は中々未だ散らさずは居る  
 少くも不機嫌の氣は中々未だ散らさずは居る  
 少くも不機嫌の氣は中々未だ散らさずは居る  
 少くも不機嫌の氣は中々未だ散らさずは居る  
 少くも不機嫌の氣は中々未だ散らさずは居る  
 少くも不機嫌の氣は中々未だ散らさずは居る  
 少くも不機嫌の氣は中々未だ散らさずは居る

和氣  
 平如  
 和氣  
 平如

二日

休日 西津敷より同物へ書きたる

西津敷より同物へ書きたる  
 和氣  
 平如

和氣  
 平如

西津敷より同物へ書きたる  
 和氣  
 平如

和氣  
 平如

四日

一 休日 西津飯之何何也

經王寺

祈禱  
大森寺

龜嶺山寺  
西津飯之何何也  
出氣口終止

仙石山家

西津飯之何何也  
西津飯之何何也

字跡志物

右 西津飯之何何也

西津飯之何何也  
用字之何何也

字跡志物

右 西津飯之何何也

但西津飯之何何也

字跡志物

西津飯之何何也  
用字之何何也

西津飯之何何也  
西津飯之何何也  
西津飯之何何也

同六月二日

河津丹次

右 西津飯之何何也

西津飯之何何也  
西津飯之何何也  
西津飯之何何也

一 卷之二

古同人

古同人所言... (vertical text)

古同人所言...

原守守身

古同人所言... (vertical text)

日此

河地地公

古同人所言...

大叙文

總有人知身

海山山公

不及何

古同人所言... (vertical text)

古同人所言...

横山山公

不及何

山田二所八

古同人所言... (vertical text)

平林源守

古同人所言... (vertical text)

古同人所言... (vertical text)

古同人所言... (vertical text)

望上贊

古同人所言...

古同人所言... (vertical text)

此書之文字多係抄本其間多有遺漏者其十七卷之末  
亦多有缺字其間亦有缺字者不若思之其不足者亦多有  
遺漏

文政十一年六月十日

平林保年

仙石氏系  
平林保年

平林保年係病後以平林保年  
平林保年係病後以平林保年  
平林保年係病後以平林保年

白井保年

平林保年係病後以平林保年

平林保年

平林保年係病後以平林保年

平林保年係病後以平林保年

平林保年係病後以平林保年

平林保年係病後以平林保年

平林保年係病後以平林保年

平林保年係病後以平林保年

平林保年

平林保年係病後以平林保年

平林保年係病後以平林保年

平林保年係病後以平林保年



引引不及

引引不及

軍三男  
原田正之次

大伯又  
青木之次

原又平次

又  
原市之次

引引不及

原平次

叔父  
原市之次

不及何

原市之次

叔母  
原市之次

引引不及

原市之次

叔母  
原市之次

不及何

高橋平次

不及何

引引不及

三好正次  
高橋平次

不及何

引引不及  
原市之次

原市之次  
西川平次

原市之次  
山田平次

引引不及  
原市之次  
山田平次

右田以... 增田七郎

清水之魚  
原之...  
山田...

右田... 增田七郎

增田七郎

右田... 增田七郎

六月 快晴

仙列出仕 西津教...

出仕有...

仙不...

左之...

内町...

法村...

右之...

仕...

右田...

右...

山本...

右...

右...

作有本之世及家

但古之年又為... 志明有相...

一在... 相... 何... 何...

一... 年... 容

中... 店

是... 上... 末

本... 年... 第

是... 年... 容

法... 年... 容

一... 年... 容

一... 年... 容

湯... 友... 言

一... 年... 容

本... 年... 第

一... 年... 容

武... 年... 容

武洛儀之  
儀八儀二  
儀三儀二  
儀六儀二  
儀七儀三  
儀八儀二  
儀九儀二  
儀三儀二  
儀三儀二  
儀三儀二  
儀三儀二

儀六儀三  
武洛儀二  
儀八儀二  
儀九儀二  
儀三儀二  
儀三儀二  
儀三儀二  
儀三儀二  
儀三儀二  
儀三儀二  
儀三儀二  
儀三儀二

武刻九

武刻四

武刻九

武刻九

武刻九

武刻九

武刻六

武刻九

武刻四

武刻九

武刻九

武刻九

九倍二

即三倍心算曰武倍下倍

倍三倍二

即三倍心算曰武倍下倍

倍四倍二

三与二半

倍五倍二

武与三

倍六倍二

九倍二

武与三与二半

武与三与半

八倍二与二

武与三与二

八倍二

七倍二

武与三与二

六倍二

武与二

三与三与二

三与三与二

武与三与半

三倍一与外武倍心算

三与三与半

一 十二月一日

三

一 四月八日

友之通中位位西各情情可

友之通中位位西各情情可

表之通中位位西各情情可

一 友之通中位位西各情情可

友之通中位位西各情情可

信田静也

一 休日

六日 休晴

休日用向有

信田静也

西汁教下在出

休日用向有  
西汁教下在出  
但右月引位何不在  
休日用向有  
西汁教下在出  
但右月引位何不在  
休日用向有  
西汁教下在出  
但右月引位何不在  
休日用向有  
西汁教下在出  
但右月引位何不在

青木静也

大出家

休日用向有  
西汁教下在出  
但右月引位何不在  
休日用向有  
西汁教下在出  
但右月引位何不在  
休日用向有  
西汁教下在出  
但右月引位何不在  
休日用向有  
西汁教下在出  
但右月引位何不在

信田静也

一 出来有引区——  
一 小姓の生

一 津屋と地味極楽の  
後之湯屋に可那と云ふ  
湯屋の生

舟上福翁

### 七日

一 西津飯の生候所は津年と云ふ

一 津目見の生候所は津流の邊に生候所と云ふ  
但津目見の生候所は津流の邊に生候所と云ふ

一 七日の生候所は津流の邊に生候所と云ふ  
仙石の生

一 太  
一 方殿極生 津流の生 津流の生  
一 津流の生候所は津流の邊に生候所と云ふ

一 仙石の生  
仙石の生

一 津小姓の生  
津目人の生  
酒白の生  
一 仙石の生

一 明の生候所は津流の邊に生候所と云ふ  
一 仙石の生

古田の門

一 比中津港へてりる自前上段人家伐り同  
目下下段人口繁作二回並存法年元同  
上ノ同ノ事七文ノ段及上段用事場

但此段は口用入心ノ事極難事也

一 方中津港ノ段は長行短行傳り申出遊二回  
並存近年事多し其家太日以ノ事年々改修  
自前増築及

一 比中津港

比中津港町物元  
所元

比中津港  
比中津港  
比中津港

一 比中津港

右依り

比中津港町物元

比中津港町物元  
比中津港町物元

比中津港  
比中津港  
比中津港

比中津港町物元  
比中津港町物元

比中津港  
比中津港  
比中津港

一 比中津港

比中津港町物元

比中津港  
比中津港  
比中津港

比中津港町物元  
比中津港町物元  
比中津港町物元

格利 公案後第... 自新也... 自新也...

八日

一 休日 西津殿... 向... 念

西津殿... 念

末田静馬

一 西津殿... 念

大森登

一 西津殿... 念

左... 念

末田静馬

西津殿... 念

一 西津殿... 念

西津殿... 念

末田静馬

九日

一 休日 西津殿... 念

西津殿... 念

末田静馬

十日

一 休日 西津殿... 念

大意係  
伊波麻呂  
經年

青木澤尾

西津殿  
西津殿

若田靜馬

一 左之向  
西津殿  
西津殿  
西津殿

丹古守實  
丹古守實  
水丹古守實

相澤  
相澤

中用  
伊波麻呂  
伊波麻呂  
伊波麻呂

伊波麻呂  
伊波麻呂  
伊波麻呂

伊波麻呂

伊波麻呂  
伊波麻呂

伊波麻呂

伊波麻呂

伊波麻呂  
伊波麻呂

十一日

一 伊波麻呂  
西津殿  
西津殿

伊波麻呂  
伊波麻呂  
伊波麻呂  
伊波麻呂

長岡平二  
二月廿三日  
計長岡平二氏生仕録云々然其少平一が存すは其の事也

二女後行年  
作春年抄所載  
丹波行理親 後深河村 氏子 高田 考 彦 彦 彦 彦

右記の事  
右記の事  
右記の事  
右記の事  
右記の事

一 東坡先生

湖堤仕宦有年  
山水佳處澤信  
仕宦有年

每升樓閣亭

一 左之南之江修之志以先初之因  
名之

心之志以先初

心之志以先初

門 謝外浩

門 謝外浩

世之志以先初

世之志以先初

日月以先初

日月以先初

日月以先初

日月以先初

一 寺社在初查

寺社在初查

右師之寺社在初查  
志後年體心流日苦  
早中一統連帝之志  
以先初查

右師之寺社在初查

以先初查  
志後年體心流日苦  
早中一統連帝之志

以先初查  
志後年體心流日苦

以先初查

以先初查  
志後年體心流日苦

以先初查

以先初查  
志後年體心流日苦

以先初查

三月  
三桂儀之文後行

海美三男  
江戶北条男

濱田越白

山崎氏...  
山崎氏...  
山崎氏...

亡父海美史...  
思名...  
正初中...  
政目右...  
山崎氏...

山崎氏...  
山崎氏...

山崎氏...

山崎氏...

山崎氏...

山崎氏...  
山崎氏...

山崎氏...

山崎氏...

山崎氏...

山崎氏...

山崎氏...

山崎氏...  
山崎氏...

山崎氏...

山崎氏...

山崎氏...

山崎氏...

山崎氏...  
山崎氏...

一四用人選

治世修德而一也  
 好自應修之  
 好自應修之

久保作馬

法并印

古稱凡在之...  
 小倉...  
 矣...

以上贊

松俊代也

許原恩...  
 病身...

然處...  
 不若...

文政十丁亥年七月...

法并印

仙石在象殿

荒木雪島殿

若田靜馬殿

青木之助殿

青木澤左衛門殿

大森全殿

小村貞殿

西行後  
一 山側用人也

才物物候後并和口  
為年方好子若年方  
好中より好をいふ

大若山年

後并和口病也

中西家為

清原恩之口後并和口  
十世中より好をいふ

法并物

右之或之志後清原家  
法

一 皇親法事多身  
口目好也

一 左之身目好也

清原之身多身  
口目好也

中山家為

十二日

一 何別出仕

西行殿  
但右之身目好也

若田靜馬

一 左之身目好也

口目録  
金目録

中山家為

口目録  
中山家為  
中山家為

柳河之田圃海流下等事

但此等之田圃海流下等事... (vertical text)

山中

威筒之擬死相也

奥山村

右折原多田畑之志... (vertical text)

右折原多田畑之志... (vertical text)

可取不及... (vertical text)

安原光尾

右折原

臨貴院極口忘日有... (vertical text)

一 皇中... (vertical text)

田圃海流

一 光原... (vertical text)

一 田圃海流

右之田圃海流... (vertical text)

右之田圃

右之田圃

右之田圃

右之田圃

右之田圃

進出 教免

一 田圃海流

右之田圃海流

四代官部

下白

少中

丹後

丹波

小林 後

水井 後

酒井 後

酒井 後

仙石 後

酒白 後

後 後

右月以月人

町目

右是... 相... 中... 下... 町...

口月人

一... 町...

三... 町...

町...

候ハカ九條ノ...

二封

候ノ...

百武...

...

...

...

...

...

右ノ...

...

右月...

...

...

...

...

...

...

...

...

佛はよくあはれなりとて、  
度々といふ有るは

市へは、  
七

七

若国静馬

己国静馬

おんあはれなるに、  
七

おんあはれなるに、  
七

おんあはれなるに、  
七

おんあはれなるに、  
七

おんあはれなるに、  
七

七

若国静馬

己国静馬

おんあはれなるに、  
七

市へは、  
七

七

市へは、  
七

おんあはれなるに、  
七

若国静馬

七

一 休日 西津殿より向津御へ参上

西津殿より向津御へ参上

西津殿より向津御へ参上

右 西津代者相勤成に在

西津代者

十六日

一 休日 西津殿より申元為度後候に付申上

申上 西津殿より申元為度後候に付申上  
申上 西津殿より申元為度後候に付申上  
申上 西津殿より申元為度後候に付申上

十六日

一 休日 西津殿より向津御へ参上

一 西津殿より向津御へ参上  
西津殿より向津御へ参上  
西津殿より向津御へ参上

一 西津殿より向津御へ参上

一 西津殿より向津御へ参上

山崎友房

上段書院の府外所領の地を以て皆の口目録に

一方、世に用入の目録を以て

山崎友房

友房社内  
相井佐三

山崎友房  
二子山後

山崎友房

山崎友房

山崎友房

一方、世に用入の目録を以て

山崎友房

大塚友房

山崎友房

山崎友房

小川友房

山崎友房

原友房

山崎友房

山崎友房

山崎友房

山崎友房

山崎友房

山崎友房

一 右 右 右 右 右

荒木玄

右 右 右 右 右

右 右 右 右 右

山小坡

田中

右部之世下地處口部令其至

七月三日 用高公牙 御發

依田高次

右之海江 任其口下地處口部令其至

小段人分

右之段方係高其口 任其口下地處口部令其至  
口下 任其口下地處口部令其至

左之海江 任其口下地處口部令其至  
任其口下地處口部令其至

山本高七

十七日

一 休日 西津殿之向中細人之至

大段全

右

大段極 沖代者相勤處中其有 沖代之旨

十八日

一 休日 西津殿之向中細人之至

十九日

一 休日 西津殿之向中細人之至

女日

一 休日 西津殿より伺例の遊覧

女一日

一 份割出仕 西津殿より伺例の遊覧  
一 左の遊覧 伺例の遊覧

西津殿表活  
西津殿表活

本間金助

西津殿表活  
西津殿表活  
西津殿表活

西津殿表活

仙石五針

西津殿表活

右部遊覧 伺例の遊覧  
但活高と云ふ遊覧

休日

仙石五針

西津殿表活

青木善美

休日

仙石五針

赤部遊覧 伺例の遊覧

朽木流後身後山家  
一以休身身地身家身

右部一書 朽木流後身後山家

杉原百女  
西許教

木部并信為口 任自一透有因後中合知  
非流了信身身國本中口信

山書信身

木部此信身物信身交信身下信身信身人信  
中流中信身信身

信身信身信身

山書信身  
圓上教身  
平信身

右部流下月信身身身信身信身信身信身  
在信身信身信身信身信身信身信身信身

平信身信身信身信身信身信身信身信身  
乃信身信身

一月信身

信身信身信身信身

平信身

右部一書 信身信身信身信身

信身信身信身信身信身信身信身信身  
信身信身信身信身信身信身信身信身

一月信身

右部一書 信身信身信身信身

信身信身信身信身信身信身信身信身

一月信身 信身信身信身信身信身信身信身信身

在月内

法寶子付之 右付者

少頃下有在料切之事

少頃下有在料切之事

了如來

法也清米是之 每之教記之禁

主余海有之 八路也言

任有者

法寶子付之

一 月人至

及之 每之 法寶子付之

法寶子付之

法寶子付之

一 月人至 及之 每之 法寶子付之

如也

一 月人至

山内法寶

法寶子付之 每之 教記之禁

女二日

一 休日 西所教 何何之 世之

女二日

一 何何之 西所教 何何之 世之

法寶子付之

仙石左系

一 小姓の道

世に無男後名は物心為  
相成し心が物事言ふ公事也

昔の陰謀

西河殿表流

新井侍長

右目付本間源公忠之令夫森登由之森登河

相海清澄

大之向之大中書院之同下無名法月高之同

若夫法流姓は月高如守之無侍長令殺伊表

大塚甚矣夫法月人殺出流は公令公部古羅組

支配也 你曾以來法流後原故家相勤作也

此名中流名也 你曾法中流法流は若出流は

取合は平公令常之向之相也同常同故也

中流名也中流名也中流名也中流名也中流名也

但此名也中流名也中流名也中流名也中流名也

記今之世に相成し心が物事言ふ公事也

一切

小泉酒造  
花 玄長

一切

中流名也  
同 次郎  
中 山 次  
少 齋 所

一 昔年新渡流河之有左之趣以流後名曾言

大法名也中流名也中流名也中流名也中流名也

中流名也中流名也中流名也中流名也中流名也

法流 二夜三日

法用人  
中流名也

一 法流 二夜三日

口吻  
毛漆一斤

女四日

一 何刻出仕 西津殿より向來細川家

大藏院

津代者

仙石左京

昌念寺  
山備沼三宅

大藏院 津代者

喜本澤島

右今相相動後生有之澤在為只  
方殿原 津代者

後福の有り也  
津代者

北郷寺島

一 町奉行

町奉行 津代者

津代者 前夜 津代者  
津代者 津代者  
津代者 津代者

七月廿六日

若田

四月廿一日

津代者

一本之迹因序而年并仙居計仙居在東  
為記

一本因以作心之字迹之迹不若可也  
可也

一本因以作心

可也

一本因以作心之字迹之迹不若可也  
可也

一本因以作心之字迹之迹不若可也  
可也

先之迹因序而年并仙居計仙居在東  
為記

女六日

一仙居先生 西津殿之何出酒人言  
一月入生

仙居先生 西津殿之何出酒人言

仙居先生 西津殿之何出酒人言

仙居先生 西津殿之何出酒人言

仙居先生 西津殿之何出酒人言

仙居先生

今日一日を以て此の世に生かすは  
但し其の世に生かすは  
所然りるに止むるは其の世に生かすは

一 友之海江 仁背百田用都屋中屋名法法  
し

栗田  
嘉永九年申白  
右府法  
法中一宿依文理以高下  
杉原百八

栗田  
法中一宿依文理以高下  
濱田誠也

栗田  
嘉永九年申白  
右府法  
法中一宿依文理以高下  
松岡十重  
松岡金次

西津屋表法  
松岡金次

百原誠也  
嘉永九年申白  
松岡金次

右法 仁背百田用都屋中屋名法法  
亦古申事  
西津屋表法

右法 仁背百田用都屋中屋名法法  
亦古申事  
西津屋表法

栗田  
法中一宿依文理以高下  
杉原百八  
濱田誠也  
松岡十重  
松岡金次

右法中一宿用都屋中屋名法法

西行版書法

松林齋

右 任其自便 唯其不礙社名 宜自計其後

女六日

休日 西行版書法

但此圖寫其原形 勿用其意

書於卷末

右 任其自便 唯其不礙社名 宜自計其後

若田為子

右 任其自便 唯其不礙社名 宜自計其後

若田為子

右 任其自便 唯其不礙社名 宜自計其後

若田為子

女七言

例刻公仕

許用向有入仕者  
許用銀多者  
右有刻後同者

若國為

許用銀表法法

若國為

右有刻後同者  
許用銀表法法  
許用銀表法法

許用銀表法法

許用銀表法法

許用銀表法法

若國為

右有刻後同者  
許用銀表法法  
許用銀表法法

許用銀表法法

若國為

右有刻後同者  
許用銀表法法  
許用銀表法法

若國為

右有刻後同者  
許用銀表法法  
許用銀表法法

若國為

一 法月... 法月... 法月...  
 一 新... 新... 新...  
 一 依... 依... 依...  
 一 西... 西... 西...  
 一 新... 新... 新...  
 一 西... 西... 西...  
 一 下... 下... 下...

下... 下... 下...  
 下... 下... 下...  
 下... 下... 下...

右... 右... 右...  
 右... 右... 右...  
 右... 右... 右...

女白

一 体... 体... 体...  
 一 一... 一... 一...  
 一 一... 一... 一...  
 一 一... 一... 一...

清竹居蒙月後  
可憐也

清竹居蒙月後  
可憐也

廿九日

休日西津殿より向山池へ

山池

右長之権守の御書に於て  
有たる御書に

御教先之御書に因致法  
道則御書に因致

以上贊

私儀成之書

御書に於て御書に因致法  
道則御書に因致

御書に於て御書に因致法  
道則御書に因致

御書に於て御書に因致法  
道則御書に因致

御書に於て御書に因致法  
道則御書に因致

御書に於て御書に因致法  
道則御書に因致

御書に於て

文政十一年七月廿九日

山池

但右左衛門殿

若山左衛門殿

若山左衛門殿

喜本之助殿  
喜本清太郎殿  
乃由以 奉殿  
二村 方殿

喜本之助殿  
喜本清太郎殿  
乃由以 奉殿  
二村 方殿  
喜本之助殿  
喜本清太郎殿  
乃由以 奉殿  
二村 方殿

喜本

休日 喜本之助殿

出石藩

御用部屋日記

文政

十年

八月

出石町公民館藏

文政十丁亥年

沖野

日記

吉本洋造

八月大

沙年寄  
 沙小姓類  
 沙結心方以人  
 沙月人  
 沙物類  
 沙紅奉新  
 町年終  
 沙劫定年  
 沙徒去以  
 沙月日  
 沙部月日  
 沙普諸年  
 沙危之  
 色定氏

# 火消

吉小澤在  
 如古平山  
 亦在岩尾  
 荒本志長  
 磯野太郎  
 念以十物  
 官律年終  
 坂 親物  
 西山管在  
 本間源政  
 管北猪大  
 行合並  
 上岩、親  
 中村、岩

# 噴火瀨之場

磯野太郎  
 出 少長

松井源  
 本此旁象

朔日收晴

一 五半時將捕想公仕之事

一 西御殿上仙石在京沙年寄仙石並計仙石

大出陪出仕前召出八部沙役儀申上

沙目見江 伴付沙廣斗沙役儀進行並致

退散

一 沙子極方八朔沙役儀本則右在延上

二 朔日付付

仙石並計  
仙石並計

一 朔日用沙役儀

沙小姓以  
用用人  
酒台役儀  
役野儀

一 沙小書院之同下沙役儀

同下同以下沙役儀八部沙役儀

但沙小姓在沙役儀

一 大書院之沙役儀

同下同以下沙役儀八部沙役儀

一 今朔沙役儀

一 先月中沙役儀

一 山崎一修の心算圖 (1950)

一 山崎純平の心算圖 (1950)

一 山崎純平の心算圖 (1950)

一 山崎純平の心算圖 (1950)

一 十の百 (荒木村 見聞辨)

一 山崎純平の心算圖 (1950)

一 四月廿四日

原通下後河村何道下後

移地河傳元

臨山名德

吾山嘉河傳元

河元

杉原百介

右代

伴佐九郎

一 四月廿五日

原通下後河村何道下後

移地河傳元

吾山嘉河傳元

宇野宗吉

一 四月廿六日

原通下後河村何道下後

移地河傳元

吾山嘉河傳元

宇野宗吉

一 四月廿七日

原通下後河村何道下後

河元

吾山嘉河傳元

宇野宗吉

町合りの中

右田忠孝  
坂田重三  
吾部宗吉  
中澤徳吉  
伊合道次  
河井馬次  
河代官

倉本十右

古史記の部

古史記の部  
漢書の部  
後漢書の部  
三國志の部  
晉書の部

古今事考類聚の部  
御製通志の部

御製通志の部  
古今事考類聚の部  
皇朝通志の部  
皇朝通志の部  
皇朝通志の部  
皇朝通志の部

一 体目 西行傳の部  
何如小御人の部

沙流の部  
志 沙流の部  
皇朝通志の部  
皇朝通志の部  
皇朝通志の部  
皇朝通志の部

一 体目 西行傳の部  
何如小御人の部

皇朝通志の部  
皇朝通志の部  
皇朝通志の部  
皇朝通志の部



此分記名

石川町一ノ段ノ古ノ海ノ口ニ

石川町一ノ段

石川町一ノ段

石川町一ノ段ノ古ノ海ノ口ニ  
石川町一ノ段ノ古ノ海ノ口ニ  
石川町一ノ段ノ古ノ海ノ口ニ

石川町一ノ段  
石川町一ノ段

石川町一ノ段ノ古ノ海ノ口ニ  
石川町一ノ段ノ古ノ海ノ口ニ  
石川町一ノ段ノ古ノ海ノ口ニ

石川町一ノ段

石川町一ノ段

石川町一ノ段

石川町一ノ段ノ古ノ海ノ口ニ

石川町一ノ段ノ古ノ海ノ口ニ

石川町一ノ段

石川町一ノ段ノ古ノ海ノ口ニ

石川町一ノ段ノ古ノ海ノ口ニ

石川町一ノ段ノ古ノ海ノ口ニ  
石川町一ノ段ノ古ノ海ノ口ニ  
石川町一ノ段ノ古ノ海ノ口ニ

石川町一ノ段

石川町一ノ段ノ古ノ海ノ口ニ

石川町一ノ段ノ古ノ海ノ口ニ

水之清月之白

夜積雨之付子未定也  
揚州少生之相生也

仙石乃系

昔在江陰之會也  
昔在江陰之會也  
昔在江陰之會也  
昔在江陰之會也  
昔在江陰之會也  
昔在江陰之會也

但唐如之月甲書同入序下之政也

積雨之付子未定也

仙石乃系

揚州少生之相生也  
昔在江陰之會也  
昔在江陰之會也  
昔在江陰之會也  
昔在江陰之會也  
昔在江陰之會也

一、月之清月之白  
二、月之清月之白  
三、月之清月之白  
四、月之清月之白  
五、月之清月之白  
六、月之清月之白

月之清月之白

仙石乃系  
仙石乃系  
仙石乃系  
仙石乃系  
仙石乃系  
仙石乃系

但月之清月之白  
但月之清月之白  
但月之清月之白  
但月之清月之白  
但月之清月之白  
但月之清月之白

一、月之清月之白

二、月之清月之白

三、月之清月之白

四、月之清月之白

仙石乃系  
仙石乃系  
仙石乃系  
仙石乃系  
仙石乃系  
仙石乃系

道長 伊賀守

右筆人

一 所 仰 乞 付

信田守以

右形用入 乃 是 申 仰 乞 付 仰 乞 付

未 示 宛 悉

右一 所 仰 乞 付 仰 乞 付 仰 乞 付 仰 乞 付

仰 乞 付 仰 乞 付 仰 乞 付

仰 乞 付

仰 乞 付 仰 乞 付 仰 乞 付

同 月 月 日

右一 所 仰 乞 付 仰 乞 付 仰 乞 付 仰 乞 付

仰 乞 付

仰 乞 付 仰 乞 付 仰 乞 付

仰 乞 付 仰 乞 付 仰 乞 付

右 筆 人 信田守以

右一 所 仰 乞 付 仰 乞 付 仰 乞 付

仰 乞 付 仰 乞 付 仰 乞 付

右一 所 仰 乞 付 仰 乞 付 仰 乞 付

同 月 月 日

右一 所 仰 乞 付 仰 乞 付 仰 乞 付

仰 乞 付

仰 乞 付

仰 乞 付 仰 乞 付 仰 乞 付

仰 乞 付 仰 乞 付

仰 乞 付 仰 乞 付

同 月 月 日

右 筆 人

仰 乞 付 仰 乞 付

同 月 月 日

右 筆 人



一 山納子行

(四) 山納子行 納子行 納子行

中納子行 納子行

一 山納子行

加屋行

山納子行 納子行 納子行 納子行 納子行 納子行 納子行 納子行 納子行 納子行

一 山納子行 納子行 納子行 納子行 納子行 納子行 納子行 納子行 納子行 納子行

納子行 八月五日

八月五日

九月九日

九月九日

九月九日 十月十日 十月九日 十月八日 十月七日

十月

十月十日

十月十日

十月九日

十月九日

十月八日

十月八日

十月七日

十月七日

十月六日

十月六日

十月五日

十月五日

十月五日

十月四日

十月四日

十月三日

十月三日

十月二日

十月二日

十月一日

十月一日

一 体白 西泮教口何尔烟产  
一 山理氏

此等列書又列撰之由能教生を以て  
其の由を以て名を以て列し其の由を以て  
其の由を以て名を以て列し其の由を以て  
其の由を以て名を以て列し其の由を以て  
其の由を以て名を以て列し其の由を以て

一 此の由を以て名を以て列し其の由を以て

一 此の由を以て名を以て列し其の由を以て  
其の由を以て名を以て列し其の由を以て

一 此の由を以て名を以て列し其の由を以て  
其の由を以て名を以て列し其の由を以て

一 此の由を以て名を以て列し其の由を以て

一 此の由を以て名を以て列し其の由を以て  
其の由を以て名を以て列し其の由を以て

一 此の由を以て名を以て列し其の由を以て

一 此の由を以て名を以て列し其の由を以て

一 此の由を以て名を以て列し其の由を以て

一 此の由を以て名を以て列し其の由を以て

一 此の由を以て名を以て列し其の由を以て  
其の由を以て名を以て列し其の由を以て

不及何

一 惠修書卷

一 惠修書卷

一 惠修書卷

不及何

一 惠修書卷

何處言不及于彼  
以與人之心

後日記月

十二日

一 休日 西行殿上何也

何處言不及于彼  
以與人之心

何處言不及于彼

十二日

一 休日 西行殿上何也

何處言不及于彼  
以與人之心

何處言不及于彼

十四日

一 休日 西行殿上何也

何處言不及于彼  
以與人之心

何處言不及于彼

十五日

一 西行殿上何也

何處言不及于彼  
以與人之心

一 休日

何處言不及于彼  
以與人之心

何處言不及于彼

一 西行殿上何也

美國在華引中  
三行股引用印人等

不國事也

有之通之法

仁甘之引用部全一後

口他事也

有朱之引用印人等  
引用印人等  
引用印人等

引用印人等

世之引用印人等  
引用印人等  
引用印人等  
引用印人等  
引用印人等

常之引用印人等  
引用印人等

國之友也

有之通之法

有之通之法  
引用印人等  
引用印人等  
引用印人等  
引用印人等

有之通之法  
引用印人等  
引用印人等

有之通之法  
引用印人等  
引用印人等  
引用印人等

八月十日

吉本洋行

四月廿日

高木先生へお礼  
お礼申し上げます

- 一 右の付連杉、成田用入との引合は、  
中後迄付連杉高木へ成田殺生との引合  
相違は、了し成田中後
- 一 建杉成田へ成田中後、中後迄付連杉  
申後

十六日折

一 休日 西行殿へ成田中後

成田中後、成田中後、  
成田中後、成田中後

白杉平

成田中後、成田中後、  
成田中後、成田中後

原平

但成田中後、成田中後、  
成田中後、成田中後

一 右の付連杉、成田用入との引合は、  
中後迄付連杉高木へ成田殺生との引合  
相違は、了し成田中後

始成田中後、成田中後、  
成田中後、成田中後

吉本洋行

一 今七时冲用是... 定... 大... 冲... 冲... 冲...

冲... 冲... 冲... 冲... 冲...

原... 冲... 冲... 冲...

一 石... 冲... 冲... 冲... 冲...

冲... 冲... 冲... 冲... 冲...

原... 冲... 冲... 冲...

一 石... 冲... 冲... 冲... 冲...

作... 冲... 冲... 冲... 冲... 冲... 冲... 冲... 冲... 冲...

原... 冲... 冲... 冲...

二... 原... 冲... 冲... 冲...

三... 原... 冲... 冲... 冲...

四... 原... 冲... 冲... 冲...

原... 冲... 冲... 冲... 冲... 冲... 冲... 冲...

年

石位是...

...

...

杉原友成  
山田...

仙石...  
山田...

山田...  
...

山田...  
...

杉原友成  
山田...

山田...  
...

早川...  
...

...

一 休日 十七日 晴  
西津殿 日向山 地ノノノ

大庭柳

計ハ香ヲ知レ中ニ

大庭 登

計ハ香ヲ知レ中ニ

伊知ノ方知ノ友

江口 清

計ハ香ヲ知レ中ニ

山本 年

計ハ香ヲ知レ中ニ

布 通 一 境 之 如 山 間 之 中 途

布 通 知 計 先 之 計 為 之

山本 年

伊知ノ方知ノ友

計ハ香ヲ知レ中ニ

原 又 年

一 休日 十八日 晴  
西津殿 日向山 地ノノノ

伊知ノ方知ノ友

小林 年

計ハ香ヲ知レ中ニ  
計ハ香ヲ知レ中ニ  
計ハ香ヲ知レ中ニ  
計ハ香ヲ知レ中ニ  
計ハ香ヲ知レ中ニ

十九日

一 休日 西津殿上相下細之合  
一 江戸番番丹丸出官更使申事  
殿様御座

一 柳登津城廻り出江左御座  
一 江戸番番丹丸出官更使申事

一 江戸番番丹丸出官更使申事  
一 江戸番番丹丸出官更使申事

四廿九

一 廿九日 廿九日 廿九日

後田 廿九日

右八日 廿九日

右廿九日 廿九日

一 廿九日 廿九日

廿九日

右廿九日 廿九日

一 廿九日

一 廿九日 廿九日

廿九日

右廿九日 廿九日

一 廿九日 廿九日

一 廿九日 廿九日

一 廿九日 廿九日

一 廿九日 廿九日

後田 廿九日

右八日

一 廿九日 廿九日

一 廿九日

一 廿九日

一 廿九日

一 廿九日

一 廿九日 廿九日

一 廿九日 廿九日

一 廿九日

廿九日

一 廿九日

一 廿九日

一 廿九日

一、  
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

百位存

月八分引

百位存

月七分引

百位存

百位存

月六分引  
月五分引

定府三年刻合

百位存

月三分引

百位存

月二分引

百位存

月一分引

百位

月五分引

百位存

百位存

百位存

百位存

百位存

百位存

百位存

百位存

百位存

月七分引

四 孫傳六  
孫引  
孫之入姓為  
孫引  
孫之入姓為  
孫引  
孫之入姓為

三 孫傳六  
孫引  
孫之入姓為  
孫引  
孫之入姓為  
孫引  
孫之入姓為

二 孫傳六  
孫引  
孫之入姓為  
孫引  
孫之入姓為  
孫引  
孫之入姓為

一 諸君之友人 (友人) 之友人 (友人) 之友人 (友人)

友人 (友人) 之友人 (友人) 之友人 (友人)

友人 (友人) 之友人 (友人) 之友人 (友人) 之友人 (友人)

友人 (友人) 之友人 (友人) 之友人 (友人)

平林氏年  
口述  
乙酉年

亡父海平年夏自故未久其子年之友人

亡父海平年夏自故未久其子年之友人

亡父海平年夏自故未久其子年之友人

友人 (友人) 之友人 (友人) 之友人 (友人)

白井氏年

友人 (友人) 之友人 (友人) 之友人 (友人)

友人 (友人) 之友人 (友人) 之友人 (友人)

小島氏年

友人 (友人) 之友人 (友人) 之友人 (友人)

正父 楊子平 年 月

正父 楊子平

正父 楊子平

正父 楊子平

正父 楊子平

楊子平

正父

正父 楊子平

正父 楊子平

正父 楊子平

正父 楊子平

楊子平

正父 楊子平

正父 楊子平

正父 楊子平

楊子平

楊子平

正父 楊子平

正父 楊子平

正父 楊子平

正父 楊子平

楊子平

正父 楊子平

1/20000000000

100000000000

1/10000000000

100000000000

1/100000000000

1/100000000000

100000000000

1/100000000000

100000000000

1/100000000000

1/100000000000  
1/100000000000  
1/100000000000  
1/100000000000  
1/100000000000  
1/100000000000  
1/100000000000  
1/100000000000  
1/100000000000  
1/100000000000

1/100000000000  
1/100000000000  
1/100000000000  
1/100000000000  
1/100000000000  
1/100000000000  
1/100000000000  
1/100000000000  
1/100000000000  
1/100000000000

1/100000000000

1/100000000000

1/100000000000

1/100000000000

100000000000

1/100000000000

1/100000000000

大一日 住持

一 別別出仕 西陣殿より回す所より書す

後、左の意を以て

一 交代の御書

一 西陣人々の御書

与別

信

一 西陣御守世友は伏せ申上仕向候所、御意候所  
申候所、申上仕向候所、申上仕向候所、申上仕向候所

大御権 信者院様 沖家御守の御書  
一 御書は、申上仕向候所、申上仕向候所、申上仕向候所

一 御権 沖家御守の御書、申上仕向候所、申上仕向候所、申上仕向候所  
一 御書は、申上仕向候所、申上仕向候所、申上仕向候所、申上仕向候所  
一 御書は、申上仕向候所、申上仕向候所、申上仕向候所、申上仕向候所  
一 御書は、申上仕向候所、申上仕向候所、申上仕向候所、申上仕向候所

御書

一 御

一 御書は、申上仕向候所、申上仕向候所、申上仕向候所、申上仕向候所

御書

一 右御書は、申上仕向候所、申上仕向候所、申上仕向候所、申上仕向候所

一 御書は、申上仕向候所、申上仕向候所、申上仕向候所、申上仕向候所

一 御書は、申上仕向候所、申上仕向候所、申上仕向候所、申上仕向候所

前八日在廣東省城  
多之能也其故何

白粉平三條

才及於通人一等者其多不一其故亦不一其故  
海一岸一之為也其故亦不一其故亦不一其故  
如拉也乃之改上之其故亦不一其故亦不一其故  
其故亦不一其故亦不一其故亦不一其故

一 四國入道

其故亦不一其故亦不一其故亦不一其故

津港地務溫氣其故亦不一其故亦不一其故  
白粉平三條

瑞江乃江那之休食其故亦不一其故亦不一其故  
今一也了合瑞乃休友乃其故亦不一其故亦不一其故

一 廣東省城在廣東省城

廿二日

一 休日 廣州省城

廿二日

一 休日 西津省城

其故亦不一其故亦不一其故亦不一其故  
其故亦不一其故亦不一其故亦不一其故

白粉平三條

女名

一 休日 西津殿下何止烟之...

室中虎様沙汰月香

宗後守子也  
口休浪走也

但在急之抄初此系与有静子抄也

山田静子

右目所

大殿様 沖代音多知

沖代音多知也

山村 貞

女名

一 休日 西津殿下何止烟之...

一 宗姓 宗姓

宗姓子也 宗姓子也

沖代音多知也

田中様抄也 播列抄也

小宗村也 宗姓子也 宗姓子也

宗姓子也 宗姓子也 宗姓子也

宗姓子也 宗姓子也 宗姓子也

宗姓子也 宗姓子也

宗姓子也 宗姓子也

宗姓子也

川中... 一

... 一

仙石左京

名父 大泉堂

仙石左京

仙石左京

仙石左京

一 差和拉是二方在富方

田人

右先以方山本年三所

信有... 志... 人... 志... 相... 志... 也... 志...

女六日

一 休日 西... 西... 西... 西...

女七日

一 休日 西... 西... 西... 西...

一 大... 法... 守... 守... 守...

同... 在... 北... 之... 房... 室... 也...

宇... 宇... 宇...

志... 核... 志... 志... 志... 志...

仙... 仙... 仙...

大... 殿... 派... 派... 派... 派...

志... 志... 志... 志... 志... 志...

芦... 芦... 芦...

松... 年... 物... 考... 考... 考... 考...

第... 人... 知... 知... 知... 知... 知...

西人如上海及各地...

右部通車 作日...

一 西人入道

清村...

法...

一 回生

妹美...

高橋...

一 西人教士...

伯父...

德...

平常...

一 宗教...

德...

北...

德...

德...

在道...

一 在道...

一 寺...

經王寺

本寺乃院住持有在元丁... 延江... 中...

腰以以

岩田靜馬

沖流... 乃... 抄... 能...

汝村水邊...

岩田...

乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃...

山... 町...

山田...

山田...

山田...

山田...

山田...

山田...

山田...

右山科... 重信... 乃... 乃...



集部後以人按...

中是月...  
...  
...  
...

表...  
...

廿九日 晴

一 休日 西門外...

一 取由...

一 取海...

一 取...

...

晦日

一 休日 西門外...

一 取...

...

...

...

第七節  
中島市  
杉原市  
安房市  
荒井市  
升  
志少

出石藩

御用部屋日記

文政十年九月

出石町公民館藏

文政十年丁亥年

御用

日記 大森次登

九月小

沙年秀  
沙小波氏  
沙用入  
沙律子用入  
沙力氏  
沙部氏  
沙部氏  
沙部氏  
沙部氏  
沙部氏  
沙部氏

大森登  
松七郎  
安友若尾  
荒木甚尾  
古田友夫  
松田平吉  
佐内重吉  
杉原重吉  
中山重吉  
安友若尾  
松田平吉  
佐内重吉  
杉原重吉  
中山重吉  
安友若尾  
松田平吉  
佐内重吉  
杉原重吉  
中山重吉

# 火消

岡部重吉  
太田友夫

松井清夫  
波多良夫

浪記海編

相日

一 例刻出仕 西冲教書者 涉後相涉後境  
紙回何也 世宗絕之 公出

一 冲用向有 出仕者  
西冲教書者 出仕

大 杏 登

一 病後 出仕者  
今月 出仕者 合

仙 石 左 系

右

一 大 飯 指 甚 冲 經 書 冲 經 人 冲 經 有 冲 經  
涉 經 何 也 何 也

一 今 維 冲 經 人 出 仕 者 涉 經 何 也 何 也  
一 今 月 中 涉 經 人 出 仕 者 涉 經 何 也 何 也

一 出 仕 者 合 相 也

一 出 仕 者 合 相 也 涉 經 何 也 何 也  
一 涉 經 何 也 何 也 涉 經 何 也 何 也

一 出 仕 者 合 相 也

仙 石 左 系

一 涉 經 何 也 何 也 涉 經 何 也 何 也

一 涉 經 何 也 何 也 涉 經 何 也 何 也

涉 出 仕 者 涉 經 何 也 何 也  
涉 經 何 也 何 也 涉 經 何 也 何 也

一 未 凡 日 九 日 涉 經 何 也 何 也  
一 涉 經 何 也 何 也 涉 經 何 也 何 也

涉 經 何 也 何 也

涉 經 何 也 何 也

涉 經 何 也 何 也 涉 經 何 也 何 也

法華經

法華經  
法華經  
法華經  
法華經  
法華經

法華經

法華經

法華經

法華經

法華經

法華經

法華經

法華經

法華經

法華經

法華經

法華經

法華經

法華經

法華經

· 津東沙口家  
津出(節)

仙居在東  
公澤事在  
德永事在  
少長或  
可恩次  
可恩公

· 津東沙口家  
仙居

仙居在東  
若因靜高  
青木澤在  
大長登  
山村真  
仙居在東

沙山姓氏  
酒自屋金  
改修原居  
中園在  
并上宗居

山級生巧  
山以定其巧  
山目甘其大  
山名其佳

右向之玉... 於沖... 於沖... 於沖... 於沖...

一 雄釵 一振  
一 流輝 一匹

浪石

沖伐木

一 雄釵 一振

一 流輝 一匹

沖伐木

右考

一 南漆 一序

沖伐木

自卷

一 南漆 一序

沖伐木

多弄

一 流輝 一匹

無弄

一 流輝 一匹

仙石

大表

七

南

交

一 津代系

杉野系

一 津代系

志生系

一 津代系

丹古系

一 津代系

若少系

一 津代系

一 津代系

大石院  
津子  
目人

一 津代系

一 津代系

同日

一 津代系

一 津代系

一 津代系

一 津代系

一 津代系

一 三 痛 沖 代 和 向  
沖 德 涉 涉 可 其 以 冒 對 對 牙 目  
痛 不 不 不 不 不 不 不 不 不 不 不

一 五 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

交

九月

一 寶 人 皇

左 無 在 何 有 事 處 也

本 日 日  
新 德 德 德 德 德 德 德 德 德 德 德

右 國 以 和

海 派 正 之 也

大 定 至 聖 節

以 濟 德 德 德 德 德 德 德 德 德 德 德

中 德 德 德

錦 井 德 德

德 德 德 德 德 德 德 德 德 德 德

野 德 德 德

以 之 為 德 德 德 德 德 德 德 德 德 德 德

世 德 德 德 德 德 德 德 德 德 德 德

工 友 付 德

以 之 為 德 德 德 德 德 德 德 德 德 德 德

一 寶 人 皇

以 之 為 德 德 德 德 德 德 德 德 德 德 德  
德 德 德 德 德 德 德 德 德 德 德  
德 德 德 德 德 德 德 德 德 德 德

一 宋 姓 氏 也

只許應為屋宇深廣  
只許下階危坐中  
為病由來細細言

二 曹 氏 也

二 日

一 休 日 西 津 殿 之 白 石 佛 之 身 也

二 日

一 休 日 西 津 殿 之 白 石 佛 之 身 也

一 休 日 西 津 殿 之 白 石 佛 之 身 也

二 友 伴 作

一 休 日 西 津 殿 之 白 石 佛 之 身 也

二 友 伴 作

一 休 日 西 津 殿 之 白 石 佛 之 身 也

一 休 日 西 津 殿 之 白 石 佛 之 身 也

一 休 日 西 津 殿 之 白 石 佛 之 身 也

一 休 日 西 津 殿 之 白 石 佛 之 身 也

一 休 日 西 津 殿 之 白 石 佛 之 身 也

二 日

一 休 日 西 津 殿 之 白 石 佛 之 身 也

一 休 日 西 津 殿 之 白 石 佛 之 身 也

一 左之向之計用之候多自明之可計出仕在官候  
若夫

原又市  
後井順物  
山崎右衛門  
向之向之法

一 後修之式次第候  
計度之次第候修身候下在官  
町奉行所之次第考可也此修身候  
乃多人候又計用之修身中下  
候修身之修身候修身候修身候

中山年古

六日

一 份別出仕 西津殿之向出仕候次第候

如痴也其修身候修身候修身候  
者其修身候修身候修身候  
其修身候修身候修身候

杜松寺候

一 左之身在 任付名目用都屋下候

但修身之甲下修身  
其修身候修身候修身候

原又市

一 附  
其修身候修身候修身候  
其修身候修身候修身候  
其修身候修身候修身候

其修身候修身候  
其修身候修身候  
其修身候修身候

上芝印以授之如中实际之在也之

勤珍中  
三人结语  
却有后在久结语高申

甲午年  
上卷之五

丙午年  
四十一岁

汝开烟如

布白也 作甘言自得云云

右田家门

右身之病中一知经之在也今收之在也并之有  
方之知者曰收在也非是之在也今收之在也并之有  
方之知者

之上赞

私後代云云

許厚恩云云之方余之法也

仙骨在實亦之在也之在也今收之在也并之有  
出情之許也長相如之在也今收之在也并之有  
許厚恩云云之方余之法也  
病之症之在也夜之在也今收之在也并之有  
許厚恩云云之方余之法也  
許厚恩云云之方余之法也

文殊丁亥年九月廿四

右田家门一

仙骨在實亦之在也

許厚恩云云之方余之法也

出月人進

仙上平之遊山板念物念為我然之山板為有  
秋自結之同山板也

字藏念  
物念

右用入心之田用結念之念田用為念

法後以  
中應也法後常如之後之  
陽後仕那多相念仕齊  
法之今二字當力仕交聲  
念之今多聲於下地

若田靜念

廿九日

法修法後結之念

小林修物

右之念  
作何名用入之念法

敬云圖收

右之念  
作何名用入之念法

法

一為名有九法修以念法有法念法及并為家  
物之今之念法在何何法

仙之念  
田側句

右法念中一法一法一月之念法有念法  
念之今念今念法修之念法之念法念法

一買入念

念之念  
作何名用入之念法

信田外物

亡之念  
念法修之念法修之念法  
念法修之念法修之念法

念之念  
念法修之念法修之念法

念之念  
念法修之念法修之念法

西川修念  
若田修念

出此書也

一曰

一休日 雲波殿。白米酒。八多矣。  
一友之。西。陽。春。生。好。日。後。有。自。來。水。  
右。陰。之。好。意。也。好。日。之。好。意。也。  
好。日。之。好。意。也。好。日。之。好。意。也。

一好

日

子

九利

子

九利

右。好。之。好。意。

九利

一友。通。自。自。自。自。自。自。自。自。

右。之。通。自。自。自。自。自。自。自。自。

右。之。通。自。自。自。自。自。自。自。自。

右。之。通。自。自。自。自。自。自。自。自。

九利

大書

九利

右。之。通。自。自。自。自。自。自。自。自。

一本。通。自。自。自。自。自。自。自。自。

右。之。通。自。自。自。自。自。自。自。自。

右。之。通。自。自。自。自。自。自。自。自。

大書

一 体日 西津殿之向來御人云云  
一 奇社其月也

法持西宮後之御修給并津子之御書云云  
云々云々

八百

一 奇社 其月也

一 西津殿之向來御人云云

一 津子之御書云云

一 靈福の御書云云  
云々云々

四月 酒白澤也

一 新修の御書云云

四月 改修御書

一 法持の御書云云

仙石之御書

一 出仕津津才の御書云云

仙石在也

一 一月の御書云云  
津津才の御書云云

四月 小姓人  
四月 用人

一 津津才の御書云云

一 仙石在也

一 津津才の御書云云

一 津津才の御書云云

清代名臣通相勳

殷振

大殷振

大奕振

貞恭德振

多吉德振

無庫振

於名振

於節振

於可振

清才才德俊工是

清才才德俊工是

清才才德俊工是

右白乃清才才德俊工是

清才才德俊工是

清才才德俊工是

右白乃清才才德俊工是

右白乃清才才德俊工是

右相清才才德俊工是

清才才德俊工是

清才才德俊工是

清才才德俊工是

清才才德俊工是

清才才德俊工是

清才才德俊工是

仙石在東

大奕登

右白乃清才才德俊工是

清才才德俊工是

清才才德俊工是

清才才德俊工是

清才才德俊工是

清才才德俊工是

清才才德俊工是

大台院

沐子

知教院

知教院

名至在

清才才德俊工是

清才才德俊工是

清才才德俊工是

清才才德俊工是

清才才德俊工是

後清相傳後清目錄

一 清史稿

清史稿  
清史稿

一 清史稿 清史稿 清史稿

但西清殿前清史稿人志常如前清史稿清史稿清史稿

一 大政指 清史稿 清史稿 清史稿

一 同人之志 清史稿 清史稿 清史稿

但西清殿前清史稿人志常如前清史稿清史稿清史稿

一 仙年之通 清史稿 清史稿 清史稿

一 清史稿 清史稿 清史稿

但西清殿前清史稿人志常如前清史稿清史稿清史稿

一 清史稿

一 清史稿 清史稿 清史稿

一 清史稿 清史稿 清史稿

一 清史稿

一 清史稿 清史稿 清史稿

一 清史稿 清史稿 清史稿

九日

一 清史稿

一 清史稿 清史稿 清史稿

方乃乃年陽法後後...

沖子...

沖...

山月...

左...

山...

通...

但通...

法...

法...

山...

致...

山...

山...

十...

山...

法...

沖...

沖...

山...

西...

法...

十日

休日 西...

一 例刻出仕

清用向之出仕意

西津殿直事

他右有例刻出仕意

大森堂

用意相固府本意也  
出仕仕方少少人全意也

出仕仕方少少人全意也  
出仕仕方少少人全意也  
出仕仕方少少人全意也

一 出用入仕

西津殿直事  
出仕仕方少少人全意也

法皇堂

西津殿直事

右、西津殿直事

法皇堂

右、西津殿直事 作付有合相初在書海忘意

法皇堂

西津殿直事  
忘 西津殿直事

法皇堂

出用入仕  
出用入仕  
出用入仕

信田  
高田信成

本家信田長公御孫信田長公御孫信田長公御孫信田長公御孫

一 宗信公生

許彦公御孫信田長公御孫信田長公御孫信田長公御孫

永年全盛

十日

一 信田 西御殿之御孫信田長公御孫

一 宗信公生

許彦公御孫信田長公御孫信田長公御孫信田長公御孫

本國信成

信田長公御孫

本國信成

一 宗信公生 信田長公御孫信田長公御孫信田長公御孫

一 宗信公生

高田信成

本家信田長公御孫信田長公御孫信田長公御孫信田長公御孫

一 宗信公生

信田信成

右高岡傳書之通中一紙之存也

十一日

一日 西津殿より同宗細へ書状

十日

一日 西津殿より同宗細へ書状  
一日 西津殿より同宗細へ書状

去後三人へ

西目付書

同宗細へ

去後三人へ

西目付書

同宗細へ

去後一人へ

同宗細へ

西目付書

同宗細へ

西目付書

右後家より書状ありて其後同宗細へ

大書

九月十日

西目付書

書状

西目付書

同宗細へ

去後一人へ

右目付書同宗細へ書状ありて其後同宗細へ

西目付書

去人

但多时体是言此名出此名

右月以

法

法

法

法

表  
出小網  
中

右月以 任

### 十

西御殿出仕若左系治法年去出仕高曾法後  
何法成短丁正對牙法統法逃丁正法成入區殿

何別出仕

法

右月以

大  
青

右

大取極甚 沖任全後 沖舟之 沖意有産

法

沖子極方

出仕法用都

仙

一因

沙小姓  
法用人  
酒白  
磯

一切法用經...

...

...

社石...

許意

許意存身...

...

...

許意存身

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

許意存身

...

...

# 許意右行

一級

三  
二  
一

浦  
三  
二  
一  
四

三  
二  
一  
四

浦  
三  
二  
一  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

化無產痛以附書信之名要後及...

西河  
山小細

山小細

許意右門乃

化中付...

表

山小細

西河  
山小細

許後為之... 許後為之... 許後為之...

許後為之... 許後為之... 許後為之...

九月

頁

一 許後為之...

大...

一 同百或陸或友

京都品産記

一 同或百或陸或友

川津名目記

一 同千或百或友

江戸品産記

金文或百或友

一 同六百或陸或友

正國品産記

九下之友

一 同千或百或陸或友

地白品産記

之陸或百或友

一 同百或陸或友

江代品産記

一 同百或陸或友

六十年城口

二陸或百或友

一 同千或百或陸或友

三陸品産記

四下之友

一 同九或陸或友

杉陽品産記

男

陸或百或陸或友

或下之友

一 同千或百或陸或友

高田品産記

多

一 同八百或友

法名古物品産記

一 同六百或友

法名品産記

一 同百或陸或友

古物品産記

不三首の巻あり

一 張政官の巻あり

書六首の巻あり

一 張政官の巻あり

一 張政官の巻あり

一 張政官の巻あり

一 張政官の巻あり

中

一 張政官の巻あり

一 張政官の巻あり

一 張政官の巻あり

町

山

古田忠

宮北

根田

藤久

谷

谷

谷

谷

谷

谷

山

山

山形縣新田町

小林勝治  
平助

新井三六  
山形縣新田町

右邊の巻に... 山形縣新田町

山形縣新田町... 山形縣新田町

清原... 山形縣新田町

山形縣新田町  
山形縣新田町  
山形縣新田町

山形縣新田町

右邊の巻に... 山形縣新田町

山形縣新田町

右邊の巻に... 山形縣新田町

山形縣新田町  
山形縣新田町

山形縣新田町

山形縣新田町... 山形縣新田町

山形縣新田町

右、海部省中、右の如き日、後、公使、は、地、産、後、  
一、方、海、山、目、付、中、候、

今日、お、後、公、使、は、海、部、省、中、に、  
目、付、中、候、お、後、公、使、は、

右、海、部、省、中、に、  
九月、十日、

山、目、付、中、

山、目、付、中、候、  
山、目、付、中、候、  
山、目、付、中、候、

山、目、付、中、

山、目、付、中、  
山、目、付、中、

山、目、付、中、

右、海、部、省、中、

右、海、部、省、中、

右、海、部、省、中、

山、目、付、中、  
山、目、付、中、  
山、目、付、中、

山、目、付、中、

右、海、部、省、中、

山、目、付、中、

右、海、部、省、中、  
山、目、付、中、

山、目、付、中、  
山、目、付、中、

山、目、付、中、  
山、目、付、中、

右、海、部、省、中、  
山、目、付、中、  
山、目、付、中、  
山、目、付、中、

江戸表先月廿七日出立江使の事  
殿極早迄

上様迄誠意結成候事御座候事  
申上

八日申  
江戸表先月廿七日出立江使の事  
殿極早迄

江戸表先月廿七日出立江使の事  
殿極早迄

江戸表先月廿七日出立江使の事  
殿極早迄

右様向公使の事御座候事  
江戸表先月廿七日出立江使の事  
殿極早迄

江戸表先月廿七日出立江使の事  
殿極早迄

江戸表先月廿七日出立江使の事  
殿極早迄

江戸表先月廿七日出立江使の事  
殿極早迄

右様向公使の事御座候事  
江戸表先月廿七日出立江使の事  
殿極早迄

江戸表先月廿七日出立江使の事  
殿極早迄

江戸表先月廿七日出立江使の事  
殿極早迄

江戸表先月廿七日出立江使の事  
殿極早迄

江戸表先月廿七日出立江使の事  
殿極早迄

江戸表先月廿七日出立江使の事  
殿極早迄

十六日

一日 澤敏之自京池へ参上

後部宗行有

津初代

津三郎

津三郎

若女息

右今相相初代上

忘法遊津先合上

出初代上

柱松吉郎

母頼の

看為山崎存代上

次津彦者初代津部上

右月人

十七日

例初代上 西津敏之自京池へ参上

大急後原

津部上

津部上

津彦

仕石左兵

右相初代上上上

出初代上

出初代上

右出陣中上

津部上

同中 建

出初代上

出初代上

出初代上

出初代上

杉原百介

一 大慈院相許信年庄

大般指骨時許信信... 信年寺... 許佛指信

許信信...

國瑞信士

右... 許信信... 許信信...

此用... 乃...

一 此用... 乃...

許信信... 許信信... 許信信...

此口中怒

十八日

一 休日 西許信... 乃...

一 此用... 乃...

許信信... 許信信...

青山信

右... 許信信... 許信信...

一 此用... 乃...

許信信... 許信信...

信年信

十九日

一 休日 西許信... 乃...

許信信... 許信信...

吉信信

一 山月夕星

今秋江表之出之  
仕也

一 山月夕星

右月夕

杉原百舟  
海辺水舟  
和國古史  
在舟人舟  
舟上原舟

長丹彦物

女日

一 休日 西津殿 日向舟 遊楽

福海舟遊楽舟

山村貞

一 夜台村 遊楽舟 日向舟 遊楽舟  
町丹舟 遊楽舟 遊楽舟 遊楽舟  
遊楽舟 遊楽舟 遊楽舟 遊楽舟  
一 右舟

西津殿 遊楽舟 遊楽舟 遊楽舟

女日

一 休日 西津殿 日向舟 遊楽

遊楽舟 遊楽舟  
遊楽舟 遊楽舟  
遊楽舟 遊楽舟

右舟  
遊楽舟 遊楽舟  
遊楽舟 遊楽舟

西津殿  
遊楽舟 遊楽舟  
遊楽舟 遊楽舟  
遊楽舟 遊楽舟

三三三

一月十九日

二月十九日  
三月十九日  
四月十九日

五月十九日

守山

六月十九日  
七月十九日  
八月十九日  
九月十九日  
十月十九日

十一月十九日

十二月十九日

梅田  
信田

正月十九日

二月十九日

山本  
高橋

三月十九日

山崎

四月十九日

廿二日

休日  
五月十九日

六月十九日

山崎  
高橋

七月十九日

廿二日

休日  
八月十九日

一 可成所也

西方可

右京外法園町在正平軍陣所之樂之町也  
清和天皇相殿是七年之為法之始

女四日

一 休日 西河殿之自出小細戶也

一 大飯極野傳法流之宗後守也 御佛信託

一 山經寺所也

左之町之町之井下口山坂地檢入相位也

右田志無  
推田氏也

麻久美也

小林極也

山本寺也

山經寺

右田志無

山經寺

右田志無

一 山田所也

山田平山寺也

一 山田所也

山田平山寺也

中河極也

山田平山寺也 山田平山寺也 山田平山寺也  
山田平山寺也 山田平山寺也 山田平山寺也  
山田平山寺也 山田平山寺也 山田平山寺也  
山田平山寺也 山田平山寺也 山田平山寺也

女音

一日 西御殿より同出御ありて

一 貴人並

恒貴中病ありて是日  
忘中一人少府有也  
子少知知有也

一 伊予家より出御ありて同出御ありて

一 貴人並

先立より同出御ありて  
一 貴人並

伊予家より出御ありて  
一 貴人並

伊予家より出御ありて  
一 貴人並

女六日

一日 西御殿より同出御ありて

伊予家より出御ありて  
一 貴人並

伊予家より出御ありて  
一 貴人並

一日 貴人並

伊予家より出御ありて  
一 貴人並

一日 貴人並

伊予家より出御ありて  
一 貴人並

伊予家より出御ありて  
一 貴人並

倉島十物  
松田平太  
中澤作兵衛  
中村宗物  
谷本五右衛門  
駒井島次

為...  
...

山崎行  
...

一 賀賀生

三女...  
...

...

女七日

一 賀賀生 西河殿...  
二 賀賀生 賀賀生...

...

賀賀生...  
...

立交勇...  
...

...

此乃...  
海城或人

古学...  
古学...  
古学...

江家高月十九日... 致... 涉... 外...

西... 涉...

八月... 涉...

九月... 涉...

九月... 涉...

九月... 涉...

九月... 涉...

山田...

九月... 涉...

九月... 涉...

山田...

九月... 涉...

九月... 涉...

山田...

九月... 涉...

九月... 涉...

九月... 涉...

多志之隆哉  
四心符  
浪石段下

赤神志之隆哉  
四心符  
浪石段下

多志之隆哉  
四心符  
浪石段下

多志之隆哉  
四心符  
浪石段下

多志之隆哉  
四心符  
浪石段下

少志之隆哉  
浪石段下

长沙目録  
本誌文苑 二也  
伏乞 九段九段

九月十日  
大意  
浪石段下  
九段九段  
四心符  
南條三片

右津代橋香江 長月本誌

大塚在更

在岡中

小川在更

長月本誌  
長月本誌  
浪石段下  
浪石段下

三好海成

素水之更

女九日

休日 西澤殿より同御へ書

古色簪より其代  
取海女御衣より信

空井屋書

以津彦水夜燈烟  
相懸り行書

吉田平書  
吉田 延書

三女御より津彦水夜燈御書  
係系御内より行書

西川 忠書

以津彦水夜燈烟  
相懸り行書

片山 忠書  
森 舟書

去江貴 津彦水夜燈烟  
相懸り行書

信村 忠書

出陣入書

以津彦水夜燈烟相懸  
り行書

清江 忠書

出石藩

御用部屋日記

文政十年十月

出石町公民館蔵

文政十丁亥年

沖野亭

日記 山村貢

十五日

岩田靜馬

十月小

火酒

沙年分  
沙山經  
沙月人  
沙月人  
沙月人  
沙月人  
沙月人  
沙月人  
沙月人  
沙月人  
沙月人  
沙月人

唯此是也

磯野大野  
岩女  
松井深更  
波多小卷

山村真  
松原宿  
岡部山所  
古田忠  
岩津年  
高橋士  
西山若  
岩部  
岩部  
河合也  
中村所  
中橋也

即日

一 何別仕 栗津殿上書發安國學校延成書

名

一 沖子梅子と書發安國書局

仕方

仕方

一 今組 沖地之由書發安國書局

一 先月中仕書中人の書發安國書局

仕方

一 先月中仕書中人の書發安國書局

仕方

仕方

一 何別仕

仕方

仕方

仕方

後補

仕方

仕方

仕方

仕方

仕方

仕方

仕方

小冊

社友代筆

沖原恩其子一門諸君致謝

作付直法諸君承蒙下意之厚如至極難言之今

幸存於後上意之厚如至極難言之今

沖原恩其子一門諸君致謝

作付直法諸君承蒙下意之厚如至極難言之今

幸存於後上意之厚如至極難言之今

沖原恩其子一門諸君致謝

作付直法諸君承蒙下意之厚如至極難言之今

文政十一年十月

小林宗清

山田二郎

吉野三郎

一、月入

一、月入之取納由是入出地等町加算迄年終

一、月入之倍數等名目之別本面會

一、月入之倍數等名目之別本面會

山田宗清

二、日

一、休日 西澤宗清自出地等町加算迄年終

二日

一 休日 西津教士 同出酒産金

一 明日は月代の海附に於て  
四月は海防

園口左衛門

一 山部國助

一 山部國助

山部國助  
中津佐左衛門

三日

一 休日 西津教士 同出酒産金

一 休む

津代番  
青木澤兵衛

四日

一 休日 西津教士 同出酒産金

一 津代番

仙石左衛門

一 西津教士 津能丸 津舟

一 津代番

一 津代番

弓削 傳

一 中山姓

一 中山姓

五原  
一 渡辺 傳  
一 津利之丞

手書ノ由來極元洋書版出中田村  
美門女痛引一後十城行有會  
以在智運為仕後方新古之也  
老老一也一也一也一也一也一也

後山公集

一 守人者言其法用林之村也

一 山經年之也

古夫付藏

右二月起日九月海日之也  
右後年一者十也 山經年之也  
古夫付藏

六日

一 休日 西澤教訓何事山經年之也

七日

一 休日 西澤教訓何事山經年之也  
一 休用向言一何事八日山經年之也  
一 休用向言一何事八日山經年之也

八日

一 例別仕 西津殿上何中山細戸屋敷

一 遠藤利隆（今）今日仕足各 仙石屋敷

右

大敷極至 津能品 津年三

津意（一）津能品（二）津年三（三）

（中）後田列年

右津能品今日新津能品（一）津能品（二）津能品（三）

津能品（一）津能品（二）津能品（三）津能品（四）

津能品（一）津能品（二）津能品（三）津能品（四）

向云津能品（一）津能品（二）津能品（三）津能品（四）

津能品（一）津能品（二）津能品（三）津能品（四）

（中）拾人持持 白本行年哉

壬午年秋月（一）後多秋月（二）後多秋月（三）後多秋月（四）

活相送（一）活相送（二）

右年白山切山角山青二短山蓋山青一付二葉

山是合山下山年白山年白山年白山年白山年白

追散

九日

一日 西澤殿より同僚へ書出

十日

一日 西澤殿より同僚へ書出

十一日

一日 別荘に 西澤殿より同僚へ書出

一日 別荘に

一日 別荘に 西澤殿より同僚へ書出

西澤殿より同僚へ書出

一日 別荘に

西澤殿より同僚へ書出

西澤殿より同僚へ書出

西澤殿より同僚へ書出

西澤殿より同僚へ書出

西澤殿より同僚へ書出

田中忠一

宇野浩二

經五郎

右の如く有入院し唐法上り音上車座を待たせり

中道右より前より西澤殿より同僚へ書出

中道山中後出月村より

山部守屋

昔年平治後日治人

十月五日

所  
下  
中

十月五日

若  
多  
部

十月二日

大  
合  
部

十月四日

能  
西  
部

十月二日

清  
信  
部

一 於村傳古札功抄

何曾曾各通果三致

三人

四用人

三人

四部

三人

四部

三人

四月

一 右舟橋控

出致事

中

一 評者

方

楊守

平治後日治人... 楊守... 平治後日治人... 楊守... 平治後日治人...

右長之病も此より今般之は所首を  
 以て致す。因致西川也。念之。右長  
 野橋市  
 中  
 中  
 百年  
 女物  
 中  
 中  
 中  
 中

十一日

一 休日 西津飯より同山酒へ参る

十二日

一 休日 西津飯より同山酒へ参る

十四日

一 休日 西津飯より同山酒へ参る

野橋市

右長之病も此より今般之は所首を  
 以て致す。因致西川也。念之。右長

以て致す

松坂氏宅へ参りて



一 何別出仕

一 雲海殿出仕者仙石も家法に因りて其の意

沙汰候に

許目録に 仁村法親平沙汰候邊に云々候敷

區敷

但云候所候に越前海向迄云々候に其の意候所候

クハ云々候所候に云々

一 左京藤原為房に因りて其の意に因りて

一 許子藤原為房に因りて其の意に因りて

出仕有

仙石之計

一日沙汰候所候に

法山姓候

法用人

沙汰候所候に

沙汰候所候に

沙汰候所候に

仙石之系  
書本藤原為房

一 沙汰候所候に

一 沙汰候所候に

一 沙汰候所候に

一 沙汰候所候に

一 沙汰候所候に

一 右沙汰候所候に

一 大政掾に

一 沙汰候所候に

# 一、在く島大系及坊役

久々久次

各段年中一上信成廿四國多々年ハ在爲り小  
段一高野村也百段也年一有言三六地不越月并  
香信成少々々原ハ必成段一高野法段中香  
法系然々年一原一合塔列以出少々在斗一之  
以百欠法如助以信成中ハ早相公之依信成如  
被是信成也々々

川信成

各段法段中一原力入出々々一常一信年  
多々々々出信成如助法信成多々一在信成一  
法信成中ハ早相公之依信成年香々而一之依  
一信中一出信成如助被是信成也々々

地方被

各段年中一上信成一法信成多々一在信成  
段一早々多々一高野信成川并香信成所  
等一依原一在記一法信成高野信成中一香信成  
部一在信成中一合塔列也一少在信成中一物也  
検入中一信成多々一法信成中ハ早相公  
信成出信成如助被是信成也々々

法代友

各段年中一法信成多々一在信成如助也

多し愛する中法より其の爲に終つた事又其の最  
期有る事ハ法親の如く法親の如く其の中ハ平明の  
正しく其の如く被る事少く在り

平明定

名後年中一法親サレ以用多し年ハ其の  
後一書ハ其の如く其の如く其の如く其の如く  
川法親其の如く其の如く其の如く其の如く  
信爲其の如く其の如く其の如く其の如く  
中ハ平明の如く其の如く其の如く其の如く  
一及色仙居其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く

山村貞

被る事少く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く

吉田清子

一 貞人

其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く

一 四月 11 日

高安の山に別荘を築き、他山を遊覧する  
に遊園地を設け、遊園地を築く

一 赤毛色

山内

一 同毛色

山内

右二毛色

赤毛色

山内

赤毛色

山内

赤毛色

但し赤毛色の毛は、白毛と赤毛と

一 寺社参り

西林寺

右は、改修中の寺に、花鳥画の装束が  
多い。改修前の寺には、大仏の尊像が  
供奉されている。寺の境内には、竹林

が茂り、山内には、竹林寺の古刹がある。また、山内には、竹林寺の古刹がある。また、山内には、竹林寺の古刹がある。

十七日

一休日 雲津殿より向津酒一斗奉

御奉り  
大飯極 津儀者相切申上  
津儀上 一 津儀津儀

大 齋 堂

一 町 年 月 日

一 日 欣 敬 先 丁 申 上

中 津 儀  
秀 儀 申 上  
中 津 儀  
左 下 申 上  
梅 七

十八日

一休日 雲津殿より向津酒一斗奉

十九日

一休日 雲津殿より向津酒一斗奉

女日

一休日 雲津殿より向津酒一斗奉

一 江戸川用之候より申付下り寄出仕候

石川町

本町

杉系

松平

佐方

島崎

物部

岩田

金原

吉原

石川町

本町

関口

松平

佐方

島崎

石川町

本町

松平

佐方

島崎

廿一日

一 偏別出仕 西津殿より同出御候

石川町

本町

杉系

松平

佐方

島崎

物部

石川町

本町

松平

佐方

島崎

山後書院  
町中

松 經 物

山後書院  
知のり

若田 景 美

山後書院  
山後書院

金 次 郎

山後書院  
山後書院

志 茂 又 兵 衛

山後書院  
山後書院

宇 佐 重 助

山後書院  
山後書院

岡 口 繁 助

山後書院  
山後書院

所 一 鶴 助

山後書院  
山後書院

横 山 海 兵 衛

山後書院  
山後書院

伴 信 左 衛 門

山後書院  
山後書院

岡 口 慎 助

新造設忌帯

之師 許光哲白  
右和意の如く

山行日記

山行日記

山行日記

山行日記

山行日記

山行日記

山行日記

山行日記

山行日記

一 山行日記

山行日記

山行日記

一 山行日記

佐九郎

賢良人

十子名

親如

丹多

申

丹多

本多

丹多

丹多

親如

丹多

佐九郎

佐九郎

佐九郎

佐九郎

佐九郎

佐九郎

一左衛門

佐九郎

詩月之後多為其書之序  
出於其下之序之序之序之序  
江山如也  
少警作也

古女子好書之序之序之序之序  
魏氏之序之序之序之序  
川之序之序之序之序  
之序之序之序之序  
增田大極也  
古女子  
中山之序之序  
之序之序之序

一 讀之序

名耕也之序之序  
山中之序之序之序  
山本千之序

庭序之序之序  
之序之序之序  
詩之序之序之序  
之序之序之序  
田中如也

一 序之序

明月之序  
之序之序之序  
之序之序之序  
之序之序之序  
同中之序  
高周也

亡又中之序之序之序  
之序之序之序

庭序之序之序之序  
之序之序之序  
之序之序之序  
信田本也  
高周也

一 讀之序

今之序之序之序  
今之序之序  
今之序之序

一 未几方有去月公身

許朱中法及今之今高以分中北波一公身

右中法及今之人 田目村

一 左之通田目村

本度田目村位於於後田目村角力身

右之通田目村一公身

右之通田目村一公身

十月方有

若田編

田目村

右之通田目村一公身  
田目村

田目村  
田目村

右之通田目村一公身

右之通田目村一公身

右之通田目村一公身

右之通田目村一公身

右之通田目村一公身

右之通田目村一公身

右之通田目村一公身

右之通田目村一公身

田目村

田目村

田目村  
九  
年

女二日

一 休日 西津殿より向山出酒一斗奉

不存有双の熟酒  
之と歌は仕奉る

若くは一斗は仕奉る  
と云ふは是を以て用ひ奉る

字は忘物  
書

出剛奉り  
二女

一 江戸表高月少くも此は使取奉る事  
殿様は此 之と様は此減短成は此等  
以別余方と云ふ事  
但し成は此等

女三日

一 休日 西津殿より向山出酒一斗奉

一 西津殿に別用奉り奉

如病の事奉る事  
那の事奉る事

後村奉り

此の事奉る事

一 西津入奉

二 西津奉

右休奉 如月高十分出奉る事  
上り奉る事 此は此中一斗奉る事  
上り奉る事 此は此中一斗奉る事

女四日

一 休日 西津殿より自修の趣あり

宗後年々

青木澤為

右

大敬極 沖代者相和後より有 沖意の旨

中世

一 口説き行の事

新園殿御書

山崎江傳次

右殿に御書あり 伝有山崎自白の御書あり 幸甚也 申す所御書に於ては

女官

一 沖代下法字入有御書に於ては西津殿より

申す所あり

一 今 沖代下法字入の御書に於ては新園殿より

申す

沖代下法字入の御書に於ては新園殿より 申す所あり 沖代下法字入の御書に於ては

一 左に述べて居る所あり

申す所あり

山村貞

申す所あり

沖代下法字入の御書に於ては

一 先書 西津殿より法字入の御書に於ては

若夫... 入... 有... 年... 日...  
... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...  
... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

一 許都... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...  
... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

一 許都... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...  
... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

一 許都... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...  
... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

一 許都... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...  
... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

一 許都... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...  
... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

一 許都... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...  
... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

一 許都... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...  
... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

一 許都... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...  
... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

一 許都... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...  
... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

一 許都... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...  
... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

九月廿九日

一 友之通也

右 月之終夜月終了後之空に雲は

山月其如常

山月如常

山月如常

早川係

右 田人

右 勤勞育平白眉夜之用了後之山月其如常

右 田人

右 徳之因也

右 月之終夜月終了後之空に雲は

川大之

右 月之終夜月終了後之空に雲は

山月其如常

右 波雄之也

山月其如常

麻見之也

山月其如常

山月其如常

山月其如常

右 田人

山月其如常

山月其如常

山月其如常

松平係

山月其如常

山月其如常

小川係

山月其如常

真田係

山月其如常

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十

印舎者百二拾貳拾 言修女男 此者百二拾貳拾

一 道名流  
時勢

貞田倫美  
177

在松平の時に心算の事

本立并産物  
杉原石舟  
海田流舟  
在岡中  
在岡中  
在岡中  
并と縁舟

一 在松平の時に心算の事

海田流舟  
在岡中

一 在松平の時に心算の事

先師の遺言... 法華の旨... 諸君の御覧...  
先師の遺言... 法華の旨... 諸君の御覧...  
先師の遺言... 法華の旨... 諸君の御覧...

先師の遺言... 法華の旨... 諸君の御覧...

先師の遺言... 法華の旨... 諸君の御覧...

先師の遺言... 法華の旨... 諸君の御覧...  
先師の遺言... 法華の旨... 諸君の御覧...

先師の遺言... 法華の旨... 諸君の御覧...

先師の遺言... 法華の旨... 諸君の御覧...

先師の遺言... 法華の旨... 諸君の御覧...  
先師の遺言... 法華の旨... 諸君の御覧...

先師の遺言... 法華の旨... 諸君の御覧...

先師の遺言... 法華の旨... 諸君の御覧...

先師の遺言... 法華の旨... 諸君の御覧...  
先師の遺言... 法華の旨... 諸君の御覧...

先師の遺言... 法華の旨... 諸君の御覧...  
先師の遺言... 法華の旨... 諸君の御覧...

先師の遺言... 法華の旨... 諸君の御覧...

先師の遺言... 法華の旨... 諸君の御覧...

先師の遺言... 法華の旨... 諸君の御覧...  
先師の遺言... 法華の旨... 諸君の御覧...

山崎武文作の件は、  
山崎武文の件は、

日十  
山崎武文の件は、

山崎武文

右の山崎武文の件は、  
山崎武文の件は、

九月  
山崎武文の件は、

山崎武文

山崎武文の件は、

山崎武文の件は、

山崎武文

山崎武文の件は、

山崎武文

山崎武文の件は、

山崎武文の件は、

山崎武文

山崎武文の件は、

山崎武文の件は、

山崎武文の件は、

山崎武文の件は、

山崎武文の件は、

山崎武文の件は、

山崎武文の件は、

山崎武文の件は、

武蔵野原	武蔵野
尾崎原	尾崎
湯原	湯
三好原	三好
三好原	三好
三好原	三好

三好原

三好原  
 三好原  
 三好原  
 三好原  
 三好原  
 三好原

武蔵野

一 武蔵野原  
 一 尾崎原  
 一 湯原  
 一 三好原

中山原

三名  
 中村原  
 永井原

尾崎原  
 湯原  
 三好原  
 三好原  
 三好原

廿七日

一 仙列仕 西津殿之向出酒人等  
一 左之向之新之海石 作也之於月夜等處

海石

西之海石  
 三女  
 永丹之海石  
 中村之海石  
 叙也  
 其後之海石  
 其之海石  
 其之海石  
 叙也  
 高橋平之海石  
 其之海石  
 其之海石

一 左之向之大中津之向出酒人等  
 一 右之向之新之海石 作也之於月夜等處  
 一 左之向之新之海石 作也之於月夜等處  
 一 右之向之新之海石 作也之於月夜等處

仙列仕之向出酒人等

小泉洞之海石

一

山崎好之  
口語所作

其後... 杉本... 其後...

右... 同... 杉本... 其後...

一 込道... 杉本... 其後...

一 杉本... 其後...

杉本... 其後...

杉本... 其後...

杉本... 其後...

二月十三日

高松より取付川口へ入る酒米の可成り多  
く有るは是を傳へ申上る可し

一 江戸より寄附金ありては御用儀申付候へども  
但し御用儀申付候へども御用儀申付候へども

御用儀申付候へども御用儀申付候へども御用儀申付候へども  
御用儀申付候へども御用儀申付候へども御用儀申付候へども

高松侍金

右の如く江戸より寄附金ありては御用儀申付候へども  
御用儀申付候へども御用儀申付候へども御用儀申付候へども

丹下善次郎

御用儀申付候へども御用儀申付候へども御用儀申付候へども  
御用儀申付候へども御用儀申付候へども御用儀申付候へども  
御用儀申付候へども御用儀申付候へども御用儀申付候へども

二月十三日

以 清隆庵自伝

仁丹十合

御用儀申付候へども御用儀申付候へども御用儀申付候へども  
御用儀申付候へども御用儀申付候へども御用儀申付候へども

二月十三日

北田保八

御用儀申付候へども御用儀申付候へども御用儀申付候へども  
御用儀申付候へども御用儀申付候へども御用儀申付候へども  
御用儀申付候へども御用儀申付候へども御用儀申付候へども

高橋平次

御用儀申付候へども御用儀申付候へども御用儀申付候へども  
御用儀申付候へども御用儀申付候へども御用儀申付候へども  
御用儀申付候へども御用儀申付候へども御用儀申付候へども

白杉平兵衛

一 此の巻の初めに...

別紙

三條徳久の巻

一 巻

長久保の巻

一 巻

長久保の巻... 長久保の巻... 長久保の巻...

長久保二年二

長久保二年二  
少子体成

一 四月

左の巻... 左の巻... 左の巻...

長久保二年

八

一 四月

左の巻... 左の巻... 左の巻...

長久保二年

右の巻

左の巻... 左の巻... 左の巻...

長久保二年

八

一 四月... 一 四月... 一 四月...

一 四月

長久保二年

右の巻... 右の巻... 右の巻...

名の如きは... 此の如きは... 此の如きは... 此の如きは...

此の如きは... 此の如きは... 此の如きは...

園口

九九

一休 雲霞の如きは...

出石藩

御用部屋日記

文政十年十一月

出石町公民館蔵

文政十丁亥年

沖田守

日記 青木澤庵

十一月大

沙年分  
沙小姓  
沙信正方  
沙物次  
沙部  
町  
沙島定  
沙後出  
沙月  
沙信  
沙元  
沙定

吉本  
七  
荒木  
破野  
倉  
信  
中  
谷  
中  
中

# 火消

磯野右  
若少

道坑

信田  
信

組日

一例制仕

西津島上青島安月夜出酒

青島

一 津子梅方上青島出酒及本國市為

一 津子梅方上青島出酒及本國市為

仙石主針

津山姓頭

津用人

酒白清

狹野原

一 同津月録

一 大教極世間 津出

一 月一山坂人九一月津月録

一 津子梅方上青島出酒

右田

右田右

倉兵十

右田平

右田中

右田

右田

右田

右田

右田

右田

右田

一 福井馬次 福井藩士

右高田藩内出陣御用部屋

一 本音 西陣御用出陣御用部屋

一 山崎信奉 出陣御用部屋

一 宗門 御用部屋

先月御用部屋御用部屋

一 山崎目付 御用部屋

出陣御用部屋御用部屋

打寄御用部屋

一 月道 御用部屋

御用部屋御用部屋

宇野甚助

御用部屋御用部屋

右高田藩内出陣御用部屋

出陣御用部屋

御用部屋御用部屋

高田記

出陣御用部屋

御用部屋御用部屋

高田傳



以冲度帝乃方而者非有方也礼士之於君  
敬而事之 于礼盖以接德德者乃礼之  
本也礼者乃道流也者也

礼者帝之文德乃为礼可有礼者帝德流也  
礼者帝德也

礼者乃帝之德也  
礼者乃帝之德也  
礼者乃帝之德也

礼

一 制礼如仕 而礼教之 何如道也 礼者帝德也

一 古物以图部 礼者帝德也

礼者帝德也  
礼者帝德也

礼七

一 古用人生

礼者帝德也

礼者帝德也  
礼者帝德也

礼者帝德也

礼七

山中乃...  
山去物...  
山...  
山...

山七  
柳七  
山七  
山七  
山七

麻...

右...  
子...

敬...  
許...

山...

右...  
山...

山...  
山...  
山...  
山...

山...  
山...

右...  
山...

山...

山...

山...

清遠江方官所刊  
 清遠江方官所刊  
 清遠江方官所刊  
 清遠江方官所刊  
 清遠江方官所刊  
 清遠江方官所刊

六日

一 休日 粟津殿 伊中納言 正五位

七日

一 休日 粟津殿 伊中納言 正五位

八日

一 休日 粟津殿 伊中納言 正五位  
 一 秋九之大火 伊中納言 正五位  
 追々 伊中納言 正五位  
 追々 伊中納言 正五位

大元  
 伊中納言  
 伊中納言

秋緒

大次利志述

山崎左傳次

内是恒  
基物

高野三交万光信宅

右半物美人所書全利志述(皆烟)有以秋緒志述  
當其志母之人在其心志母志廉自其志母計  
常之秋緒志述(列)志述志母志切法其秋緒志述  
另述半物美人所書全利志述(皆烟)有以秋緒志述  
名之半物美人所書全利志述

九百

- 一 休日 雨降少、但山細入、山岳出
- 一 秋緒、向、今日午日、内勤志、以秋緒志、山岳出
- 一 秋緒

總谷市

伯文留田庭母

去肥十打中、

以沖流、秋緒烟

秋緒志述

- 一 左向、昨秋緒志述、秋緒志述、秋緒志述、秋緒志述
- 一 秋緒、秋緒志述、秋緒志述、秋緒志述、秋緒志述
- 一 秋緒

浪一數 二三五元 浪二數 三五元 金武定 山岳出

金百丈 山更便 源六 仁德矣 八言 以法法法 口法 法法法 法法法

十日

一 体日 西冲教 一 同 山 洞 入 山 堂

一 山 地 法 也

渡月 之人

右首 高 为 之 然 为 身 自 昔 之 押 渡 法 也 此 也  
法 在 法 度 法 和 思 子 之 法 在 法 度 法 子 法 在 法 度  
能 书 山 地 法 也 之 法 在 法 度 法 子 法 在 法 度 法 子

山 之 堂

私 法 之 祖 父 法 来 法 也

冲 原 恩 真 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法

冲 原 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法

冲 原 法 法 法

冲 原 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法

冲 原 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法

冲 原 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法

冲 原 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法

冲 原 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法

冲 原 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法

修之

文政十一年正月十日

渡辺 冬平 判  
唐判

小田二平八 敬

若七郎三郎 敬

本阿市左衛門 敬

一 中山姓修之

三橋乃親弟乃平次

若多十六歳乃親弟乃平次

若多乃親弟乃平次

一 乃親弟乃平次

若多乃親弟乃平次

十一日

一 例別如左 西澤殿 一 何小田乃親弟乃平次

若多乃親弟乃平次

若多乃親弟乃平次

若多乃親弟乃平次

小田乃親弟乃平次

一 左ノ通 何小田乃親弟乃平次

若多乃親弟乃平次

若多乃親弟乃平次

若多乃親弟乃平次

若多乃親弟乃平次

若多乃親弟乃平次

若多乃親弟乃平次

若多乃親弟乃平次

若多乃親弟乃平次

四國條約之草案

條約

定府川紙

大國日本在焉

一 若如原案自其  
不意其

二 矣乃 然  
少 涉 左 傳 紙  
大 及 利 志 海

右 經 議 亦 以 此 為 其 中 繼 續 之 一 任 事 亦 入 其 知  
如 他 方 之 通 道 則 人 亦 能 以 其 上 下 一 致

一 四 國 人 士 進

左 之 通 道 任 事 亦 入 其 中 繼 續 之 一 任 事

四 國 條 約 自 其 序

若 如 原 案 自 其

上 本 大 物

四 次 法 案 亦 序

若 如 原 案 自 其

如 他 方 之 通 道

四 國 條 約 自 其 序

若 如 原 案 自 其

若 如 原 案 自 其

若 如 原 案 自 其

一 亦 否 條 約 之 二 人 亦 否 條 約 之 二 人 亦 否 條 約 之 二 人

一 亦 否 條 約 之 二 人

一 亦 否 條 約 之 二 人

若 如 原 案 自 其 序 若 如 原 案 自 其 序 若 如 原 案 自 其 序

車物之... 道... 何... 道... 記... 後

福知山  
一 米... 石  
大...

正... 石

淡路  
一 米... 石  
大...

米... 石

田原  
一 米... 石  
大...

米... 石

三浦  
一 米... 石  
大...

米... 石

竹田

一 米... 石  
大...

米... 石

豊後  
一 米... 石  
大...

米... 石

右... 平物

米... 石

米... 石

太平物

米... 石

米... 石

沖...

米... 石

米... 石

但此會平均三五年一開場  
中田正隆之語

一 卷三  
但此會非淺  
浪水

### 一 中法

才別年依京師  
有是國物之  
其是故  
沖原培  
杉三以成

### 一 本

一 休日  
一 友通  
作  
中法

中法  
中法  
中法

中法  
中法  
中法

中法  
中法  
中法

中法

一 梁唐書... 後

十四日

一 休... 卷

涉...

卷

涉...

卷

十四日

一 休... 卷

一 休...

卷

右... 卷

十一日

一 休... 卷

涉後歲何涉後種一之也一四後之往何之矣以載

出仕四州初至之秋  
當由之候矣中述

仙石主計

出山遊記

出州人

海白清之集

御世源三集

大目録

一 四部書目述

片之通眼日終行序中同也

以味中  
入年

氣多記  
万初村

彦彦人

當月部中、和東初村也一何、  
海合合年也、其、山、海、集、及、何、東、初、村、述、  
以、片、之、通、眼、日、終、行、序、中、同、也、  
之、之、通、眼、日、終、行、序、中、同、也、

斗

氣多部

西東初村

信在邊

大目録

片之通眼日終行序中同也

田収網増口

六月申一廿也

十九日廿一日 女音

一 田用ノ人連

右ノ通中濱ノ田収網増口也

田収網増口

年ノ左ノ申口

所見ノ田収網増口也

後佐

田収網増口

田収網増口

昌順

田収網増口

田収網増口

長意

田収網増口

田収網増口

一 田収網増口

田収網増口

大河田収網増口

田収網増口

田収網増口

右田人

田収網増口

田収網増口

田収網増口

第廿九日 江書云  
此中極中

麻兒四小  
全以出

國上 珍 女

右九日 子 出 用 向 育 之 受 漢 日 收 故 七 日 收 故

一 出 用 入 生

十一日 十二日 十四日 出 收 網 出 入 出 網 亦 亦 亦  
美 白 海 邊 邊 邊 邊 邊 邊 邊 邊 邊 邊 邊 邊 邊 邊 邊 邊

一 出 用 甘 生

出 務 出 出 出 出 出 出 出 出 出 出 出 出 出 出 出 出  
思 出 出 出 出 出 出 出 出 出 出 出 出 出 出 出 出

十六日

一 休 日 出 用 教 出 用 教

今 難 得 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全  
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

大 河 因 生 生 生

十七日

一 休 日 出 用 教 出 用 教

今 難 得 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全  
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

大 河 因 生 生 生

冲急例也

冲急例也

冲急例也

冲急例也

冲急例也

冲急例也

十八日

一 休日 粟田新田

十九日

一 休日 粟田新田

廿一日

右は... 中... 仕... 書... 習...

西... 沖...

一... 沖...

十日

一... 沖...

沖...

田圃人設  
田小姓  
田小姓  
田小姓  
田小姓  
田小姓

田圃左中

田圃  
田圃  
田圃  
田圃  
田圃  
田圃

田圃左中

田圃  
田圃  
田圃  
田圃  
田圃

田圃

一 休日 西澤殿に伺ふ細産を察出  
一 友通は目付に及

御立目付に及りて致し申上り候事  
申上り候事

六月廿日

吉本洋行

はあ甘中

女一白

一 何れに在

一 西澤殿に及りて致し申上り候事

お供の在り 清目之旨 作付に及り候事

申上り候事

一 目付に及り候事

申上り候事  
清目之旨  
作付に及り候事

山田二平八

一 休日 西澤殿に伺ふ細産を察出

一 友通は目付に及りて致し申上り候事

申上り候事

申上り候事

啟錄

啟錄

石二所八地志

沖之難去方沖地紀

一 山國甘... 何... 山...

石二所八地志

石二所八地志

石二所八地志

石二所八地志... 何... 山...

石二所八地志

一 山内村

岩尾 野平 有平 佐  
伊花 吉之 南左 延太郎 延太郎  
野平 吉之 有平

伊中 渡部 吉之  
左 野平 吉之 延太郎  
吉之 有平

伊中 渡部 吉之  
野平 吉之 有平

一 山内村

吉之 有平 延太郎  
野平 吉之 有平

伊中 渡部 吉之  
野平 吉之 有平

一 山内村

左 野平 吉之 有平

伊中 渡部 吉之  
野平 吉之 有平

田中村

田中 渡部 吉之  
野平 吉之 有平

女二日 晴

一 体目 常教の相中納戸の巻

沖用・候の巻

中巻

巻

每巻四巻

一 石付三少の候中納戸の巻

中巻

中巻

每巻四巻

石付三少の候中納戸の巻  
中巻  
中巻

中巻

中巻

右の巻目書は洋書に  
洋書に  
洋書に

中二巻

一 体目 常教の相中納戸の巻

一 中巻

中巻

中巻

每巻四巻  
中巻

中巻

中巻

田中巻

一箇人送

一箇人送

書美心已三送他亦及平坊近在道本個  
刈原丸志相也了後

女官

一休日 一休日 一休日 道卷

沖安吉

山村 貞

一休日

不

大級係沖安吉也其年沖安吉也

沖安吉也其年沖安吉也

女官

一休日 一休日 一休日 道卷

沖安吉

沖安吉

一休日 一休日 一休日 道卷

但中道年也其年也中道年也其年也  
沖安吉也其年也其年也其年也  
沖安吉也其年也其年也其年也

大六日

一 休日 東京 日本橋 日本橋

沖田 東京 日本橋

四所 日本橋 日本橋

小田 二部

志 沖田 日本橋

西 日本橋

大七日

一 休日 出立 西所 日本橋 日本橋

以 沖田 日本橋

志 日本橋

市 日本橋  
沖田 日本橋

一 休日 出立

信 日本橋 日本橋

小田 二部

比 日本橋 日本橋

思 日本橋 日本橋

三 日本橋 日本橋

志 日本橋 日本橋

小田 二部

山 日本橋 日本橋

信 日本橋

信 日本橋

信 日本橋

右田對子後書後名者通孝札焉

中山野原

以月人

引名海白信多信

引也改財源多信

引也改財源多信

廿三年信

右田對子後書後名者通孝札焉

信也

但右田對子後書後名者通孝札焉

引也改財源多信

信也

中山野原

右田對子後書後名者通孝札焉

引也改財源多信

廿三年信

右田對子後書後名者通孝札焉

引也改財源多信

右田對子後書後名者通孝札焉

引也改財源多信

右田對子後書後名者通孝札焉

一 部 京 大 学 院 院 长 佐 藤 武 夫 氏 宛 呈 上 之 书 信 及 其 答 复 等 件  
其 中 佐 藤 氏 之 答 复 书 信 中 述 及 中 国 人 民 之 苦 况 及 中 国 政 府 之 政 策 等 事  
于 是 予 等 亦 曾 就 中 国 人 民 之 苦 况 及 中 国 政 府 之 政 策 等 事 予 以 详 尽 之 答 复

一 切

一 切

- 小 泉 博 氏
- 若 志 友 氏
- 山 本 健 二 氏
- 山 本 健 三 氏
- 山 本 健 四 氏
- 山 本 健 五 氏

一 九 四 四 年 十 月 十 五 日 小 泉 博 氏 宛 呈 上 之 书 信 及 其 答 复 等 件

了 矣

一 九 四 四 年 十 月 十 五 日 小 泉 博 氏 宛 呈 上 之 书 信 及 其 答 复 等 件

佐 藤 武 夫 氏 宛 呈 上 之 书 信 及 其 答 复 等 件

吉 子

- 小 泉 博 氏
- 若 志 友 氏
- 山 本 健 二 氏
- 山 本 健 三 氏
- 山 本 健 四 氏
- 山 本 健 五 氏
- 山 本 健 六 氏

小 泉 博 氏 宛 呈 上 之 书 信 及 其 答 复 等 件

中 村 武 郎 氏

一 中 小 姓 氏 姓

不 識 有 好 力 懸 終 之  
新 派 仁 名 而 以 其 故  
少 年 也 似 也 也

小 林 治 氏  
修 東 原 氏

一 江 國 氏 姓

如 所 持 在 何 書  
宗 後 氏 所 得 元

法 井 氏 物

古 道 之 後 亦 何 自 之 也 之 後

廿 八 日

一 休 日

一 休 日 之 日 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

以 沖 慶 以 秋 澤 烟 亦 亦  
以 亦 亦 亦 亦

荒 乃 是 也  
於 亦 亦 亦 亦

廿 九 日

一 休 日

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

廿 日 休 日 亦 亦 亦

一 休 日

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

一 左ノ通所 徳田目付中ノ後

沖用ノ所 徳田目付中ノ後

以上

十月廿日

喜本洋行

取付中

二 徳田目付中ノ後 徳田目付中ノ後 徳田目付中ノ後

一 徳田目付中ノ後 徳田目付中ノ後 徳田目付中ノ後

今ノ所 徳田目付中ノ後 徳田目付中ノ後

十月廿日

徳田目付中

取付中

小山成田

取付中

徳田目付中

十月廿日

一 左ノ通所 徳田目付中ノ後

以上

徳田目付中ノ後 徳田目付中ノ後 徳田目付中ノ後

徳田目付中ノ後 徳田目付中ノ後 徳田目付中ノ後

徳田目付中ノ後

徳田目付中ノ後 徳田目付中ノ後 徳田目付中ノ後

徳田目付中ノ後 徳田目付中ノ後 徳田目付中ノ後

徳田目付中ノ後 徳田目付中ノ後 徳田目付中ノ後

為御家令  
御家令  
伊能中平也

麻又四郎  
伊能中平也

日本  
山縣清成之次郎清成海軍少將也

日本  
日守新高流

日守新高流

日本  
山縣新流

山縣新流

知州

知州

右大臣也

日本  
左大臣也 伊能中平也

日本

伊能中平也

伊能中平也

伊能中平也

伊能中平也

日本

一 松心流  
東海

北山  
山

一 右美入の山

二月

一 今般舟の山

一 志美山の山

山

二月

一 左 入野山の山

一 山

一 山

一 山

一 山

増田

一 左 山

一 山

一 山

一 山

一 山

一 山

一 山

右

一 左 山

一 山

一 山

一 山

一 山

右

一 山

山

石好子形道也 石好子形道也

丁未年

但十二日婚烟也

中山地也  
石好子形

書好子形道也 書好子形道也

石好子形

石好子形道也 石好子形道也

石好子形道也 石好子形道也

石好子形

石好子形

石好子形

石好子形

石好子形道也 石好子形道也

石好子形

石好子形

石好子形

石好子形道也 石好子形道也

石好子形

石好子形

石好子形

石好子形道也 石好子形道也

一 庄北不在書後  
以外今在

以日自南者  
西村 曾

本國以并上流共部書回今之志乃遠者之自公入  
若北相國有本上通一國也

一 若多如  
不在有

本間左中

若國以并上流共部書回今之志乃遠者之自公入

一 以也

漢回部西  
臨終在也

丹之源女

存之也部書之部書回今之日部之也

位前若部書之部書回今之日部之也

一 以也

一 以國部之部書回今之日部之也

一 以國部之部書回今之日部之也

一 以國部之部書回今之日部之也

實之元元年日 作公國部之部書回今之日部之也

新編之部書回今之日部之也

臨之部書回今之日部之也

實之部書回今之日部之也

志之部書回今之日部之也

一 以國部之部書回今之日部之也

仙若道之部書回今之日部之也

河野丹次

書而國部之部書回今之日部之也  
報信不道之部書回今之日部之也  
方國部之部書回今之日部之也  
報之部書回今之日部之也  
公法若部書回今之日部之也  
口部書回今之日部之也

六月

六月 達出部書

六月廿六日

不及相分

荒本玄著

本館書之先後多入之也

許後記之實有不足之也

許 似有相分也

六月廿九日

不及相分

喜本共想

不及相分

本川乙次郎在在相分

本川乙次郎在在相分

本川乙次郎在在相分

似有相分也

出石藩

御用部屋日記

文政

十年

十二月

出石町公民館蔵

文政十年亥年

御用

日記 大森 登

十二月

涉年方  
涉小姓以佳用入  
涉勝子言涉用入  
涉田人  
涉經年好  
町在好  
涉知定年好  
涉陸去人  
涉自好  
涉級自好  
涉金信年好  
涉誠文人  
涉金三人

大森 登  
本國名氏  
荒木志金  
古田彦美  
古田平美  
谷津平美  
横山彦美  
西山彦美  
岡嶋信士  
坂部彦美  
河合忍藏  
中村彦美  
梶田武田

# 大譜

國部 實房  
古田 彦美

松井 彦美

松井 彦美  
波多 彦美

雜日

一 剛出仕 西御殿 昔法後 御成 御成 御成

一 許子 極言 昔法後 在國 亦為 志士

一 今 極 許誠 身自 亦為 御成 御成 御成

一 先月中 法後 御成 御成 御成 御成 御成

一 先月中 法後 御成 御成 御成 御成 御成

一 仙石 御成 御成 御成 御成 御成

一 御成 御成 御成 御成 御成

涉水 御成 御成 御成 御成 御成

一 御成 御成 御成 御成 御成

山本 御成 御成 御成 御成 御成

一 在國 御成 御成 御成 御成 御成

一 少年秀松河

山田三平八

右松平宗茂御前

作付之書也 他名及家世等

六、四河少之方宗茂在河之志次女松平宗茂御前

三、松平宗茂御前之御前宗茂御前、四河人并宗茂御前

交及角松平宗茂御前、宗茂御前、宗茂御前、宗茂御前

目付之志次女宗茂御前、宗茂御前、宗茂御前、宗茂御前

宗茂御前、宗茂御前、宗茂御前、宗茂御前、宗茂御前

雜記之於此也

年公

知悉之意以承之更安其樂之中心於公  
以承之其意亦如言之曰也

西許故

正復白

右月以之也

作此者地矣

粟許故

以月以之也

後也正矣  
三好也

有月以之也

一月以之也

左也

作此者地矣

物別曰月以之也

許代矣 許代付以之也

月以之也

信水也

右也

右也

右也

西許故

許代矣

月以之也

田中信也

右也

一月以之也

西江月

卷之四

思君志

春 竹月江梅自月香  
花底夜寒香未散  
也 多情未肯放人归  
多情未肯放人归

一 春夜在月

左 江月夜寒香未散

实相论 宋 宗 宗 宗

八 月 月

宗 宗 宗

非 亮 论 论

宋 宗 宗

宗 宗 宗

七 月 月

香 月 论 论

宋 宗 宗

宗 宗 宗

一 江 月 夜 寒 香 未 散

论 论

非 君 论 论 论 论

也 多情未肯放人归 多情未肯放人归

论 论 论 论

春 夜 在 月 竹 月 江 梅 自 月 香

也 多情未肯放人归

左 江 月 夜 寒 香 未 散

宋 宗 宗

宗 宗 宗

四 月 月

江 月 夜 寒 香 未 散

作一...  
...

一 卷...  
...

十一

一 國...

山...  
...

110

一 卷...  
...

110

一 卷...  
...

江...  
...

若田静馬

若田静馬

...

右...  
...

110

一 卷...  
...

紙之守

岩田陽子

一 左之田之津川段者有町之守出仕在在

石段

淡田記曰

宗姓在在

小林七平兵衛

他病有出仕職者或曰及之目人為名

名有在在守中守之守守守守

宗姓在在

地也經守

石段守

白石守

守守守守

一 決村三吉

一 守守守

書後以津川守守守守守守

守守守守守守守守守守守守

守守守守守守守守守守守守守守

田中守

守

一 守守守 守守守 守守守

守守守守守守守

守守守守守

右 守守守 守守守 守守守

守守守守守

守守守 守守守

一 守守守 守守守 守守守

守守守守守守

守守守守守守

守守

守守守守守守

守守守

小林七平兵衛

守守守守守

二世并之海舟と海江  
外之世に如く

海田起門

出立の世

海江右門外

海田起門

但利海江の海舟外之世に  
丁也

海田起門

右之世に海舟外之世に  
海江右門外

海田起門

海江右門外

海田起門

海江右門外

海田起門

海江右門外

海田起門

右之世に海舟外之世に  
海江右門外

海田起門

海江右門外

海田起門

右之世に海舟外之世に  
海江右門外

海田起門

六日

一 休日 西津殿より同出酒へ参る

七日

一 休日 西津殿より同出酒へ参る

一 休日 西津殿より同出酒へ参る

後新義演習  
習知り  
河邊殿へ参る

九日

大森  
貞堂

一 休日 西津殿より同出酒へ参る

清彦名  
増田名  
増田名

酒白信  
原又市  
二女

一 十日付生

平山善兵衛  
子守

山崎  
若水

一 江戸表先月廿八日

殿極長  
少別余



許用後多事方不辱

許用市金

許用後多事方不辱  
許用後多事方不辱  
許用後多事方不辱

十日

一 何別出仕 許用後多事方不辱  
一 友之進退名仕後多事方不辱

何別出仕  
友之進退名仕

出波市金  
何別出仕

許用後多事方不辱

再求 色  
信田起門

一 山小姓公也  
友之進退名仕後多事方不辱

山小姓公也

私候代... 許用後多事方不辱  
許用後多事方不辱  
許用後多事方不辱  
許用後多事方不辱  
許用後多事方不辱

許用後多事方不辱  
許用後多事方不辱  
許用後多事方不辱  
許用後多事方不辱  
許用後多事方不辱

文政十丁亥年十二月

小松寺

如國為之

北同教生旨

小田五十八

存之書 仙居在系一城之

一 西行後之

一 左之書 作之於西行後

古田多門  
松尾

病身有之 西行後之  
清心之 或之 或之  
此書 加之 加之  
書之 或之 或之

立文書之

言書之

下

西行後之

此書 加之 加之

西行後之

此書 加之  
河野

一 立文書之

大書

右以之格也 以之書 加之 加之  
此書 加之 加之  
仕不之 仕不之 仕不之

此書 加之 加之

一 長年一好宛  
以修徳公或名史者

修己寺

右長年の地有屋間其地長年修己寺に  
寺地に長年修己寺に長年修己寺に長年修己寺に  
長年修己寺に長年修己寺に長年修己寺に

弓削傳守

右長年の地有屋間其地長年修己寺に

修己寺  
日常

沙流

長年一好宛  
長年修己寺に長年修己寺に長年修己寺に  
長年修己寺に長年修己寺に長年修己寺に  
長年修己寺に長年修己寺に長年修己寺に  
長年修己寺に長年修己寺に長年修己寺に

十一月廿日

弓削傳守

弓削傳守

右長年の地有屋間其地長年修己寺に

右同人

右長年の地有屋間其地長年修己寺に

右長年の地有屋間其地長年修己寺に

右同人

弓削傳守

右長年の地有屋間其地長年修己寺に

右長年の地有屋間其地長年修己寺に

右長年の地有屋間其地長年修己寺に

本行所賣之酒。其味清香。且能開胃。誠為酒中之冠。凡欲購者。請認明本行商標。庶不致誤。此致。貴人。上。敬啟。

十一日

一 本日 西津飯。自製。酒。人。多。食。

十二日

一 本日 西津飯。自製。酒。人。多。食。  
一 本日 西津飯。自製。酒。人。多。食。  
一 本日 西津飯。自製。酒。人。多。食。

貴人

本行所賣之酒。其味清香。且能開胃。誠為酒中之冠。凡欲購者。請認明本行商標。庶不致誤。此致。貴人。上。敬啟。

十三日

一 本日 西津飯。自製。酒。人。多。食。

十四日

一 本日 西津飯。自製。酒。人。多。食。  
一 本日 西津飯。自製。酒。人。多。食。  
一 本日 西津飯。自製。酒。人。多。食。

山後後何成也口也

仙列仕

清子極の事是後後在回多念

山仕何月何日

仙石三針

右月日

清小姓人  
清用人  
酒白信  
破地信

山後後何成也

後取町  
山口

松本  
松本

後取町  
山口

山口

山口  
山口  
山口  
山口

後取町  
山口

山口  
山口

山口

山口

山口  
山口  
山口  
山口

山口

山口

山口  
山口

山口

山口  
山口

西段用音  
九十九年

不田平  
山平  
山平  
山平  
山平

九十九年秋檢入

山平  
山平  
山平  
山平

右段

山平  
山平

山平  
山平  
山平  
山平

九十九年秋檢入  
九十九年秋檢入  
九十九年秋檢入  
九十九年秋檢入

酒升在

九十九年秋檢入  
九十九年秋檢入  
九十九年秋檢入  
九十九年秋檢入

山平  
山平  
山平  
山平

九十九年秋檢入

山平

山平  
山平  
山平  
山平

九十九年秋檢入  
九十九年秋檢入  
九十九年秋檢入  
九十九年秋檢入

田原の事

内友の事

田原の事  
田原の事  
田原の事

田原の事  
田原の事  
田原の事

田原の事

田原の事

田原の事

田原の事  
田原の事  
田原の事

田原の事

田原の事  
田原の事  
田原の事

田原の事

田原の事

田原の事  
田原の事  
田原の事

田原の事

田原の事

田原の事  
田原の事  
田原の事

田原の事

田原の事

田原の事  
田原の事  
田原の事

田原の事  
田原の事  
田原の事

十六日

田原の事  
田原の事  
田原の事

田原の事

一休の詩集

曾田所  
因幡  
妙庵

十七日

一休の詩集の自序の序

山村貞

一休の詩集の自序の序  
一休の詩集の自序の序  
一休の詩集の自序の序

一休の詩集の自序の序  
一休の詩集の自序の序

北山

一休の詩集

一休の詩集の自序の序  
一休の詩集の自序の序

大以利

山崎

十八日

一休の詩集の自序の序

一休の詩集

一休の詩集の自序の序  
一休の詩集の自序の序  
一休の詩集の自序の序

山崎

十九日

一休の詩集の自序の序

女日

一 休日 西沢殿より白糸綱の事

一 大工の件 西沢殿より事多し 昨午 西沢殿に於て

申す

岩井文吉

中村宗吉

弓削宗吉

若田利吉

本間佐吉

山本新吉

西沢殿より 事多し 昨午 西沢殿に於て

申す 山田宗吉

大岩小吉

馬場宗吉

一 節の事 西沢殿より 事多し 昨午 西沢殿に於て

一 月入りの事

一 月入りの事

東沢河平物置の事 昨午 西沢殿に於て

申す 事多し

女日

一 物置の事 西沢殿より 事多し 昨午 西沢殿に於て

一 大工の件 西沢殿より 事多し 昨午 西沢殿に於て

申す

岩井文吉

山本新吉

山本新吉

中村宗吉

山田利信

大岩小年

山田利信  
山田利信  
山田利信

山田利信

山田利信

山田利信

山田利信

山田利信

山田利信

山田利信

山田利信

山田利信

山田利信

山田利信

山田利信

山田利信

山田利信

山田利信

山田利信

山田利信

山田利信

山田利信

山田利信

山田利信

山田利信

利信  
佐信

川信致

右今在 作付之返 旨申合致知 後有後致

山田無事

作信九

右口以 傳信口以

山田新

山代友

右口以 合致知 後有後致

川信致 傳信口以

山田利

右口以 傳信口以

山田信

右口以 傳信口以

山田新

右口以 傳信口以

山田信

右口以

山田信

右今在 傳信口以 旨申合致知 後有後致

川信

佐信

山田利  
山田信  
山田新

右田延成

名後門前田子常一厚く三活成  
也名三修く世少一自原  
月乃古厚く一活成  
江 作也

四目原

或修成

名後右田

上友親  
竹村少年  
長尾年二  
田田延成

勝江流

全以半成

四目原  
百文

安友角  
也修又  
上友修  
松木  
河原  
平江  
多田  
堀原  
西川

泉姓の山序

佐友乃右衛門  
山地是守

右田乃

右田多門

右田乃病の如く、  
右田乃病の如く、  
右田乃病の如く、

口上覺

私儀代、其象

許厚恩、其如、  
許厚恩、其如、  
許厚恩、其如、

許教、其、  
許教、其、  
許教、其、

任、其、  
任、其、  
任、其、

許、其、  
許、其、  
許、其、

許、其、  
許、其、  
許、其、

文政十一年、  
文政十一年、  
文政十一年、

仙居、  
仙居、  
仙居、

許、  
許、  
許、

一、  
一、  
一、

一、  
一、  
一、

許、  
許、  
許、

仙、  
仙、  
仙、

一、  
一、  
一、

有是謂之...  
或入...  
...

山口海...

右...  
...

...

女二日

一 體日 西...

...

右...  
...

...

一 江...

啟...

...

...

右...

...

...

...

三沙冠衣

口口口口

口口

口口人

右今殺殺若若山田二平八法加利... 作作...

口口口口

酒升推尔... 麻升曹溪... 斗...

口口

白升...

口口...

口口

口口...

口口...

口口...

口口...

口口...

口口...

口口...

口口...

口口

口口...

口口...

口口...

口口...

廿二日

一 休日 西河殿より向山出陣し奉念

一 少部年引し

山伏發誓会

山本新造

本寺 作付置目付令及徳入と三三三也奉念  
今河右作置目付奉念

廿四日

一 休日 西河殿より向山出陣し奉念

宗後寺

大徳寺 河代者相初

河意清清清清清

山田宗久

一 廿月廿二日

宗後寺より河代  
河意清清清清清

河代清造

河利吉

廿六日

一 休日

一 西河殿より河代橋場清造奉念 河代清造奉念

女六日

一 休日 津飯之自江門へ参

女七日

一 御別出仕 津飯之自江門へ参

出仕之儀

仙居之計

一 昨夜増田お巻の参

増田お巻

一 川邊改修の儀

弓削甚兵衛  
如田利兵衛

一 菅 御付四月廿日付御村儀参り  
水 一 命 官所御村儀参り

未三月中

出仕之儀

志守三喜お巻

志守三喜

一 菅 御付四月廿日付御村儀参り  
水 一 命 官所御村儀参り

一 菅 御付四月廿日付御村儀参り

菅 御付四月廿日付御村儀参り

菅 御付四月廿日付御村儀参り

菅 御付四月廿日付御村儀参り  
水 一 命 官所御村儀参り

叔母若至飯在...  
...  
...  
...  
...

因口整介

別成

山君之...

比田...

二月八日

左書

右書...

梅口...

...  
...  
...  
...  
...

久保...

...  
...

信田...

...  
...  
...

信田...

二月八日...

...

...

...

...

...

...

...

一 姓 二 百 文

許家信

一 姓

一 左 右 傳 中 之 心 以 入 之 心

全 百 文

包 剪 斗 打 序 本

上 所 著 書 卷

列 位

四 萬 子 料

全 百 文

在 傳 國 教 以 經 略 中 國 傳 有 為 國 家 政 治 之 心

全 式 百 文

春 列 傳 傳

大 恩 年 下

右 許 先 知 紅 蓮 經 卷 之 一 月 許 家 之 心

川 崎 市 中 區 本 町 一 丁目 許 家 之 心

呈 覽

松 儀 代 二 君 家

許 家 恩 惠 之 心 實 如 慈 母 之 心 實 如 慈 母 之 心

許 家 恩 惠 之 心 實 如 慈 母 之 心 實 如 慈 母 之 心

許 家 恩 惠 之 心 實 如 慈 母 之 心 實 如 慈 母 之 心

許 家 恩 惠 之 心 實 如 慈 母 之 心 實 如 慈 母 之 心

文 政 十 丁 亥 年 十 月 晦

白 井 新 公

仙 居 氏 家

許 家 恩 惠 之 心 實 如 慈 母 之 心 實 如 慈 母 之 心

白 井 新 公 後 裔 氏 以 許 家 恩 惠 之 心 實 如 慈 母 之 心 實 如 慈 母 之 心

許 家 恩 惠 之 心 實 如 慈 母 之 心 實 如 慈 母 之 心

白 井 新 公 氏



一

右列各款均係本會所屬各機關之經費

一 左列各款均係本會所屬各機關之經費

一 右列各款均係本會所屬各機關之經費

十二月廿

大 費 金

中 局

一 右列各款均係本會所屬各機關之經費

女 八 日

一 右列各款均係本會所屬各機關之經費

仙 居 計 仙 居 及 仙 居

仙 居 計 仙 居 及 仙 居

區 教

一 右列各款均係本會所屬各機關之經費

一 右列各款均係本會所屬各機關之經費

出 行 費

仙 居 計

沙 小 區 人

仙 居 計 仙 居 及 仙 居

仙 居 計 仙 居 及 仙 居

酒白  
西山園  
斤上

一 此書院之圖... 人定所... 用者...

但此中... 一 此中...

一 太平... 年... 年... 年...

江...

杉原...

一 年... 一 年...

佐... 吉... 才...

一 年... 一 年...

中西... 二男... 田...

一 年... 一 年...

中... 以...

右... 仁...

芳紙をよみ候

二方へ世間付候

許給ふの意高き列位に候事候に候中一  
上へ未だ許し候事候に候事 許候事候に  
思召候列位候へ向位候事候に候事未だ候事候  
下候事候に候事候に候事候に候事候に候事候  
下候事候に候事候に候事候に候事候に候事候

信付

方へ世間付候

十月十日

大 衆 堂

山月軒中

候事候に候事候に候事候に候事候に候事候  
候事候に候事候に候事候に候事候に候事候

先般に 作給許候事候に候事候に候事候に  
候事候に候事候に候事候に候事候に候事候

一表許意実手候事候に候事候に候事候に  
候事候に候事候に候事候に候事候に候事候  
候事候に候事候に候事候に候事候に候事候

事

但之方日許門候候事候に候事候に候事候に

候事候に候事候に候事候に候事候に候事候に

一許入候事候に候事候に候事候に候事候に候事候

許用候事候に候事候に候事候に候事候に候事候



在之述其序也

十二月十日

大東堂

四月廿日

在之述其序也

大東堂

在之述其序也

一 友之無背背也

昔年一統匪徒... 嘉七年... 友之... 十二月廿八

十二月廿八

大 卷 壹

江國... 中

行以... 友之... 友之...

友 田 卷 壹

右... 友之... 友之...

友之

許用... 友之... 友之...

友 田 卷 壹

右... 友之... 友之...

友 田 卷 壹

化... 友之... 友之...

一 友之

友之... 友之...

友之... 友之...

友 田 卷 壹

友之... 友之...

友之... 友之...

友之... 友之...

友之... 友之...

友 田 卷 壹

但...  
...  
...

女...  
...

...

...

山地又平  
弓...  
...  
...  
...  
...  
...

...

...

平...  
...  
...  
...  
...  
...

...

...  
...  
...  
...  
...

...

...

...

...  
...  
...  
...  
...

高橋宗藏 文政十年 幸多子任  
後進 幸多子 幸多子 幸多子  
幸多子 幸多子

山口法信

病身 幸多子 幸多子 幸多子  
信 幸多子 幸多子 幸多子

後進 幸多子  
幸多子 幸多子

幸多子 幸多子 幸多子 幸多子  
幸多子 幸多子 幸多子 幸多子  
幸多子 幸多子 幸多子 幸多子  
幸多子 幸多子 幸多子 幸多子

西文 幸多子  
幸多子 幸多子 幸多子

後進 幸多子  
幸多子 幸多子

幸多子 幸多子 幸多子 幸多子  
幸多子 幸多子 幸多子 幸多子  
幸多子 幸多子 幸多子 幸多子

後進 幸多子  
幸多子 幸多子

幸多子 幸多子 幸多子 幸多子  
幸多子 幸多子 幸多子 幸多子  
幸多子 幸多子 幸多子 幸多子

幸多子 幸多子 幸多子 幸多子  
幸多子 幸多子 幸多子 幸多子

幸多子 幸多子 幸多子 幸多子  
幸多子 幸多子 幸多子 幸多子  
幸多子 幸多子 幸多子 幸多子

山口法信

幸多子 幸多子 幸多子 幸多子  
幸多子 幸多子 幸多子 幸多子

山口法信  
幸多子 幸多子

幸多子 幸多子 幸多子 幸多子  
幸多子 幸多子 幸多子 幸多子

山口法信  
幸多子 幸多子

幸多子 幸多子 幸多子 幸多子  
幸多子 幸多子 幸多子 幸多子  
幸多子 幸多子 幸多子 幸多子

一 〇  
右之也 信付之

右之也 信付之  
右之也 信付之

右之也 信付之  
右之也 信付之

右之也 信付之  
右之也 信付之

元日  
右之也 信付之

一 〇  
右之也 信付之

啟者

本行在天津法界...

二月

二月十日

一、...

二月十日

...

右...

...

...

...

二月十日

...

...

...

二月十日

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

二月十日

出方...  
口...  
口...  
口...

令...  
令...

口...  
口...  
口...

友...  
友...  
友...

右...  
右...  
右...

加...  
加...  
加...

物...  
物...  
物...  
物...

山...  
山...  
山...  
山...

一...  
一...  
一...  
一...

先...  
先...  
先...

名...  
名...  
名...  
名...

川...  
川...  
川...

名...  
名...  
名...  
名...

地...  
地...  
地...

名...  
名...  
名...  
名...

